裁縫新教科書 上卷

159
2
110

Kodak Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Kodak Color Control Patches
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
© Kodak, 2007 TM: Kodak

戦陣教科書 上巻

159
2
110

共立女子職業學校 楊友會裁縫研究部編

裁縫教科書 上卷

東京 大日本圖書株式會社

159-110

凡例

一本書は實科高等女學校用を主とし、高等女學校女子師範學校用の裁縫教科書として編纂したるものにして、分ちて上下二卷となせり。

一教材は文部省所定の教授要目に據りたれども、更に本部が多年研究したる實地の成績と教授の理論とに照らして其の序次を定めたり。

一小細工物の如き嚴密に序次を定めがたきものは、便宜一括して之れを卷末に置きたり。教授者宜しく適當に選擇按排して之れを教授すべし。

一學校の種類により教授時數を異にし、隨ひて教授事項にも自

大正 8 4 17 内交

ら繁簡の別あり。故に教授者は本書記載のものにつき、或る事項は反復實習せしめ、或る事項は單に參考に止むる等適當に斟酌する所あるべし。

大正七年三月

共立女子職業學校櫻友會裁縫研究部
代表者　中川とう識

裁縫新教科書　上卷

目次

第一章　總論……一
第二章　裁縫の基礎的技術……五
第一　運針……五
第二　絲の結び方……七
第三　絲の留め方……八
第四　絲の繼ぎ方……九
第五　縫ひ合せ方……一〇
第六　躾の掛け方……一五
第七　紆け方……一六
第八　衣類仕立の心得……一八

第三章　單衣襦袢……二一
第一節　本裁襦袢……二一
第一　本裁襦袢各部の名稱……二二
第二　本裁襦袢普通仕立上げ寸法……二三
第三　本裁襦袢裁ち方・積り方……二四
第四　本裁女襦袢標附け方……二六
第五　本裁女襦袢縫ひ方順序……二七
第二節　四つ身襦袢……二九
第一　四つ身襦袢普通仕立上げ寸法……二九
第二　四つ身襦袢裁ち方・積り方……三〇
第三節　三つ身襦袢……三一
第一　三つ身襦袢普通仕立上げ寸法……三一
第二　三つ身襦袢裁ち方・積り方……三二

第四節　一つ身襦袢……三三
第一　一つ身襦袢普通仕立上げ寸法……三三
第二　一つ身襦袢裁ち方・積り方……三三
第四章　本裁女單衣……三三
第一　女單衣各部の名稱……三四
第二　本裁女單衣普通仕立上げ寸法……三六
第三　本裁女單衣裁ち方・積り方……三七
第四　部分縫　袖……四〇
第五　本裁女單衣標附け方……四二
第六　本裁女單衣縫ひ方順序……四四
第五章　本裁男單衣……四九
第一　本裁男單衣普通仕立上げ寸法……四九
第二　本裁男單衣裁ち方・積り方……四九

第三　部分縫　揚……五〇
第四　本裁男單衣標附け方……五一
第五　本裁男單衣縫ひ方順序……五二
第六　本裁單衣各種裁ち方・積り方……五三

第六章　中裁小裁單衣……五六

第一節　四つ身單衣……五六
第一　四つ身單衣普通仕立上げ寸法……五六
第二　四つ身單衣裁ち方・積り方……五七
第三　四つ身單衣標附け方……五九
第四　四つ身單衣縫ひ方順序……六一

第二節　三つ身單衣……六三
第一　三つ身單衣普通仕立上げ寸法……六三
第二　三つ身單衣裁ち方・積り方……六三
第三　部分縫　筒袖・元祿袖……六六

第四　三つ身單衣標附け方・縫ひ方順序……六八

第三節　一つ身單衣……六九
第一　一つ身單衣普通仕立上げ寸法……六九
第二　一つ身單衣裁ち方・積り方……七〇
第三　部分縫　濶袖……七二
第四　一つ身單衣標附け方……七三
第五　一つ身單衣縫ひ方順序……七四

第四節　中裁小裁單衣各種裁ち方・積り方……七六

第七章　綿布の繕ひ方……八三
第一　接ぎ方……八三
第二　繼ぎ方……八五

第八章　本裁女袷……八六
第一　本裁女袷各部の名稱……八七

第二　本裁女袷裁ち方・積り方……八八
第三　部分縫・袖・褄……九〇
第四　本裁女袷標附け方……九六
第五　本裁女袷縫ひ方順序……九七

第九章　本裁男袷……九九
第一　本裁男袷裁ち方・積り方……九九
第二　本裁男袷標附け方……一〇一
第三　本裁男袷縫ひ方順序……一〇二

第十章　四つ身袷……一〇四
第一　四つ身袷裁ち方積り方……一〇四
第二　四つ身袷標附け方・縫ひ方……一〇五

第十一章　本裁女綿入……一〇八
第一　本裁女綿入裁ち方・積り方……一〇八

第二　部分縫　袖・褄……一〇九
第三　本裁女綿入標附け方、縫ひ方順序……一一三

第十二章　本裁男綿入……一一九
第一　本裁男綿入裁ち方・積り方……一一九
第二　本裁男綿入標附け方・縫ひ方順序……一一九

第十三章　一つ身綿入……一二一
第一　一つ身綿入裁ち方・積り方……一二一
第二　部分縫　溜袖……一二三
第三　一つ身綿入標附け方・縫ひ方順序……一二四

第十四章　本裁・中裁・小裁の各種裁ち方・積り方……一二四

第十五章　長襦袢……一三一
第一　袷長襦袢各部の名稱……一三二

第二　袷長襦袢普通仕立上げ寸法……一三三
第三　袷長襦袢裁ち方・積り方……一三三
第四　袷長襦袢標附け方……一三六
第五　袷長襦袢縫ひ方順序……一三九

第十六章　女袴……一四一

第一　女袴各部の名稱……一四一
第二　本裁女袴(後三つ襞)普通仕立上げ寸法及び各部寸法割出し方……一四四
第三　本裁女袴(後三つ襞)裁ち方・積り方……一四五
第四　本裁女袴(後三つ襞)標附け方……一四七
第五　本裁女袴(後三つ襞)縫ひ方順序……一四九
第六　本裁女袴(後一つ襞)……一五四
第七　本裁女袴(後重ね襞)……一五七
第八　中裁・小裁女袴普通仕立上げ寸法……一五八
第九　中裁・小裁女袴裁ち方・積り方……一五九

第十七章　本裁女綿入羽織……一六二

第一　本裁女綿入羽織各部の名稱……一六二
第二　本裁女綿入羽織普通仕立上げ寸法……一六三
第三　本裁女綿入羽織裁ち方・積り方……一六三
第四　部分縫・身頃・襠・衿……一六六
第五　本裁女綿入羽織標附け方……一七一
第六　本裁女綿入羽織縫ひ方順序……一七四

第十八章　本裁男綿入羽織……一七六

第一　本裁男綿入羽織普通仕立上げ寸法……一七六
第二　本裁男綿入羽織裁ち方・積り方……一七七
第三　本裁男綿入羽織標附け方・縫ひ方順序……一七八

第十九章　本裁袷羽織……一七九

第一　本裁男袷羽織……一七九

第二　本裁女袷羽織……一八三
第三　本裁羽織各種裁ち方・積り方……一八四

第二十章　中裁・小裁綿入羽織……一八七

第一節　四つ身綿入羽織……一八八
第一　四つ身綿入羽織普通仕立上げ寸法……一八八
第二　四つ身綿入羽織裁ち方・積り方……一八八
第三　四つ身綿入羽織標附け方・縫ひ方順序……一九〇
第二節　三つ身綿入羽織……一九〇
第一　三つ身綿入羽織普通仕立上げ寸法……一九〇
第二　三つ身綿入羽織裁ち方・積り方……一九一
第三節　一つ身袖無綿入羽織……一九二
第一　一つ身袖無綿入羽織普通仕立上げ寸法……一九二
第二　一つ身袖無綿入羽織裁ち方・積り方……一九二
第三　一つ身袖無綿入羽織標附け方……一九四
第四　一つ身袖無綿入羽織縫ひ方順序……一九五
第四節　中裁・小裁羽織各種裁ち方・積り方……一九六

第二十一章　子供腹掛・寢冷え知らず……二〇〇

第一節　子供腹掛……二〇〇
第一　子供腹掛裁ち方……二〇〇
第二　子供腹掛縫ひ方順序……二〇〇
第二節　寢冷え知らず(二・三歳用)……二〇一
第一　寢冷え知らず(二・三歳用)裁ち方……二〇一
第二　寢冷え知らず(二・三歳用)縫ひ方順序……二〇二
第三節　寢冷え知らず(五・六歳用)……二〇三
第一　寢冷え知らず(五・六歳用)裁ち方……二〇三
第二　寢冷え知らず(五・六歳用)縫ひ方順序……二〇四

第二十二章　婦人股引……二〇五
第一　婦人股引……二〇五
第二　襠附婦人股引……二〇七
第二十三章　手提……二〇九
第一　輕便手提……二一〇
第二　輕便底附手提……二一一
第三　籠千代田……二一四

——（目次終）——

裁縫新教科書　上卷

第一章　總論

衣類の裁縫とは、總べて、布帛の積り方・裁ち方・縫ひ方及び繕ひ方等をいひ、何れの家庭にありても、必要ならざるはなし。又これらは女子に適當せる仕事にして、我が國に於ては、古來之れを以て女子の修むべき技藝中、最も重要なるものとなせり。

衣類の裁縫は、衣類の種類によりて、其の方法を異にするのみならず、材料の品質により取扱ひを違へざる可らず。されば、裁縫を修むる者は、諸種の衣類に亘りて、其の方法を攻究すべきは

勿論、各種の材料につきて、それ〴〵の取扱ひ方を學ぶべきなり。

運針は縫ひ方の基本にして、其の習熟の如何は裁縫の巧拙遲速に關すること最も大なり。されば、運針は獨り初學に於て大に之れを努むべきのみならず、上級に至りても、尙ほ常に其の練習を怠るべからざるなり。

衣類は部分によりて、其の扱ひ方を異にせるが故に、各種の衣類につき、所謂部分縫の練習に力を用ふることは、技藝の上達に頗る必要なり。

衣類の裁ち方・積り方は、衣類を調製するに當り、第一に心得置かざるべからざることなり。而して、其の裁ち方・積り方は、布幅の廣狹、或は兩面・片面等の相違により、多少の工夫を要すべし。されば、先づよく其の普通なる方法を會得して之れを諳記し、然る後ち、之れを種々の布帛に應用せんことを努むべし。

要するに、技藝の熟達を圖るには特に反覆練習を肝要とす。故に、之れを學ぶ者は、成るべく寸暇を利用して練習を積み、以て神速巧妙の域に達せんことを心掛くべし。

一　裁縫用具

裁縫用具の主なるものを擧ぐれば、左の如し。

針　針箱　裁板　尺度　鋏　指貫　箆　火熨斗　アイロン　烙鏝　烙鏝板　霧吹　火熨斗蒲團

其の外、衣紋掛・綿延臺・帶締器・續飯板・續飯箆・目打・錐・鑿・孔穿臺・槌の如きも、時に必要あるが故に、豫め備へ置くを宜しとす。

針には、普通針・印針・メリケン針等の種類あり。之れを用途に

よりて區別すれば、縫針（長さ凡そ一寸）・待針（長さ凡そ一寸九分）・絎針（長さ凡そ一寸六七分）・綴針（長さ凡そ二寸）等となる。縫針は摘みて指貫に當て、指頭より凡そ二分程長きを適度とす。

二　絲

裁縫に用ふる絲の主なる種類を擧ぐれば左の如し。

一、縫絲（ぬひいと）　木綿絲　唐絲　小町絲　絹絲　麻絲
二、躾絲（しつけいと）　唐絲　絹絲（ゾベ）　麻絲　唐麻絲
三、飾絲（かざりいと）　練繰（ねりぐり）　太白（たいはく）　蛇腹絲（ちやばらいと）
四、ミシン絲　カタン絲　羽二重絲　孔絲

三　衣類

普通衣類に屬するものの名稱を擧ぐれば、大畧左の如し。

襦袢　單衣　袷　綿入　帶　綿入羽織　袷羽織　單羽織
袴　被布　合羽　コート　涎掛　前掛　シャツ　ズボン下
足袋　腹掛　股引　脚半　夜着　蒲團　蚊帳

第二章　裁縫の基礎的技術

第一　運針

運針を習ふには、教師の指導に基きて姿勢を正し、素縫より始めて本縫に入り、最初は專ら正しき姿勢を保ちて、正しき手指の運用を學ばんことを勉め、稍其の要領を得るに至らば、針目の大小、縫ひ目の曲直等に注意し、次第に練磨の功を積み、精巧と迅速

と兩ながら備へんことを努むべし。若し、手指の運用或は身體の姿勢に惡しき癖を生ずることあらば、そは、啻に技術の上達に不利なるのみならず。終には、身體の健康を損する虞れあるべし。

運針の練習をなすにあたりて、特に注意すべき事項を擧ぐれば、左の如し。

一、上體を眞直にし、下腹に力を入るべし。頭を垂れ胸部を壓迫すべからず。

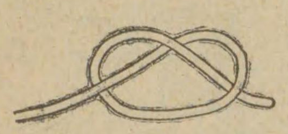
二、眼と用布との距離は凡そ八・九寸、兩手の開きは凡そ五・六寸を適度とす。

三、輕く兩肱を張り、左右の拇指を相向はしめて、同時に兩手を働かすべし。

〔附言〕運針練習のため、並幅二尺の天笠木綿又は絹布(上級)を用意すべし。又部分縫の練習には、縞及び無地木綿にて、並幅二尺五寸、半幅二尺三寸、四つ割幅一尺八寸の布各〻一枚を準備すべし。

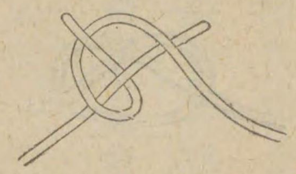
第二　絲の結び方

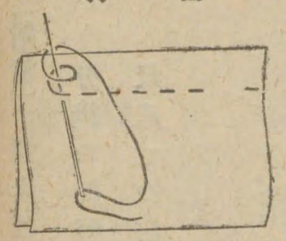
こま結


留結

一、**こま結**　絲の兩端を取りて、圖に示す如く結び合す仕方なり。袷・綿入などに於て袖口・袖附・八つ口・衿先等の留めをなす場合に、多く此の結び方を用ふ。

二、**留結**　絲の端を食指の先に卷き、拇指の腹にて其の絲を撚りながら結ぶ仕方なり。多く縫ひ始めに用ふ。



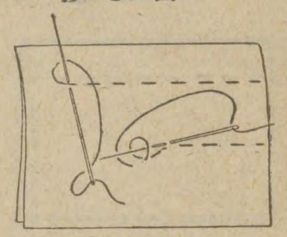


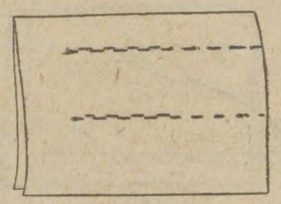
三、**機結**　絲の兩端を取り、右を下に左を上に重ねて左の食指の上に置き、右の絲を廻して、左の絲の下より、兩端の絲の間を通し、右端の絲を輪の中に入れ、其の先を左の拇指にて押へ、右にて引き締むる結び方なり。

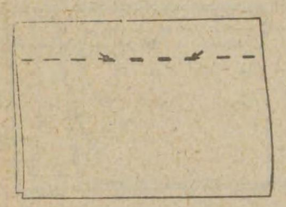
第三　絲の留め方

一、**打留**　針に縫絲をからめて左の拇指にて押へ、引き締むる仕方なり。主に、袖下・胴接ぎ・伏せ縫などの留め方に用ふ。

二、**抄ひ留**　縫ひ終りの所にて、布を僅に抄ひ、其の絲を、左より右の方へ、針にからめて引き締むる仕方なり。主に、袖口・袖附・身頃の八つ口・衿附などの留め方に用ふ。



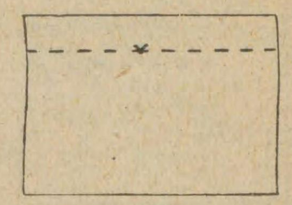


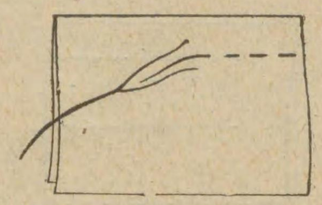


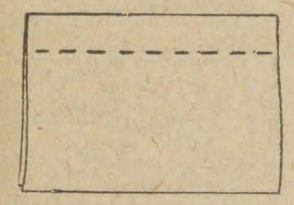
三、**返し留**　縫ひ終りを一寸餘り縫ひ戻し置く仕方なり。主に、脊・脇・衽・袖口・袖附などの始め終りの留め方に用ふ。

第四　絲の繼ぎ方

一、**重ね繼**　運針の途中にて絲の盡きたるとき、其の絲を縫ひ込みの方へ一針縫ひて留め、更に絲の端を留め結となし、一寸程手前より、前の縫絲の針目に掛けて縫ひ重ぬる仕方なり。多く縫ひ合せの場合に用ふ。


結び繼


撚り繼


合せ縫

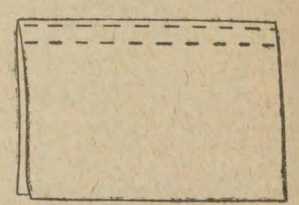
二、**結び繼**　機結にて繼ぐ仕方なり。主に、耳紵又は躾の場合に、途中にて絲を繼ぎ足すときに用ふ。

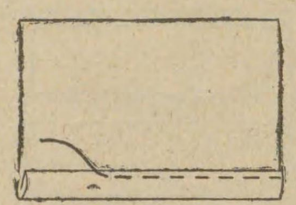
三、**撚り繼**　繼ぐべき絲の端を二つに割り、其の割りたる絲の細き方に、元の絲を一寸程撚り合せ、更に之れを他の方に撚り合す仕方なり。主に、縫ひ合せ又は紵の場合に用ふ。

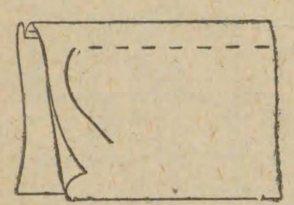
第五　縫ひ合せ方

一、**合せ縫**　布を重ねて、普通に縫ひ合はす仕方をいふ。

衣服の縫ひ代は凡そ二分五厘、針目は、綿布にては一分五厘以内、絹布にては一分以内、被せは五厘を普通とす。


二重縫

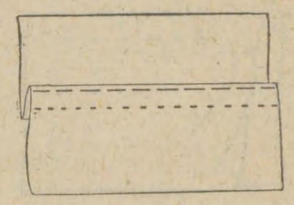

三つ折縫

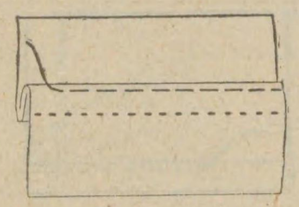

袋縫

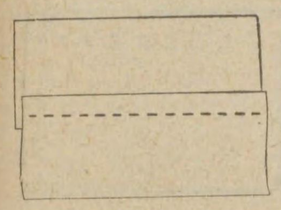
二、**二重縫**　合せ縫の後、縫ひ目の開かざるやう、更に本縫に沿ひて、端の方を縫ひ合す仕方なり。本裁單衣の脊などに用ふ。

三、**三つ折り縫**　布の端を二度折り、裏折り代の端を並縫になす仕方にして、風呂敷・敷布類の端縫に用ふ。

四、**袋縫**　最初に布の裏を合せて、一分許りの縫ひ代に縫ひ、折りを附けて引き返し、更に圖の如く縫ひ合す仕方なり。單衣の袖下・四つ身及び三つ身の脊・衽などを縫ふ場合に用ふ。

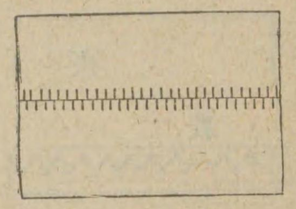


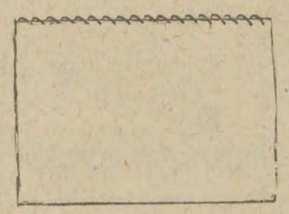


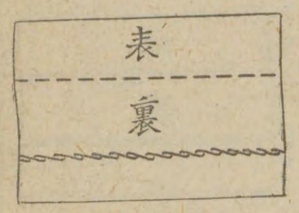


五、**伏せ縫**　布を重ね、一枚を二・三厘引きて縫ひ合せ、縫ひ込みの狹き方へ折り、針目を三・四分とし、表には小さく一針づつ出して、縫ひ込みの端を伏せ附くる仕方なり。布の縫ひ込み二枚共に裁ち目のまゝなるときは、一方の布を一分五厘程引きて縫ひ、他方の布にて、其の裁ち目を包み、然る後、前の如く伏せ附くべし。之れを**折り伏せ縫**といふ。これらの仕方は、風呂敷などを縫ひ合す場合に、縫ひ込みをおさふるに用ふ。

六、**重ね縫**　裁ち目のまゝ三・四分重ねて二行又は一行に縫ひ合す仕方なり。紐の心地などを足す場合に用ふることあり。



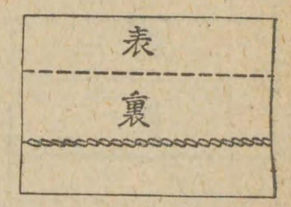




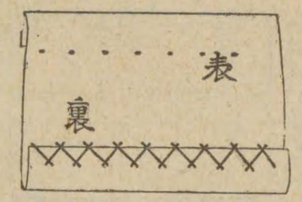
七、**突き合せ縫**　裁ち目のまゝ布を突き合せ、針目を一分許りとなし、一針抜きにて、交互に、双方の布端に一分程づつ掛けて、縫ひ合す仕方なり。總べて心地の足らざるとき、之れを足す場合に用ふ。

八、**まとひ縫**　布の裁ち目の解れを防ぐために、裁ち端を卷きながら縫ひ行く仕方なり。鈎衽・衿肩明其の他解れ易き所に用ふ。

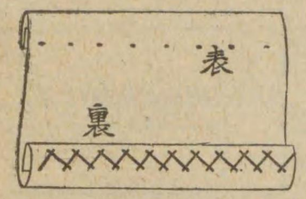
九、**返し縫**　本返し・半返しの二様あり。半返し(三分返しともいふ)とは、布を合せて一針抄ひ、其の三分の一後に返りては又さきを抄ふ。此の如く繰り返しつゝ縫ひ行く仕方なり。主に、縫ひ



本返し



千鳥縫(一)



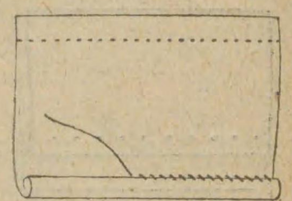
千鳥縫(二)

合せを密接ならしめんがために用ふ。

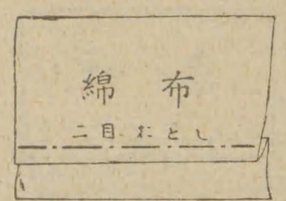
布を一針抄ひては其の二分の一後に返り、之れを繰り返して縫ひ行く仕方を本返し(二分の一縫)といふなり。主に、ミシン縫の代りに用ふ。

一〇、**千鳥縫**　布の端を折りて、其の左方より絲を掛け始め、先づ表の地絲を一・二本抄ひ、次に一分餘り斜に、裏折り代の端より一分程の所を抄ひ、再び前の如く、表地を抄ひ、交互に之れを繰り返して掛け行く仕方なり。毛織又は厚地の單衣仕立などに於て、伏せ縫或は絎をなすべき場合に此の縫ひ方を用ふ。

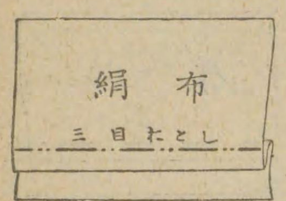
圖の一はネルの類に、二はセルの類に施す仕方を示せるなり。



縫りつま



躾並

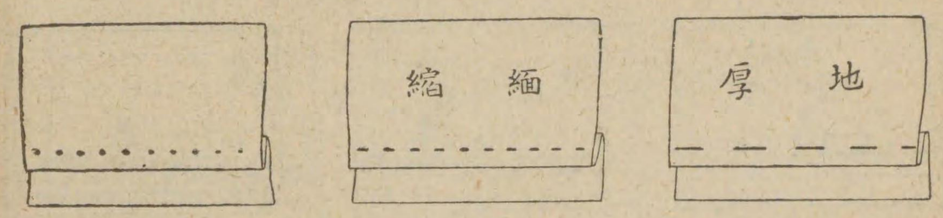


躾並

一二、**まつり縫**　布を折り、右の端より絲を掛け始め、先づ表の地絲を一・二本抄ひ、其の針尖を裏折り代の端に通し、二・三厘左の方へ斜に進み、前の如く表を抄ひ、又裏折り代の端に通し、此の如くして繰り返し進み行く仕方なり。主に、毛織又はミシン仕立に於て、絎の場合に此の仕方を用ふ。

第六　躾の掛け方

一、**並躾**　被せ山より一分五厘程内に、小針を凡そ一分五厘、大針を凡そ七・八分の針目に躾を掛くる仕方なり。小針の數によりて二目おとし、三目おとしの稱あり。主に、袖・裾・衿下などに用ふ。



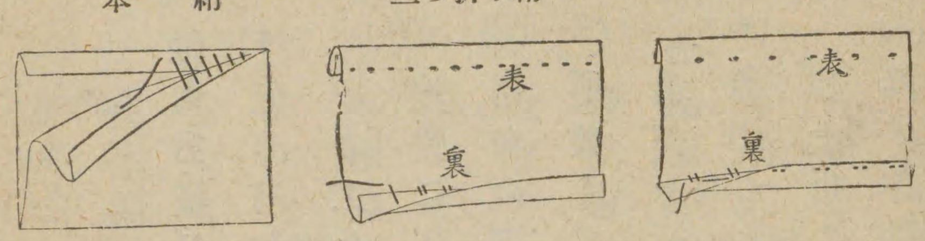
平　躾　　縫ひ躾　　隠し躾

二、**平躾**　羽織の衿などの厚地には、表を一寸二・三分、裏を四・五分許りの針目に躾を掛く。之れを平躾といふ。

三、**縫ひ躾**　縮緬・メリンスなどの地質に、並縫の針目にて躾を掛くるをいふ。

四、**隠し躾**　折り被せの亂れを防がん爲に施す躾にして、針目を六・七分許りとし、表には小さく一目づつ出して躾け置き、着用の際にも取り除かざるものなり。多く、褄先・綿入羽織の前下り・胴接ぎなどの所に用ふ。

第七　紩け方



紩　耳　　紩り折つ三　　紩　本

一、**耳紩**　布の耳を一度折りて、針目を表に小さく一つ、裏に二つづつ出し、間を五・六分に、耳より五厘許り内を、中を通して紩ける仕方なり。多く、單衣仕立の場合に用ふ。

二、**三つ折り紩**　布の端を二度折りて、表に小さく一目づつ針を出し、間を四・五分に、折り山の内側を通して紩け行く仕方なり。單衣の袖口・衿下裾紩等に用ふ。

三、**本紩**　双方の布の端を折り合せ、針目を三・四分とし、折り山より五厘許り内を、縫ふ如くに、針を運び行く仕方なり。綿入の袖口・八つ口・衿下・本裁女物の裏衿及び紐等を紩ける場合に用ふ。

第八　衣類仕立の心得

一、裁ち方・積り方

(イ)先づ用布を開きて、織疵・染斑・汚點等の有無、並に其の伸び縮みの工合を改む。

(ロ)地質に從ひて、適宜に裏の方より地伸しを行ふ。

(ハ)用布の總尺を測る。

(ニ)所要の寸法(例へば、袖丈又は身丈の如し)に基きて、積り方の計算を行ふ。

(ホ)算出したる各部の裁ち切り寸法(袖丈・身丈・衿・衽)によりて用布を折る。

(ヘ)再び各部の寸法に誤りなきかを檢し、先づ袖・身頃、次に、衿・衽

と順次に裁ち切る。

但し、用布に織疵などのあるときは、成るべく之れを隱る方に廻して裁ち合すをよしとす。

二、仕立上げ寸法につきての注意

縫ひ方は精巧なるも、仕立上げ寸法の身體に適合せざるは、仕立方の不注意なり。されば、身體の肥瘠・長短を考へて、標準の寸法に斟酌を加ふること肝要なり。

三、標附げ方の際、用布の据ゑ方

(イ)布帛の表を中にして重ね合せ、袖・身頃・衿・衽等、總べて上體に當る方を左手の方に置く。

(ロ)袖は袖口の方を向ふに、袖附の方を手前になし置く。

(ハ)身頃は衿肩明の方を手前に後身頃の方を上層に置く。

(ニ)衽は衿下の方を手前の右手に置く。

(ホ)衿は山の方を左方に、附の方を向ふに置く。

四、縫ひ方

標通り折りを附け、待針を打ち、針道を正しく縫ひ、充分に絲を扱(しこ)くべし。然らざれば、縫ひ目に伸び縮みを生じて、仕立ばへ宜からず。且つ綻(ほころ)びやすき憂あり。

五、仕上げ

縫ひ上がらば、仕立上げ寸法を檢し、針などの粗忽なきかを調べ、絲屑・塵埃等を拂ひ、然る後ち、地質により霧若くは火熨斗。アイロンを用ひて丁寧に仕上げをなすべし。火熨斗を用ふるときは、其の加減を試み、白綿モス等の布片を當て、裏より始めて表に火熨斗を掛け、終りて本疊になすべし。

以上述ぶる所は、衣類仕立に關する心得の大要なり。これらは裁縫の全般に亘りて必要なる事項なれば、豫めよく熟知し置かざるべからず。以下煩雜を避け、特に必要ある場合の外は、毎章之れを再説せず。

〔注意〕總べて、裁ち方・積り方の場合には、適宜に縫ひ込みの寸法を見込みて、仕立上げ寸法に加へ置くものなり。之れを裁ち切り寸法といふ。

第三章　單衣襦袢

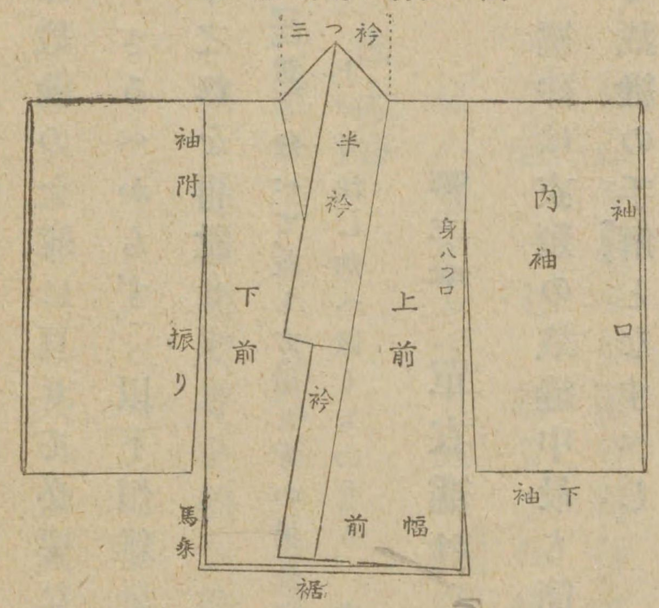
襦袢は衣類の裁縫中最も簡單なるものなれば、先づ之れを以て、裁縫の手解(ほどき)となすべし。

襦袢の用布には、多く晒木綿・眞岡・メリンス・ネル等を使用す。

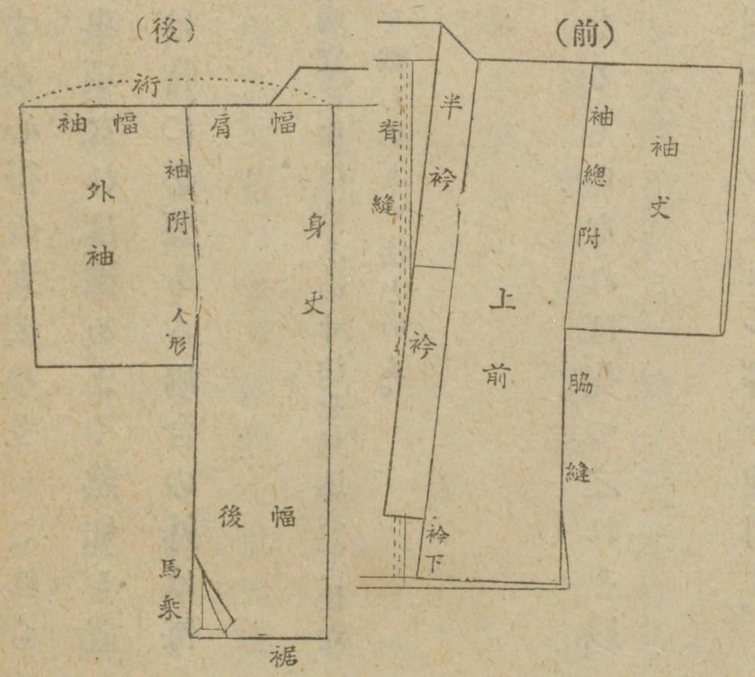
第一節　本裁襦袢

第一　本裁襦袢各部の名稱

本裁襦袢(女物)の圖



本裁襦袢(男物)の圖



第二　本裁襦袢普通仕立上げ寸法

女物

袖丈	一尺五・六寸	袖附	凡そ六寸
袖幅	八寸四分	身丈	一尺七・八寸
衿肩明	二寸二分	裄	一尺六寸五分
後幅	七寸五分	前幅	凡そ六寸五分
身八つ口	三寸五分	衿幅	一寸五分乃至三寸
馬乘	三寸五分		

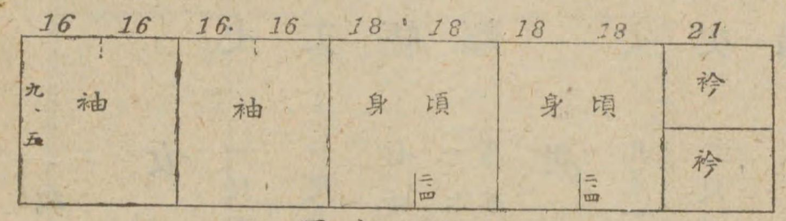
男物

袖丈	凡そ一尺二寸	袖附	一尺五分
袖幅	八寸五・六分	身丈	二尺二・三寸
裄	一尺七寸	衿肩明	二寸一分
後幅	八寸	前幅	七寸五分
衿幅	一寸五分	馬乘	四寸

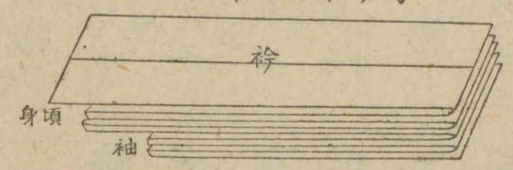
第三　本裁襦袢裁ち方・積り方

並幅一丈五尺七寸にて

本裁女襦袢の裁ち方並に裁ち切り寸法



用布の折り方



積り方

公式｛用布の總尺－（袖丈×4＋衿肩廻し及び縫代）｝÷5＝身丈
算式｛　157　－（ 16 ×4＋　3　）｝÷5＝ 18

公式｛用布の總尺－（身丈×5＋衿肩廻し及び縫代）｝÷4＝袖丈
算式｛　157　－（ 18 ×5＋　3　）｝÷4＝ 16

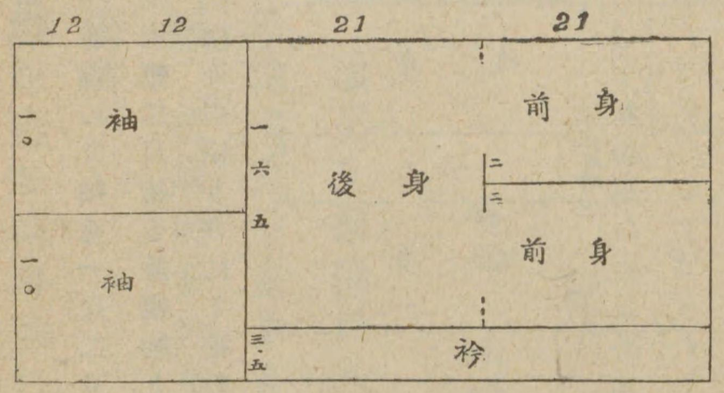
公式　袖丈×4＋身丈×5 ＋ 衿肩廻し及び縫代＝用布の總尺
算式　16 ×4＋ 18 ×5 ＋　3　＝ 157

上式の如く、所要の袖丈を四倍して之れに衿肩廻し及び縫ひ代の三寸を加へ、之れを用布の總尺より減じ、其の殘數を五除せば、身丈を得、又其の身丈を五倍して衿肩廻し及び縫ひ代を加へ、之れを用布の總尺より減じ、其の殘尺を四除するときは、袖丈を得るなり。

〔注意〕總べて、積り方の計算には、公式算式の別あり。以下皆同樣なり。

二尺幅六尺六寸にて

本裁男襦袢の裁ち方並に裁ち切り寸法

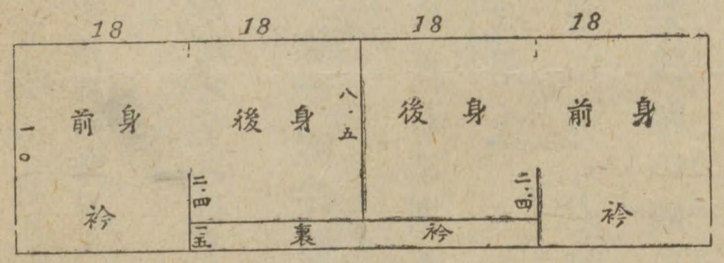


積り方

（袖丈＋身丈）×2＝用布の總尺
（ 12 ＋ 21 ）×2＝　66

一尺幅七尺二寸にて

本裁女襦袢身頃の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

身丈×4＝用布の總尺
18 ×4＝　72

〔設問〕

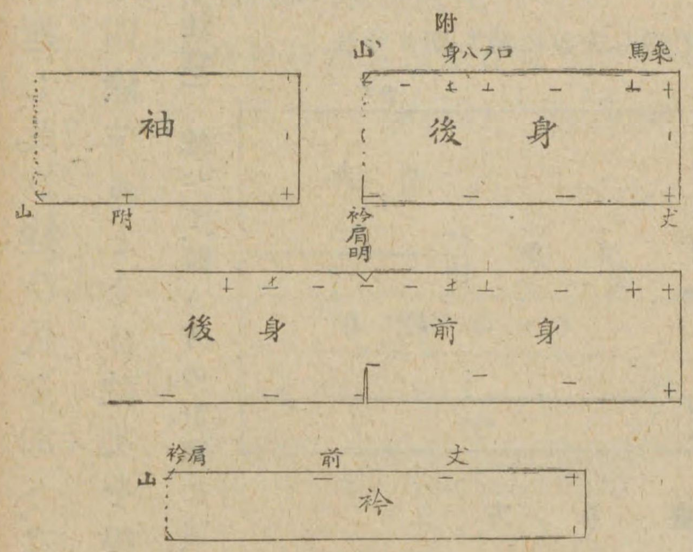
(1)並幅にて袖丈一尺二寸、身丈二尺二寸の、男物半襦袢の總尺を求めよ。

(2)大幅二尺物と、並幅物と、積り方の相違を述べよ。

(3)襦袢の積り方にて、袖の別切れなるとき、身頃の總尺を算出する法如何。

第四　本裁女襦袢標附け方

本裁襦袢標附け方



一、**袖**　箆臺に正しく据ゑ、山・丈・附・幅の順に標を附く。

二、**身頃**　箆臺に正しく据ゑ、山・丈・附・八つ口・馬乘・後幅の順に標を附け、後身頃を左に開き、前幅の標を附く。

三、**衿**　箆臺に正しく据ゑ、山・丈・幅の順に標を附く。

布の重ね方及び据ゑ方などは、第二章に述べたるが如し。又箆標の消え易き品には、肝要の所に、縫ひ標をなし置くを宜とす。

〔附言〕標附け方につきて、男物の女物に異なる所は、八つ口を省きて、袖を總附或は人形附になすにあり。其の他中裁・小裁に於ては、仕立寸法の差異あるのみにして、其の扱ひ方は何れも皆同じ。

第五　本裁女襦袢縫ひ方順序

一、**袖**　袖下を袋縫(始めは幅折り代の二倍程端を縫ひ殘す)になし、内袖の方へ折りを附け置く。

二、**身頃**　衿肩明をかゞり、脊を二重縫になし、之れを左身頃の方へ折る。

脇を縫ひ、前身頃に折りを附けて割り躾をなし、次に、縫ひ込

みを、馬乘より八つ口まで、身頃に綴ぢ附け、裾は馬乘下の角を三角に折りて、衿に縫ひ込む部分を除き、三つ折り絎となす。

三、**衿**　衿山を脊に合せ、左右前先まで標を合せ置き、下前より上前に縫ひ廻し、衿の方へ折りを附く。身頃の縫ひ代は脊の所にて二分五厘、衿肩廻しの所にて一分とす。

三つ衿切れを入れ縫ひ込みに綴ぢ附け、幅を折り、衿先の留より一分先きを縫ひ、裏の方へ折り、縫ひ込みを綴ぢ、引き返して下前より絎け始め、上前にて絎け終る。

四、**袖附**　袖山と肩山とを合せ、其の他の標も正しく合せ置き、袖を見て縫ひ附け、折りを袖に返し、直に八つ口を絎ける。身頃の縫ひ代は肩山にて一分五厘程とし、袖附留まで斜に折る。

五、**半衿**　衿に心切れを當て、裏衿と縫ひ合せ、裏を一分引き、半衿幅を定め、總體に躾を掛け、次に、表裏に絎け附け、其れより衿絲を附けて、縫ひ上りとす。

〔附言〕男物は袖の長短により、總附或は人形附などの違ひ、中裁・小裁に於ては、寸法の差あるのみなり。半衿は衿幅通りに掛くべし。其の他は、總べて女物に準ず。

地質の厚き物は、半返しにして之れを割り、縫ひ込みは折らず、袖・裾などは二つ折りにして、總べて、千鳥縫又はまつり縫を施すなり。

第二節　四つ身襦袢

第一　四つ身襦袢普通仕立上げ寸法

袖丈	一尺四・五寸	袖附	四寸五分	袖幅	七寸九分
身丈	一尺四・五寸	肩幅	いつぱい	衿肩明	一寸五・六分
後幅	いつぱい	前幅	凡そ六寸	身八ッ口	三寸

衿幅……一寸二・三分　馬乘……三寸

第二　四つ身襦袢裁ち方・積り方

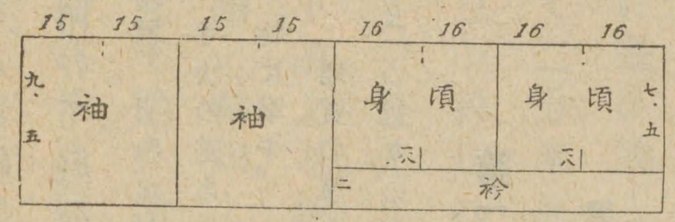
並幅一丈二尺四寸にて、四つ身襦袢の袖丈を一尺五寸と定め、其の身丈及び用布の總尺を求むる方法は、上記の計算によりて、之れを知るべし。

〔設問〕

四つ身襦袢を裁ち切る順序を述べよ。

四つ身襦袢の

裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(用布の總尺－袖丈×4)÷4＝身丈
(　124　－ 15 ×4)÷4＝ 16

(用布の總尺－身丈×4)÷4＝袖丈
(　124　－ 16 ×4)÷4＝ 15

(袖丈 ＋ 身丈)×4 ＝用布の總尺
(15 ＋ 16)×4 ＝ 124

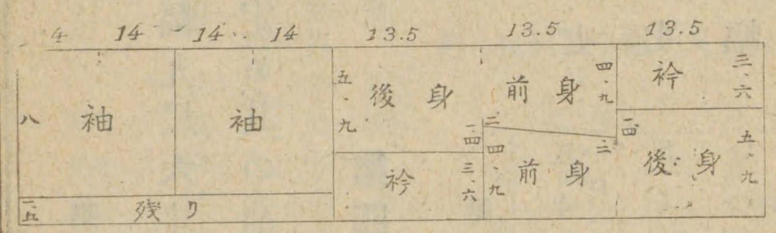
第三節　三つ身襦袢

第一　三つ身襦袢普通仕立上げ寸法

袖丈……一尺二・三寸
袖幅……六・七寸
袖附……四寸
身丈……一尺二・三寸
肩幅……いつぱい
衿肩明……一寸一・二分
後幅……いつぱい
前幅……いつぱい
身八つ口……二寸五分
衿幅……一寸一・二分
馬乘……二寸五分

三つ身襦袢の

裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(用布の總尺－袖丈×4)÷3＝身丈
(　96.5　－ 14 ×4)÷3＝13.5

(用布の總尺－身丈×3)÷4＝袖丈
(　96.5　－13.5×3)÷4＝ 14

身丈×3＋袖丈×4＝用布の總尺
13.5×3＋ 14 ×4＝　96.5

第二　三つ身襦袢裁ち方・積り方

並幅九尺六寸五分の用布にて、三つ身襦袢の身丈一尺三寸五分と定め、其の袖丈を求むるには、前記の計算による。

第四節　一つ身襦袢

第一　一つ身襦袢普通仕立上げ寸法

袖丈……一尺二・三寸以上五寸　袖附……三寸　袖幅……いつぱい

身丈……凡そ一尺　肩幅……いつぱい　衿肩明……凡そ八分

後幅……いつぱい　前幅……いつぱい　身八つ口……二寸五分

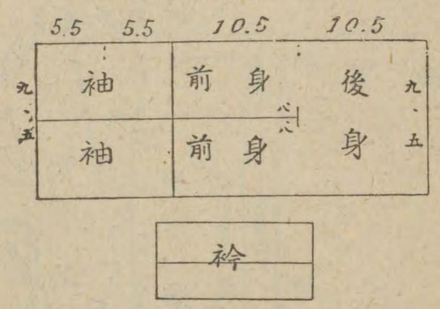
衿幅……凡そ八分　馬乗……二寸

第二　一つ身襦袢裁ち方・積り方

並幅三尺二寸にて

一つ身襦袢の裁ち方並に裁ち切り寸法

衿には別に半幅一尺二寸の切れを用ふ



方　り　積

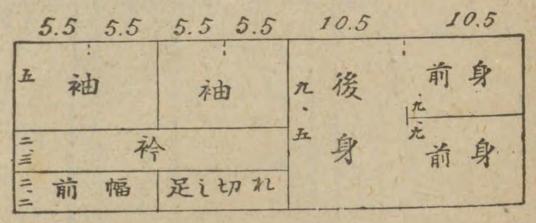
袖丈＝(身丈×2－尺總の用布)÷2

袖丈＝(身丈×2－尺總の用布)÷2

(10.5×2－32)÷2＝5.5

並幅にて一つ身襦袢の

裁ち方並に裁ち切り寸法



方　り　積

袖丈×4＋身丈×2＝用布の總尺

5.5×4＋10.5×2＝43

〔注意〕　襁褓を用ふるには、前幅に足し切れを入れ置くを便とす。

襦袢の仕立上げ寸法は、著物の寸法を標準とし、左の如く詰むるを適當とす。

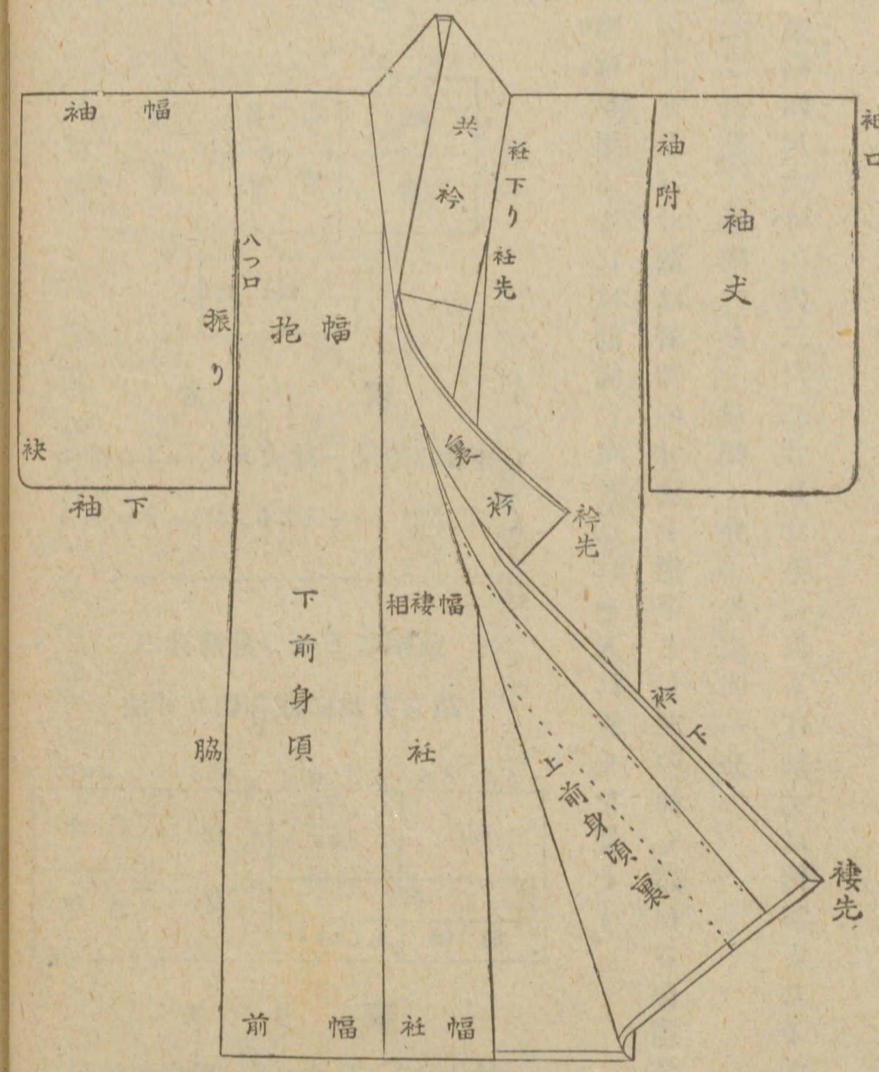
袖丈二三分　袖附二分　袖幅一分　衿肩明一分

〔設問〕　並幅四尺六寸の内、二尺二寸を身頃に取らば、袖丈は何程となるか。

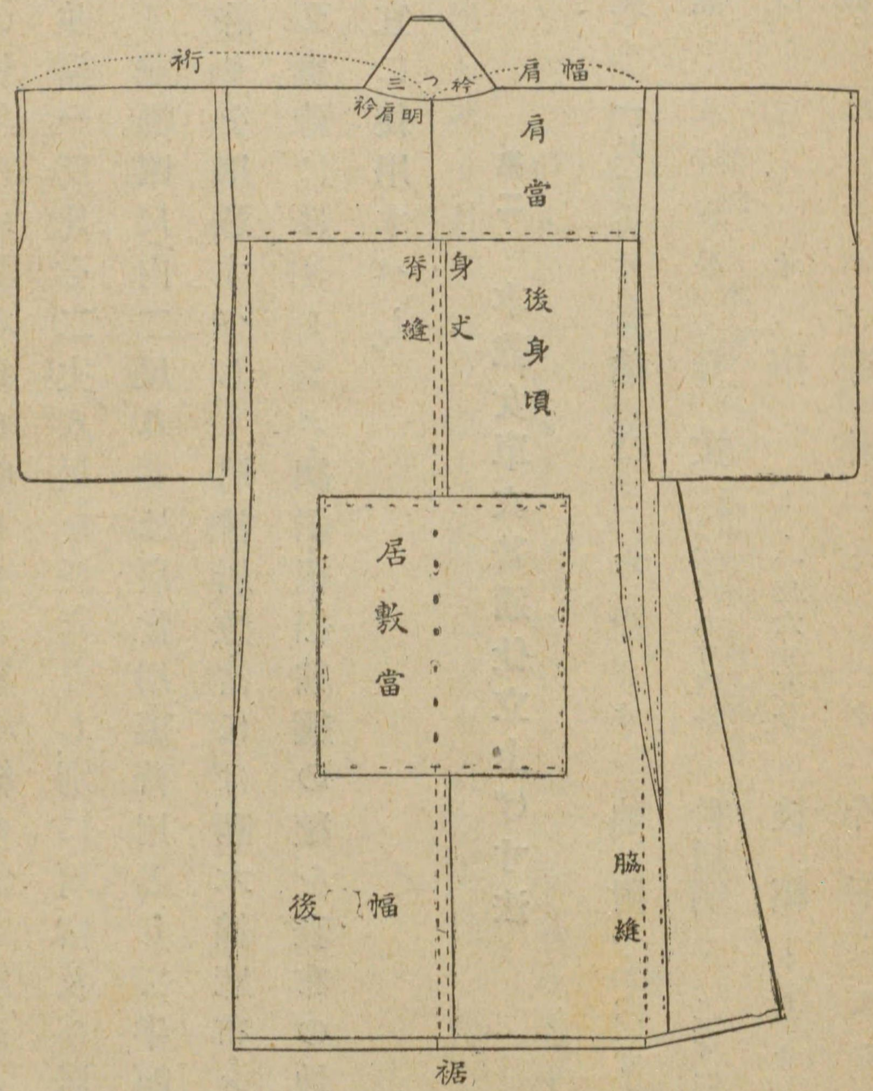
第四章　本裁女單衣

第一　女單衣各部の名稱

女單衣（前）表の圖



女單衣（後）裏の圖



單衣の材料には、綿布・絹布・麻布・交ぜ織・毛織の類を用ふ。其の總尺は並幅一反(凡そ二丈八尺)を通常とし、別に肩當及び居敷當用として、並幅四尺(内二尺八寸は肩當用)裏衿用として半幅四尺八・九寸許りを用意すべし。肩當・居敷當には、晒木綿・麻布・メリンスの類、又裏衿にはメリンス・練絹・絽・絽縮緬の類を、表布の地質に應じ適宜に使用すべし。

第二　本裁女單衣普通仕立上げ寸法

袖丈……一尺五・六寸	袖口……六寸	袖附……六寸五分	
袖幅……八寸五分	身丈……三尺九寸内外	衿肩明……二寸三・四分	
八つ口……三寸	裄……一尺六寸五分	後幅……七寸五分	
衽下り……六寸	前幅……六寸	衿下……凡そ二尺	
衽幅……四寸	相褄幅……三寸五分	衿幅……三寸	

第三　本裁女單衣裁ち方・積り方

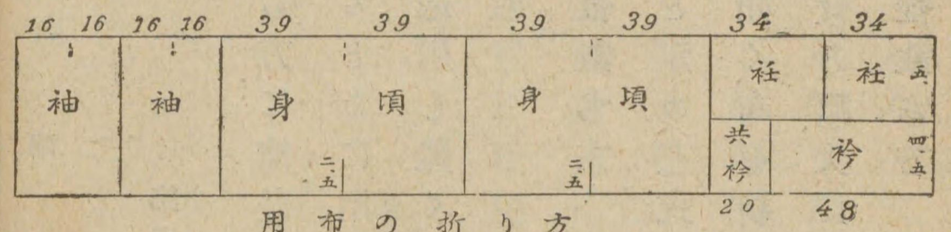
裁ち方に棒衽裁と鉤衽裁との二種あり。鉤衽裁は、用布の不足なるときに用ふるものなり。然れども、此の裁ち方は片面物には適用し難く、且つ仕立直しの時に至り、衽を天地し難き不利あり。

一、**棒衽裁ち方**　並幅二丈八尺八寸にて、袖丈を一尺六寸裁ち切りと定め、左式によりて、其の他の寸法を算出し、次に、圖に示せる如く、布を折りて寸法の相違なきかを檢し、然る後ち、袖・身頃衿・衽と順次に裁ち切るなり。

二、**鉤衽裁ち方**　並幅二丈七尺六寸五分にて、袖丈を棒衽のとき

本裁女單衣棒衽

裁ち方並に裁ち切り寸法



用布の折り方

積り方

(用布の總尺－袖丈×4＋衽下り×2)÷6＝身丈
(　288　－ 16 ×4＋　5　×2)÷6＝ 36

{用布の總尺－(身丈×6－衽下り×2)}÷4＝袖丈
{　288　－(39 ×6－　5　×2)}÷4＝ 16

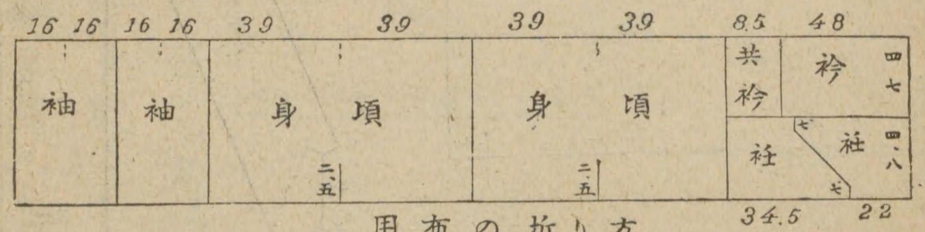
袖丈×4＋身丈×6－衽下り×2＝用布の總尺
16 ×4＋ 39 ×6－　5　×2＝　288

身丈－衽下り(仕立上げ)＋衽先の縫ひ代＝衽丈
身丈－衿下＋(衿肩廻し及び縫ひ代)×2＝衿丈

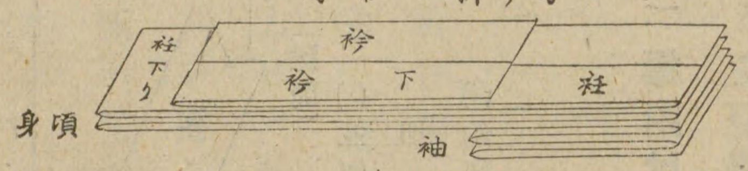
と同じくし、其の他の寸法は上記の式によりて算出し、次に、圖に示せる如く、布を折りて寸法を檢し、然る後ち、袖・身

本裁女單衣鉤衽

裁ち方並に裁ち切り寸法



用布の折り方



積り方

{用布の總尺－(袖丈×4＋鉤下)＋衽下り}÷5＝身丈
{　276.5　－(16 ×4＋ 22)＋ 4.5 }÷5＝ 39

{(用布の總尺＋衽下り)－(身丈×5＋鉤下)}÷4＝袖丈
{(　276.5　＋ 4.5)－(39 ×5＋ 22)}÷4＝ 16

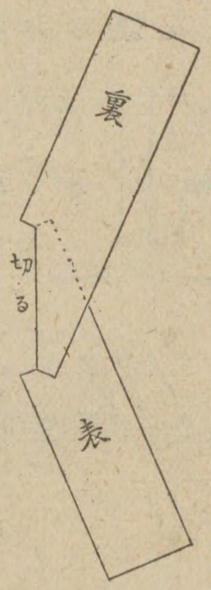
身丈×5＋袖丈×4＋鉤下－衽下り＝用布の總尺
39 ×5＋ 16 ×4＋ 22 － 4.5 ＝ 276.5

頃・衿・衽と順次に裁ち切るなり。

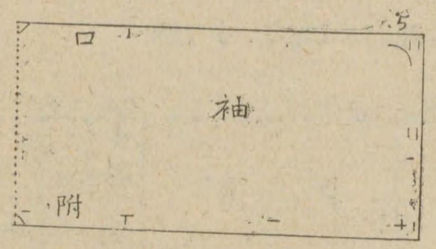
〔注意〕鉤下の寸法を見込むには、用布の總尺より袖丈の四倍を減じ、之れを五半に割り、其の半數に、衽下りの寸法を加ふべし。

第一圖

第二圖



第一圖



鉤衽の裁ち方は、第一圖の如く、衿下寸法の所に、七分の切り込みを向ふと手前とに入れ、第二圖の形に折りて、其の折り山を切り放すなり。

〔設問〕

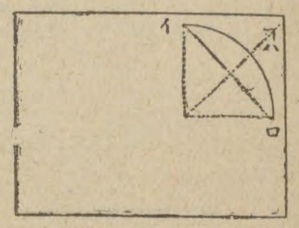
(1) 並幅二丈七尺八寸にて、袖丈一尺五寸、衽下り四寸裁ち切りとし、棒衽裁の身丈を求めよ。

(2) 鉤衽裁の積り方を説明せよ。

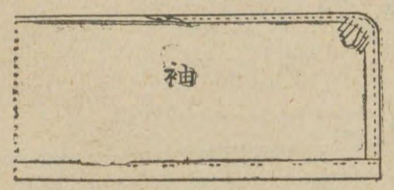
第四　部分縫　袖

一、標附け方　二尺五寸の練習用布を取りて袖と見做し、第一圖の如く山・丈・口・附・幅・袂の丸みの標を附く（袂の丸みは五分とす）。

第二圖



第三圖

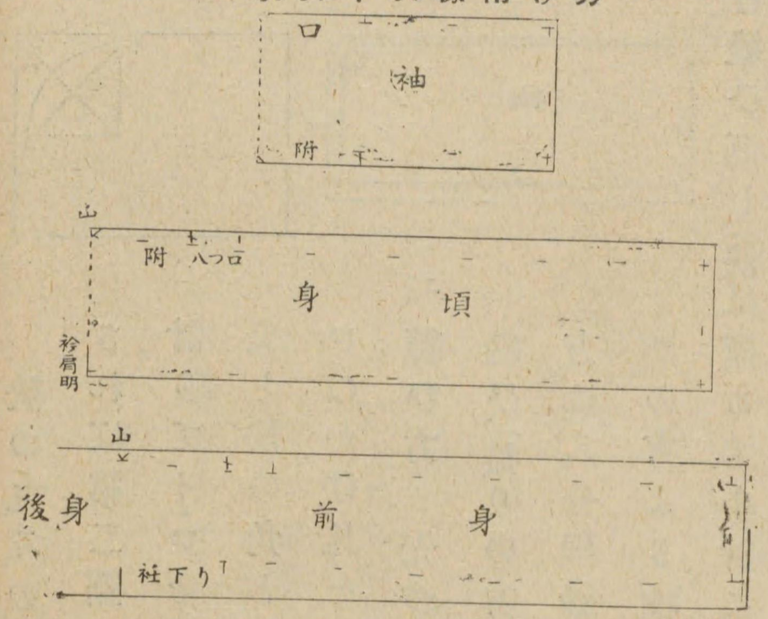


袂の丸みの標附け方は、袂形を用ふるか、然らざれば第二圖の如く、袂の角より丸みの寸法を計りてイ・ロを標し、イよりロに尺を渡し、其の中央と袂の角との中間にハ點を定め、其れよりイ・ロにかけ、凡そ圓の四分の一の形を描くなり。

二、縫ひ方　先づ表を出し、袖下を一分の縫ひ代に縫ひ、（振りの方は幅の折り込みの二倍ほど、袂の方は八分程縫ひ殘す。）引き返して裏を出し、振りの方より袖口標まで縫ひ、抄ひ留をなし、一寸程縫ひ返し、（袂は極めて小針に縫ふべし）内袖の方へ折り、袖口を三つ折り絎になすべし。袂は本縫に添ひて一分程外を縫ひ締め、丸みを整へ、襞を綴ぢ、振りを耳絎になすべし。（第三圖）

第五　本裁女單衣標附け方

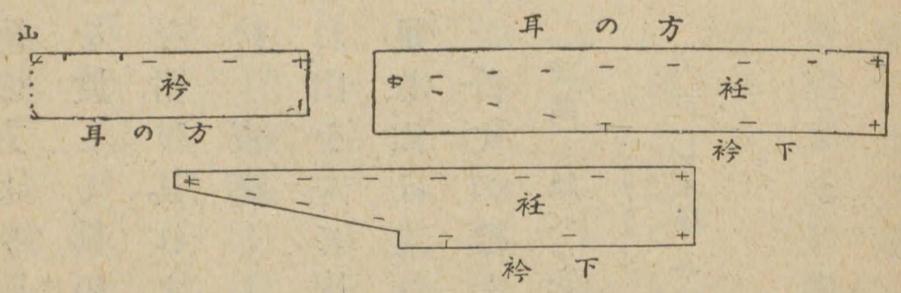
本裁女單衣標附け方



一、**袖**　附の方を手前に山の方を左に置きて、山・丈・口・附・幅の標を附く。

二、**身頃**　身頃の衿肩明の方を手前に、後身の方を左にし、中を表にして二枚を重ね、身頃を二つに折りて、後身を前身に重ね、山・丈・附・身八つ口・脊・肩幅・後幅の標をなし、後身を開きて、前身に衽下り・前幅を標し（裾より三寸程稍眞直に標を附く）衽下りより

本裁女單衣標附け方



裾までを計りて、衽丈を知り置くべし。

三、**衽**　裾の方を右に、衿下の方（裁ち目の方を衿下とす）を手前に置き、棒衽のときには、先づ丈・衿下・幅・相褄幅を標し、衽幅より相褄幅に尺を渡して、其の間の衽附を標し、又之れに準じて衽先まで尺を渡し、其の間の衽附の標をなし、次に、衽先より一分を計りて、衽先の衿附を標し、之れと衿下の標とに尺を渡して、其の間に衿附の標をなし、又衿下の標より褄先までの標をなすなり。

鉤衽のときには、先づ丈・衿下を標し置き、衽附の下端の縫ひ込みを三分とし、衽先にて、衿

附の方より四分を計りて、衽附の標をなし、此の二つの標に絲を渡して、其の間の標を附け、次に、衽幅・相褄幅及び其の間の標を附け、其れより、棒衽のときの如く、衿附の標をなすなり。

四、**衿**　表裏ともに、中表に二つに折り、裏衿を下に、表衿を上に重ね、山を左に、附を向ふに置き、衿肩明の縫ひ上げ寸法に一分を足し、尚ほ之れに衽下りと、其れより衿下標までの寸法を加へて、衿丈の標をなすなり。

〔注意〕總べて、標は、縫ひ込みの内に隱るゝ樣、成るべく小さく、且つ輕く附くるを宜しとす。又成るべく、標と標との間の距離を一定し、相對せる標は特に正しく揃ふ樣注意すべし。

第六　本裁女單衣縫ひ方順序

一、**袖**　部分縫のときに同じく袖を縫ひ、袖口を絎け置く。

二、**脊縫・肩當・居敷當**　身頃の脊筋を二重縫になし、上前の方へ折り返す。

肩當切れを二つに切り、二枚を重ね、身頃に倣ひて、衿肩明を切り込み、脊筋を縫ひ合せ、裁ち目の方は二つ折りに伏せ縫をなし置き、其れより、衿肩明の方を右とし、肩當切れを身頃の脊縫の向ふに當てて綴ぢ合せ、後ち、肩當を左右に開きて衿肩廻しの所と肩幅の標より二寸程奥とに假綴をなす。

居敷當の裁ち目の方を二つに折りて伏せ縫をなし、衿下の寸法に二・三寸を加へたる所より附け下げ、幅の中央を脊縫に綴ぢ附け、下方を除き、他の三方を絎け附く。

三、**脇縫**　前後の身頃の幅標を合せ、後身頃を見て縫ひ合せ、前身

の方へ折り、割り躾を掛け、身八つ口より裾まで、縫ひ込みを綴ち附く。

四、**衽**　衿下を三つ折り紵になし、衽と前身との標を合せ、要所に待針を打ち、兩前共に裾より縫ひ上げ、縫ひ込みを衽の方へ折りて、衿下標より三・四寸上まで綴ち附け、其れより上には假躾をなし置く。

五、**裾紵**　裾を三つ折りになし、褄先を斜に折り、上前より紵け始め、紵け目の間を三・四分とし、表へは小針に出し、脊・脇・衽の縫ひ目の所は特に一針返し、下前の褄先にて紵け終る。

六、**衿**　表裏の衿山を脊縫に當て、(脊の縫ひ込み三・四分)衿にて身頃を挾み、要所に待針を打ち、下前より始めて一針抜きに縫ひ、衽先と脊縫の所は小針に一針返して縫ひ、上前に移り、縫ひ終りて、表衿の方へ折る。

丈六寸幅三寸許りの三つ衿切れを、衿肩明表衿の方に綴ち附け、其れより、衿幅を折り、(裏衿を表衿より一分五厘程狹くす)衿先を留め、衿丈の一分先にて表裏の衿先を縫ひ、縫ひ込みを裏の方へ綴ち附け、引き返して表裏の衿幅を整へ、裏衿の衿先を褄形に折り、總體に躾を掛け置き、上前より始めて紵け上ぐ。

七、**袖附**　肩幅の一分五厘先より袖附の標まで、斜に身頃を裏の方へ折り、袖山と肩山との標を合せ、袖を見て縫ひ、袖の方へ折り、身頃の縫ひ込みを綴ち、肩當を紵け附け、後ち、袖山にて三針綴ち附け、次に、振りを耳紵又は三つ折り紵になす。

八、**共衿・衿絲**　共衿の丈の中央を脊縫に當て、本衿と縞目を合せ、一分被せに共衿の先を縫ひ附け、丈を紵け附く。

衿絲には撚り合せたる二本絲を用ひ、衿幅を二つに折り置き、兩肩若しくは脊・兩肩の三所に於て、二枚の衿を抄ひ、絲の長さを幅の凡そ二倍に切り、其の兩端を結び置くなり。

〔設問〕

(1)本裁女單衣の標附け方順序を述べよ。

(2)本裁女單衣の縫ひ方順序を説明せよ。

〔附言〕

着物の疊み方　衿を左に裾を右に置き、下前を脇縫の所より正しく向ふへ折り、衽附の所を衿と共に手前へ折り返し、上前も同樣に折り、三つ衿の折りを整へ、次に、脊縫より二つに折りて兩前を重ね、一方の袖を袖附より後身へ折り返し、身丈を二つに折りて裾を肩に合せ、引き返して、他方の袖を折るなり。

衣類の解き方　衣類を解くには、總べて、縫ひ方順序の反對になすを宜しとす。假令へば、單衣を解くに、先づ袖を解き、衿に移りて、衿絎より衿先・衿附に及び、其れより、裾絎・衿下・衽附・脇縫・脊縫と順次に解き行くが如し。絲留めの所にては、布を損ぜぬ樣特に注意すべく、布を解き放したる後ち、縫絲を取り去るとを忘るべからず。又抜き絲は、其の長短によりて類別し、各〻相當の用に充つべし。

第五章　本裁男單衣

第一　本裁男單衣普通仕立上げ寸法

袖丈……一尺四寸　袖口……凡そ七寸五分　袖附……一尺一寸五分
袖幅……九寸　身丈……三尺六寸內外　衿肩明……二寸一分
後幅……八寸　絎……一尺七寸五分　衽下り……五寸
前幅……六寸五分　衿下……一尺七寸五分　衽幅……四寸
相褄幅……三寸五分　衿幅……一寸五分

第二　本裁男單衣裁ち方・積り方

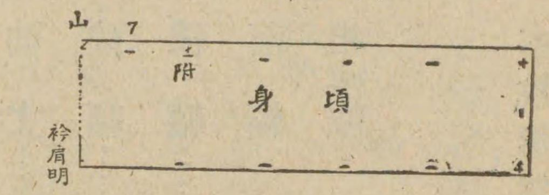
本裁男單衣の裁ち方・積り方は略〻本裁女單衣に同じ。

第三　部分縫　揚

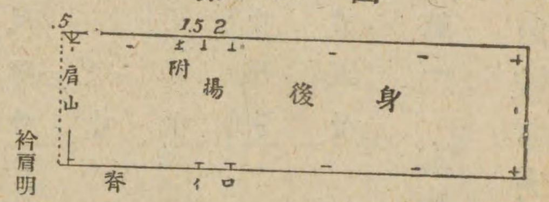
一、**標附け方**　練習用布二枚を取りて、前後の身頃と見做し、衿肩明二寸四分を殘して、肩山を並に縫ひ合せ、先づ、第一圖の如く布を据ゑ、山・丈・袖附・脊・後幅の標をなし、次に、第二圖の如く、肩山を後へ五分繰り越し置き、袖附より一寸五分下りて、揚の寸法(二寸)を標す。

二、**縫ひ方**　先づ後身の揚イ・ロの標を合せ、脊より後幅標の一針先きまで縫ひ、裾の方へ折り、前身の揚も、同樣に縫ひて、裾の方へ折り、次に、脇を縫ひて前身の方へ折り、第三圖の如く揚の縫ひ込みを折りて綴ぢ、其れより、脇の縫ひ込みを綴ぢ附く。

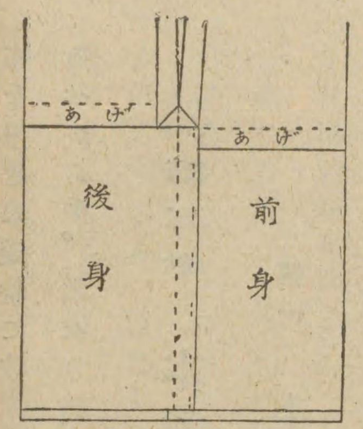
第一圖



第二圖



第三圖



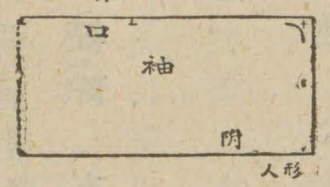
第四　本裁男單衣標附け方

一、**袖**　本裁女單衣に同じ。

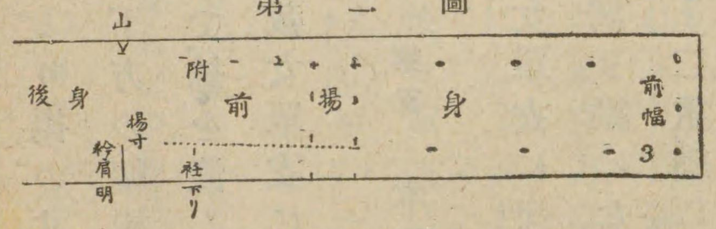
二、**身頃**　山・丈・附・脊・肩幅・後幅・揚を標し、次いで、前身に衽下り・前幅の標をなす。

前幅の標附け方は、第二圖の如く、先づ、裾口に幅標をなし、其の三寸程上の所

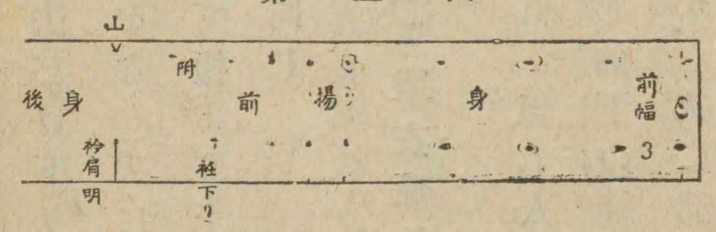
第一圖



第二圖



第三圖



と、衿肩明より揚の寸法だけ下りたる所とへ、絲を渡して、揚下の標より下方の幅標をなし、次に第三圖の如く、揚(上の標)より衿肩明まで、絲を渡して、揚より上方の幅標をなすなり。

三、**衽・衿**　本裁女單衣に同じ。

第五　本裁男單衣縫ひ方順序

一、**袖**　本裁女單衣に同じ。但し、人形の所より縫ひ始め、其の縫ひ込みは割り綴になし、袖下の縫ひ込みに綴ぢ附くべし。

二、**身頃**　脊を二重縫になし、次に、部分縫のときに倣ひて、前後の揚を縫ひ、其れより、肩當・居敷當を附け、脇縫をなす。

三、**衽・裾**　本裁女單衣に同じ。

四、**衿附**　本裁女單衣に同じく衿を附け、衿先を縫ひ、衿幅二倍の所を表裏共に折り、衿先の所にて、折り込みを三角に折りて、之れを綴ぢ附け、次に、衿幅を二つに折り、衿先より三分、衿附より五厘内に入り、極めて小針に衿の表裏を通して、十字形に衿先を留め、其れより、衿絎をなす。

五、**袖附**　袖の附け方は本裁女單衣に同じ。但し、袖附の留めは四つ留めになすべし。

六、**共衿**　本裁女單衣に比して、廣衿と絎け衿との相違あれども、其の扱ひに至りては、異る所なし。

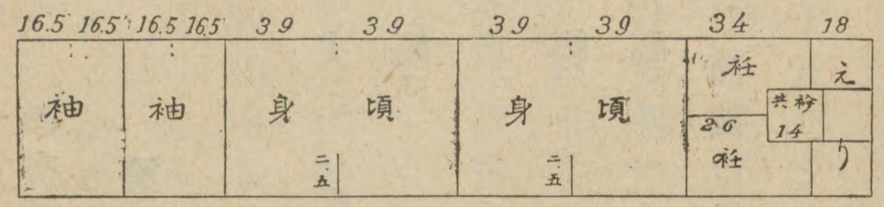
〔設問〕

(1) 本裁單衣の標附け方につきて、男女の差異を說明せよ。

(2) 本裁男單衣の普通仕立上げ寸法を擧げよ。

第六　本裁單衣各種裁ち方・積り方

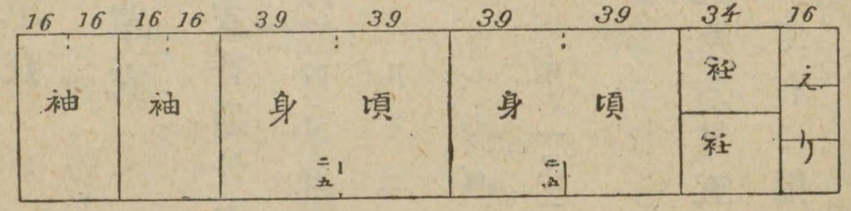
片面物並幅二丈七尺四寸にて
本裁鈎衽(共衿附)の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

{用布の總尺－(袖丈×4＋衿丈の一分)＋衽下り}÷5＝身丈
{　274　－(16.5×4＋　18　)＋　4.5　}÷5＝ 39

並幅二丈七尺にて
本裁棒衽(衿三ツ割)の裁ち方並に裁ち切り寸法

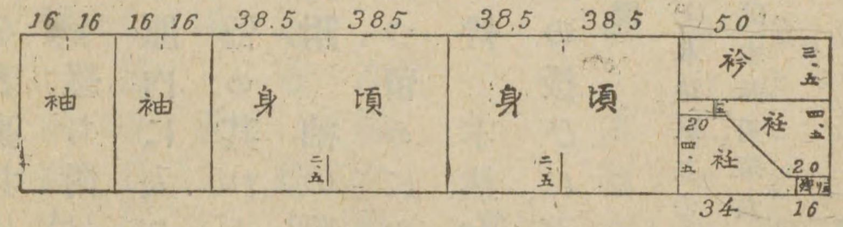


積り方

{用布の總尺－(袖丈×4＋衿丈の三分一)＋衽下り}÷5＝身丈
{　270　－(16 ×4＋　16　)＋　5　}÷5＝ 39

〔注意〕上圖の裁ち方は、鈎衽になし、尚ほ共衿を取らんとする場合の裁ち合せを示せるなり。下圖の裁ち方は、衽を棒裁になさむとするときに、衿を接ぎ合せ、袖及び身丈を本裁相當の寸法になさむとする場合に用ふるものなり。

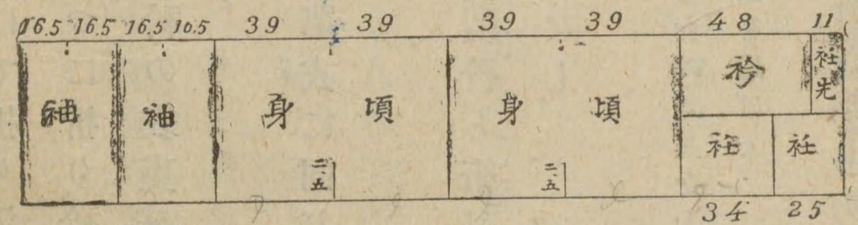
並幅二丈六尺八寸にて
本裁鈎衽の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

{用布の總尺－(袖丈×4＋衿丈)}÷4＝身丈
{　268　－(16 ×4＋ 50)}÷4＝38.5

並幅二丈八尺一寸にて
本裁棒衽(下前接ぎ)の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

{用布の總尺－(袖丈×4＋衿丈の半＋衽の接ぎ代)＋衽下り}÷5＝身丈
{　281　－(16.5×4＋　24　＋　1　)＋　5　}÷5＝ 39

〔注意〕上圖の裁ち方は、尺不足の用布にて、各部の裁ち切りを本裁相當の寸法になさむとするときに、用ふるなり。下圖の裁ち方は普通鈎衽に取るべきを、强ひて棒衽になさむとする場合に用ふるものなり。

第六章　中裁小裁單衣

第一節　四つ身單衣

第一　四つ身單衣普通仕立上げ寸法

袖丈……一尺四・五寸　袖口……四寸五分　袖附……四寸五分
袖幅……八寸　身丈……凡そ三尺　衿肩明……一寸七分
八つ口……二寸五分　後幅……いつぱい　衽下り……凡そ四寸
前幅……いつぱい　衿下……凡そ一尺二寸　衽幅……いつぱい
衿幅……一寸二分

但し、筒袖の場合には、袖丈凡そ六寸五分、袖口凡そ三寸五分、袖附凡そ五寸とし、其の他は、總べて右に掲げたる寸法に從ふものなり。

第二　四つ身單衣裁ち方・積り方

四つ身は五・六歳より十二・三歳まで用ふるものなり。用布の總尺は、並幅一丈八尺より二丈位までとし、一疋(二反續き)の布を三枚に裁つを通常とす。

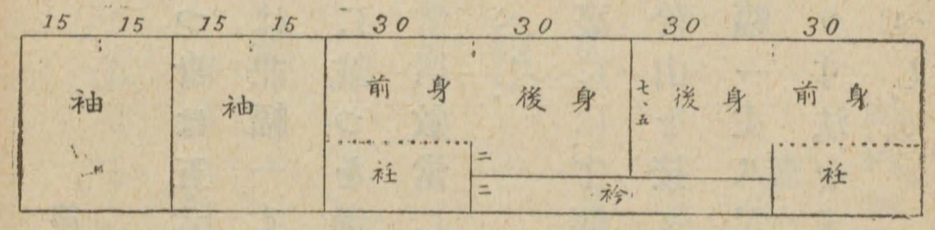
肩當・居敷當には、別に、並幅凡そ二尺(内一尺二寸は肩當用)を用意すべし。

衿裏には、半幅二尺五寸の別切れを用ひ、其の幅を二つに裁ち切り、衿山を接ぎ合すべし。

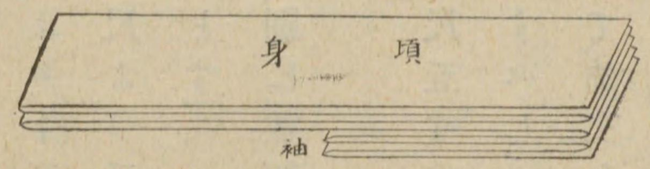
一、並幅一丈八尺にて、袖丈を一尺五寸として、身丈其の他の裁ち切り寸法を求むる方法は、左の裁ち方圖及び算式によりて知るべし。

第一圖

四つ身單衣の裁ち方並に裁ち切り寸法



用布の折り方



積り方

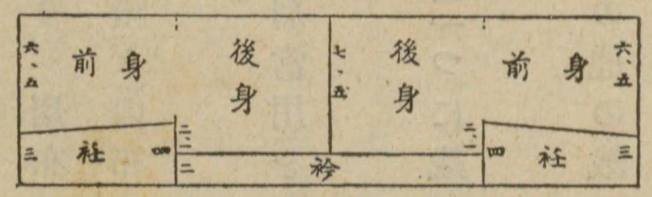
(用布の總尺－袖丈×4)÷4＝身丈
(　180　－ 15 ×4)÷4＝ 30

(用布の總尺－身丈×4)÷4＝袖丈
(　180　－ 30 ×4)÷4＝ 15

(袖丈＋身丈)× 4 ＝用布の總尺
(15 ＋ 30)× 4 ＝　180

第二圖

四つ身單衣の逆衽裁ち方並に裁ち切り寸法



二、前と同じ寸法にて、之れを逆衽裁になさんには、第二圖に依るべし。但し、袖は第一圖に同じ。

〔附言〕新衣を裁つに逆衽裁を用ふることなきにあらざれとも、初めには、第一圖の如く裁ち置き、後日、尚ほ大振りになすべき場合に臨みて、逆衽裁に改むるを便利とす。

〔設問〕

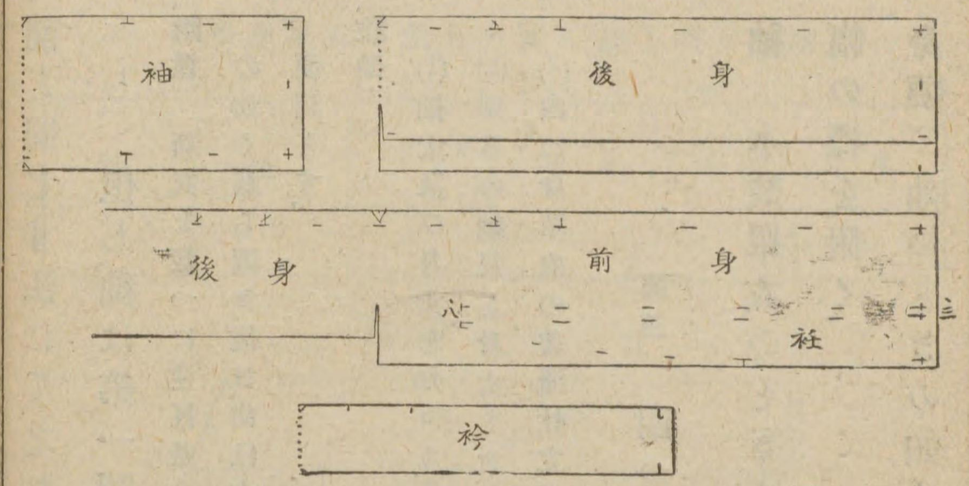
(1) 袖丈及び身丈を知りて、用布の總尺を求むる方法を問ふ。
(2) 用布の總尺と身丈とを知りて、袖丈を求むる方法を問ふ。
(3) 四つ身單衣の普通仕立上げ寸法を擧げよ。

第三　四つ身單衣標附け方

一、**袖**　本裁單衣のときの如く、正しく布を重ね、順次に、山・丈・口・附・幅の標を附く。

二、**身頃**　袖のときの如く布を重ね、山・丈・附・身八つ口・脊・後幅の順

四つ身單衣標附け方



序に標を附く。

後身頃を左に開き、前身頃に衽下り・衿下を標し、衿肩明より裾まで、眞直に前幅の標をなし、衽下りの所は其れより八分、裾の所は三分衽の方へ離して標をなし、之れに絲を渡し、其の間に衽附の標を附け、衽幅を定め、其れより、衽先の所を衿附の方へ一分寄せ、此の標と衿下標とに絲を渡し、中間にて二分程張り出し、恰好よく衿附の標をなし衿丈を計り置く。

三、**衿**　本裁女單衣に同じ。

第四　四つ身單衣縫ひ方順序

縫ひ方は本裁單衣の場合と大差なきを以て、茲には、唯其れと異なる所を掲げて、其の他を省略せり。

一、**袖**　袂の角は袖下を先に、袖口下を後に折りて、縫ひ込みを綴ち附く。

二、**身頃・衽**　脊は袋縫になし、肩當を附く。

前幅と衽附との標を合せ、前身を手前にして縫ひ、衽の方へ折り、脇縫をなし、衿下及び裾を絎ける。

三、**衿**　表衿に裏衿を縫ひ附け、裏衿の方へ折りて、隱し躾を掛け、其れより、本裁に倣ひて衿を附け、衿幅を定めて衿先を縫ひ、引き返して表を出し、衿先の縫ひ込みを裏衿にて包み、裏衿を絎

け附く。

四、**袖附**　本裁女單衣に同じ。

五、**肩揚**　肩幅の中央を揚の折り山とし、寸法通り裄を定め、餘りの寸法を、袖附の五・六分上より、二筋絲にて大針小針に綴ぢて、揚をなす。

六、**腰揚**　脊丈を二つに折り、其れより凡そ一・二寸上を揚の山と定め、脇縫より衽にかけて、揚山を五・六分衿下の方へ斜に下げ、寸法通り身丈を定め、餘りを肩揚の如く綴ぢて、揚をなす。

七、**居敷當**　腰揚の縫ひ目より下に當てゝ綴ぢ附く。

〔設問〕

(1) 四つ身單衣の標附け方を圖解して、其の寸法を記入せよ。

(2) 逆衽裁の得失を述べよ。

第二節　三つ身單衣

第一　三つ身單衣普通仕立上げ方法

袖丈……一尺三・四寸　袖口……四寸　袖附……四寸

袖幅……六寸五分　身丈……二尺六・七寸　衿肩明……一寸二・三分

八つ口……二寸五分　後幅……いつぱい　衽下り……三寸

前幅……いつぱい　衿下……六・七寸　衽幅……いつぱい

衿幅……一寸一分

但し、筒袖のときは、袖丈凡そ六寸五分、袖口凡そ三寸三分、袖附凡そ四寸五分とし、其の他は、總べて右の寸法に從ふ。

第二　三つ身單衣裁ち方・積り方

三つ身は三・四歳の頃に用ふるものなり。

用布の總尺は並幅一丈三尺乃至一丈五尺位とし、一反二枚裁ちを普通とす。

肩當・居敷當には、別に並幅凡そ二尺（内一尺二寸は肩當用）を用意すべし。

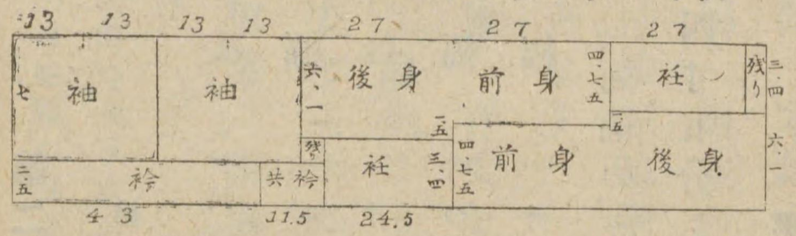
一、並幅一丈三尺三寸にて、袖丈を一尺三寸と定め、身丈其の他の裁ち切り寸法を求むる方法は第一圖に依るべし。

二、並幅一丈九寸にて、筒袖の丈を七寸とし、其の他の裁ち切り寸法を求むる方法は第二圖に依るべし。

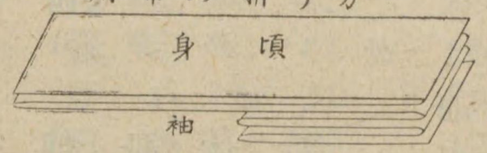
裁ち方の順序は、先づ袖布を裁ち切り、次に、身頃を三枚に折り、右の折り目を向ふより、左の折り目を手前より、各半ばまで切り、中布を半幅に切り放ち、其れより身頃を二枚重ねて、衿肩明の寸法を定め、衽・衿を裁ち切るなり。

第一圖

法寸り切ち裁に並方ち裁の衣單身つ三



用布の折り方



積り方

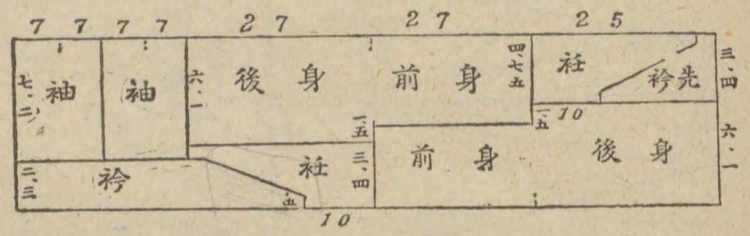
(用布の總尺－袖丈×4)÷3＝身丈
(　133　－ 13 ×4)÷3＝ 27

(用布の總尺－身丈×3)÷4＝袖丈
(　133　－ 27 ×3)÷4＝ 13

身丈×3＋袖丈×4＝用布の總尺
27 ×3＋ 13 ×4＝　133

第二圖

法寸り切ち裁に並方ち裁の衣單身つ三袖筒



〔設問〕

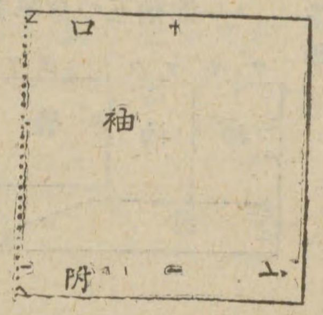
(1) 三つ身單衣の普通仕立上げ寸法を述べよ。

(2) 三つ身單衣の裁ち方順序を説明せよ。

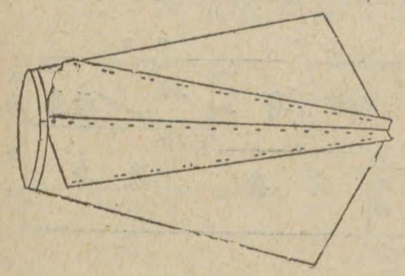
(3)並幅一丈六寸にて、筒袖の丈を七寸裁ち切りとし、三つ身單衣の裁ち方・積り方を示せ。

第三　部分縫

(イ)　筒袖



袖



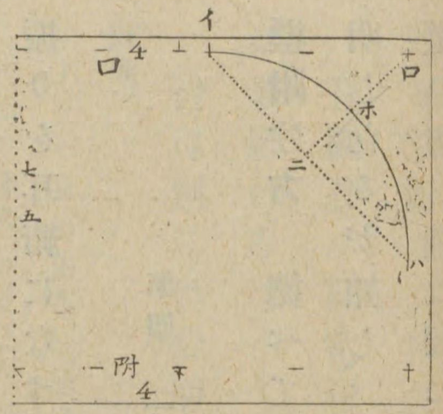
筒

一、標附け方　二尺五寸の練習用布を取り、丈を二つに折りて、山・丈・口・幅の標を附く。

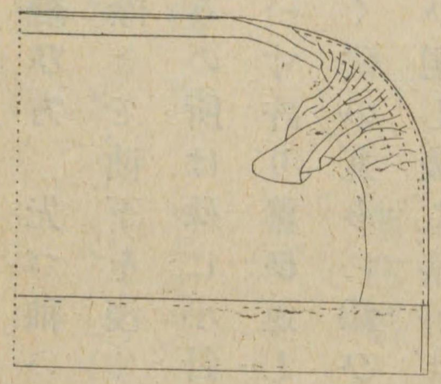
二、縫ひ方　袖下を縫ひ、内袖の方へ折りを附け、外袖の縫ひ込みを口下の方は三分に、附の方は淺く折りて割り綴をなし、後ち、裁ち目を折りて、耳絎になす。

袖口を三つ折りになし、口下の縫ひ目を合せ、こゝに一針通して絎け附く。

(ロ)　元祿袖



元祿袖



一、標附け方　練習用布並幅一枚を袖と見做して、圖の如く布を据ゑ、山・丈・口・附・幅等を標し、其れより、上圖に示せる如く、袖口標の七分ほど下にイ點を附し、ロ・ハの間をイ・ロの間より五分程廣くしてハ點を附し、イ・ハの中央をニとし、ニ・ロの約そ三分の一をニより取りてホ點を標し、イ・ホ・ハの三點を結びて、程よく丸みを附くべし。尚ほ、振りの方にて丈を二三分詰め、適宜に恰好を附くることあり。

二、**縫ひ方**　先づ袖の表を出し、袂の丸みと袖幅の折り込みとを除きて、袖下を淺く縫ひ、裏に返し、袖附の方より袖下を縫ひ、丸みの所は殊に小針に、袖口の標まで縫ひ上げ、こゝに一針留め、一寸許り縫ひ返し、袖口を三つ折りに紵け、次に、圖に示せる如く袂の丸みに添ひ、其の外周りを、二分程づつ隔てて、二・三度縫ひ廻し、後ち、恪好よく絲を引き締め、襞の如く疊みて、綴ぢ合せ、振りを耳紵になすなり。

第四　三つ身單衣標附け方・縫ひ方

一、**標附け方**　總べて本裁女單衣に倣ふ。筒袖は部分縫にて說明したるが如し。

二、**縫ひ方**　袖は四つ身單衣に同じ。筒袖は部分縫にて說明したるが如し。

脊縫及び肩當・居敷當の附け方は四つ身單衣に同じ。衽附は袋縫になすべく、其の他は本裁女單衣に同じ。

衿は別に裏衿切れを用ひざる外、四つ身單衣のときに同じ。

〔設問〕

(1) 三つ身の用布は、通常何程を要するか。

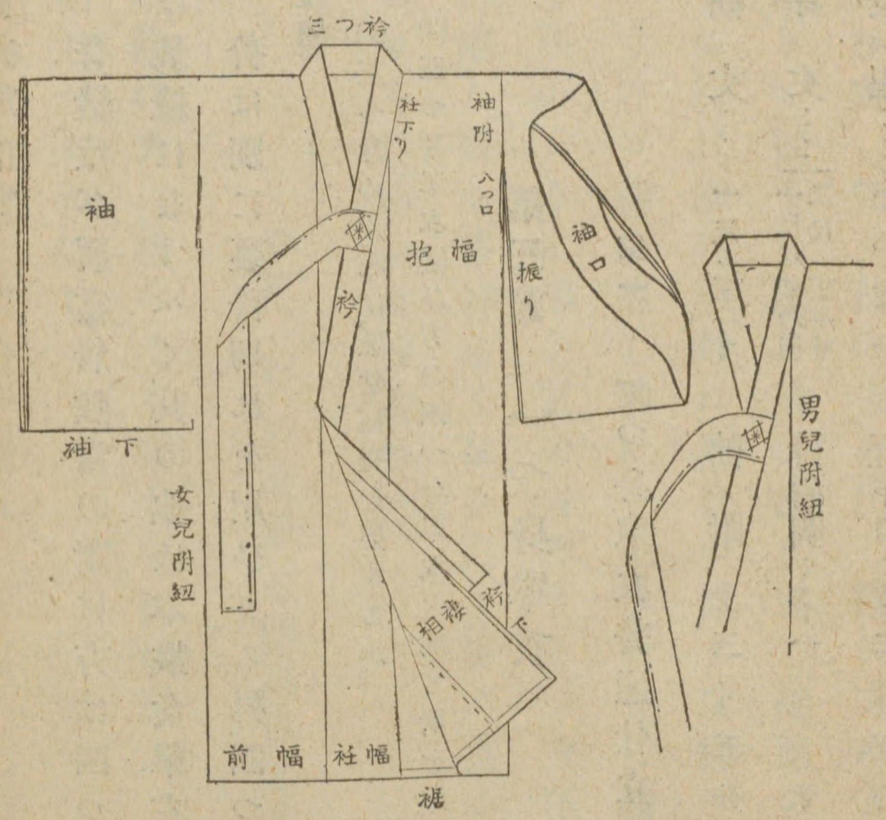
(2) 三つ身單衣縫ひ方の四つ身單衣と異る所を述べよ。

第三節　一つ身單衣

第一　一つ身單衣普通仕立上げ寸法

袖丈	一尺二・三寸	袖附	三寸五分
袖幅	五寸五分	身丈	一尺八寸乃至二尺二・三寸
衿肩明	一寸	八つ口	二寸五分
後幅	いつぱい	衽下り	二寸五分
衿下	凡そ五寸		

一つ身單衣の圖



衿幅……九分

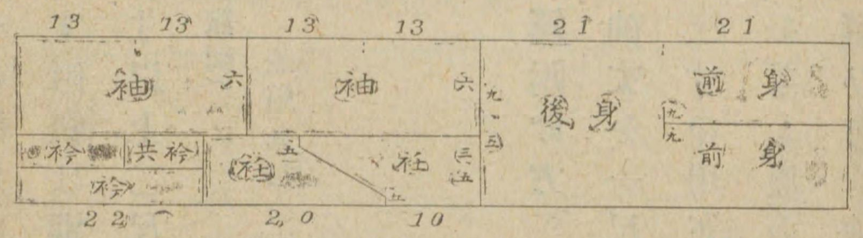
但し、筒袖のときには、袖丈・袖幅は共に凡そ五寸、袖口は凡そ三寸、袖附は凡そ四寸とす。

第二　一つ身單衣

裁ち方・積り方

一つ身は一・二歳の子供に用ふるものなり。

一つ身單衣の裁ち方並に裁ち切り寸法



用布の折り方

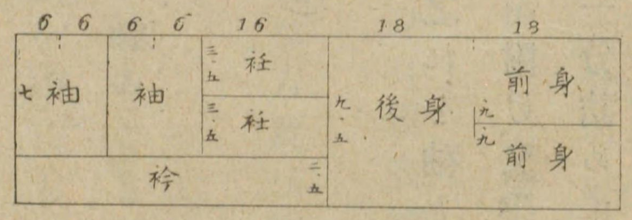
積り方

(用布の總尺－袖丈×4)÷2＝身丈
(　94　－ 13 ×4)÷2＝ 21

(用布の總尺－身丈×2)÷4＝袖丈
(　94　－ 21 ×2)÷4＝ 13

袖丈×4＋身丈×2＝用布の總尺
13 ×4＋ 21 ×2＝　94

並幅七尺六寸にて筒袖一つ身の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(用布の總尺－袖丈×4＋衽下り)÷3＝身丈
(　76　－ 6 ×4＋　2　)÷3＝ 18

用布の總尺は並幅にて七尺以上一丈許りとし、凡そ一反三枚裁とす。附紐は別切れとし、並幅四つ割又は二つ割を用ひ、丈は一尺八寸以上二尺五寸許りとす。

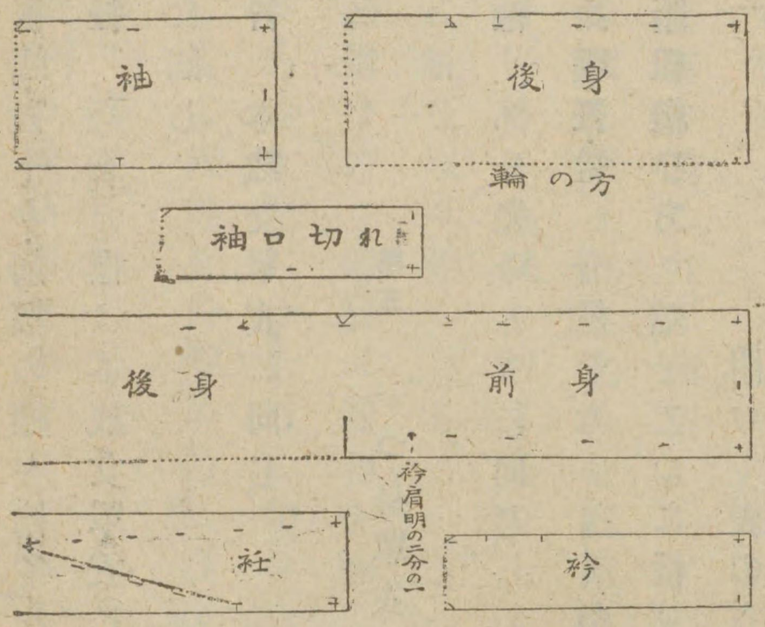
〔設問〕

並幅九尺の用布にて一つ身單衣の裁ち方を圖解せよ。

第三　部分縫　潤袖（袖口切れ附）

一、**標附け方**　二尺五寸の練習用布を取りて、之れを袖と見做し、袖丈を一尺一寸とし、山・丈・附・幅と順次に標を附け、又半幅二尺三寸の用布を袖口切れと見做し、表袖より一分詰めて、丈の標をなし、奥の方に幅標を附く。

二、**縫ひ方**　袖口切れを標通り袖に縫ひ合せ、袖の方へ折り、常の如く袖下を袋縫になし（口切れの所を除く）内袖へ折り、袖袵を二・三厘出して袖口に躾を掛け、引き返して袖口切れの奥に躾を掛け、五・六分の針目に、表へは小針に出して絎け附く。



第四　一つ身單衣標附け方

用布の重ね方及び据ゑ方は、常の如し。

一、**袖**　部分縫のときに同じ。

二、**身頃**　表を中にして幅を二つに折り、次に、丈を二つに折りて、圖の如く山・丈・附・八つ口・

後幅・衽下り・前幅の標を附く。

三、**衽**　衽附の標は本裁女單衣に同じく、衿附の標は四つ身單衣に同じ。

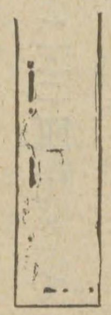
四、**衿**　本裁女單衣に同じ。

第五　一つ身單衣縫ひ方順序

一、**袖**　部分縫のときに同じ。

二、**身頃・衽・衿**　脊縫をなさゞる外、總べて、三つ身單衣に同じ。

三、**附紐縫ひ方**　幅を二つに折り、丈と一方の幅とを縫ひ、折りを附けて表の方へ返し、角を正し、二本絲にて、折り山より一分五厘許り内に、上圖の如く、表裏交互に大針小針の鞦を掛け、(總べて表裏の區



別なき品に鞦を掛くるには、此の仕方を用ふるなり)　其れより、縫ひ殘したる紐の端に、衿幅ほどの心切れを添へ飾刺(かざりさし)をなすなり。

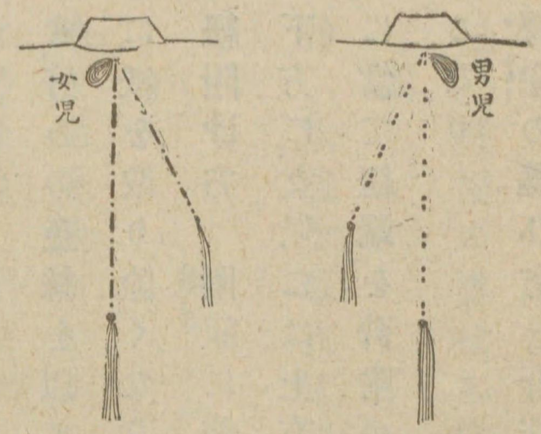
四、**飾刺の刺し方**　飾刺をなすには、先づ適宜の形を撰みて半紙の類に描き置き、之れを紐附の端に當てゝ、其の周圍を綴ぢ合せ、好みの色絲を以て、紙の上より形の通りに刺し、其の後、綺麗に紙を取り除くなり。

五、**紐附け方**　附紐に飾刺を施したる後、紐の縫ひ目を、男兒には下方に、女兒には上方に向け、紐幅の中央を脇縫の留めの通りに當て、紐端を衿附の所に縫ひ附け、折り返して、衿に紵け附くるなり。

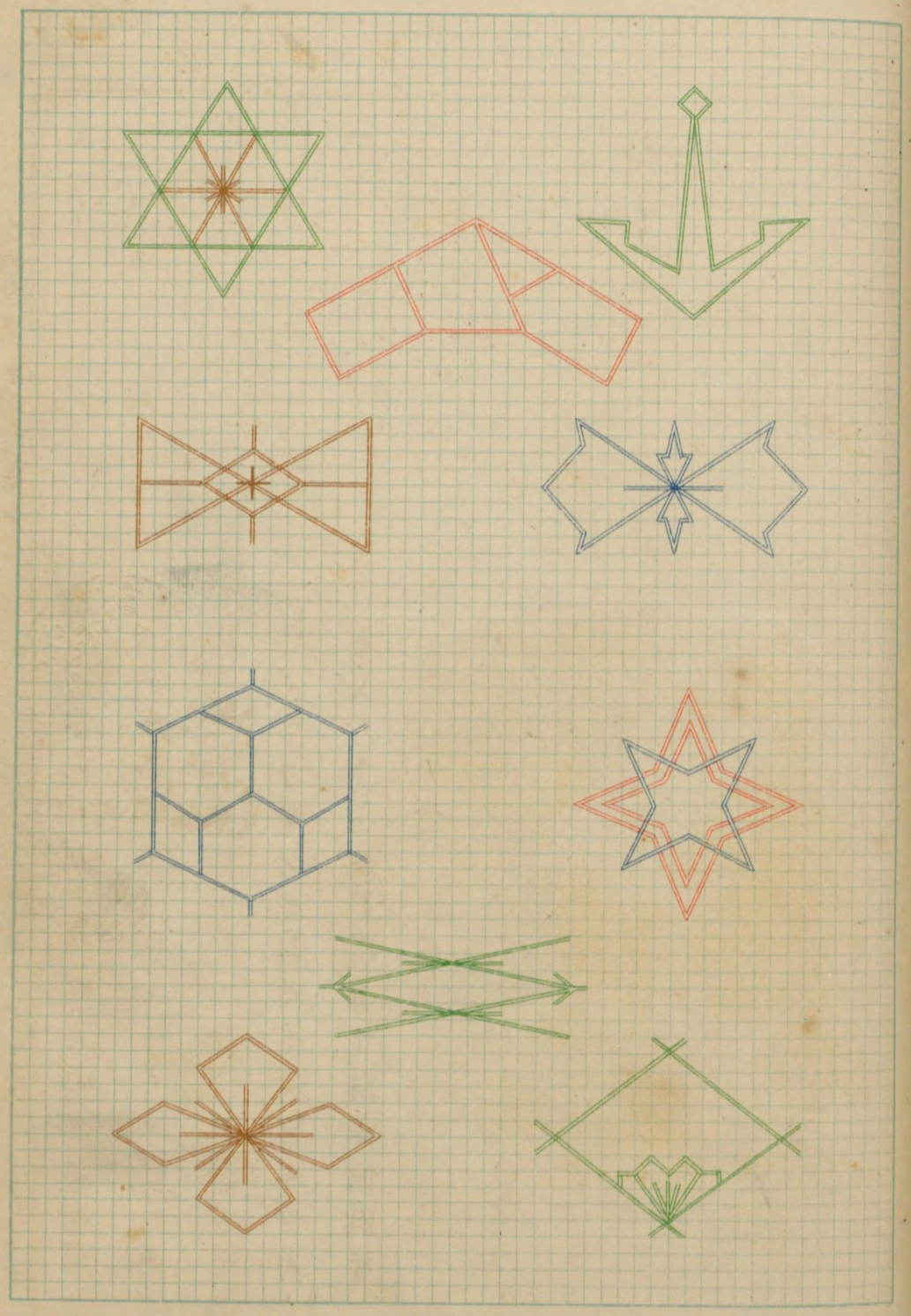
六、**脊守(せまもり)の縫ひ方**　脊守は、衿附より五分程下りて、八寸程の間に

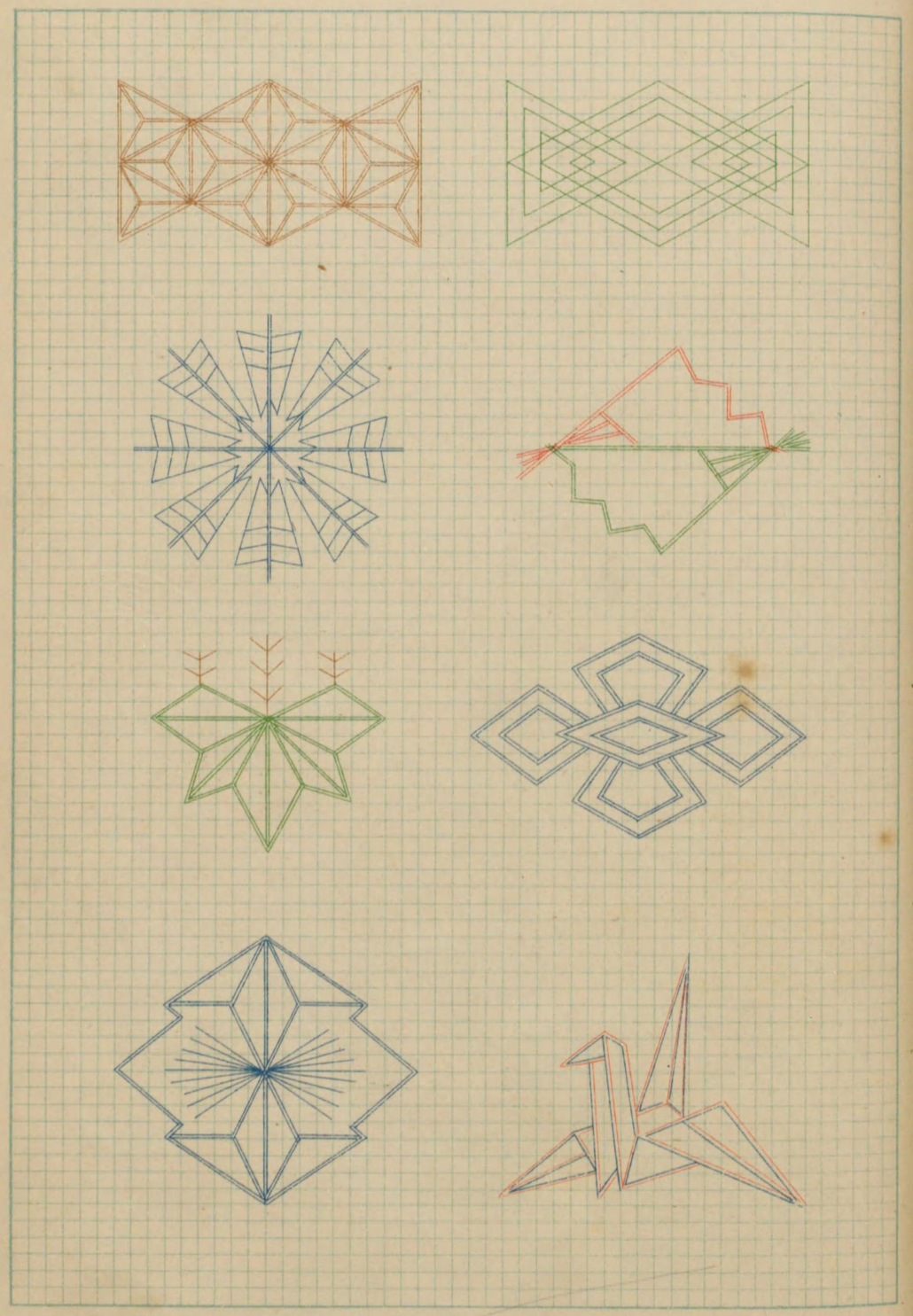
施すものにして、女兒には大針を脊に七針、右方へ一寸五分開きて、斜に五針を出し、(針目の間を一分五厘許りとす)男兒には、女兒の反對に小針のみを表はし、又左方へ斜に開きて縫ふ慣例なり。脊守を縫ふには、豫め針目を計りて紙に描き、之れを脊に綴ぢ附け置き、紅白の絲又は青・黄・赤・白・黑の五色絲にて、其の上より縫ひ、後ち、紙を取り去るなり。

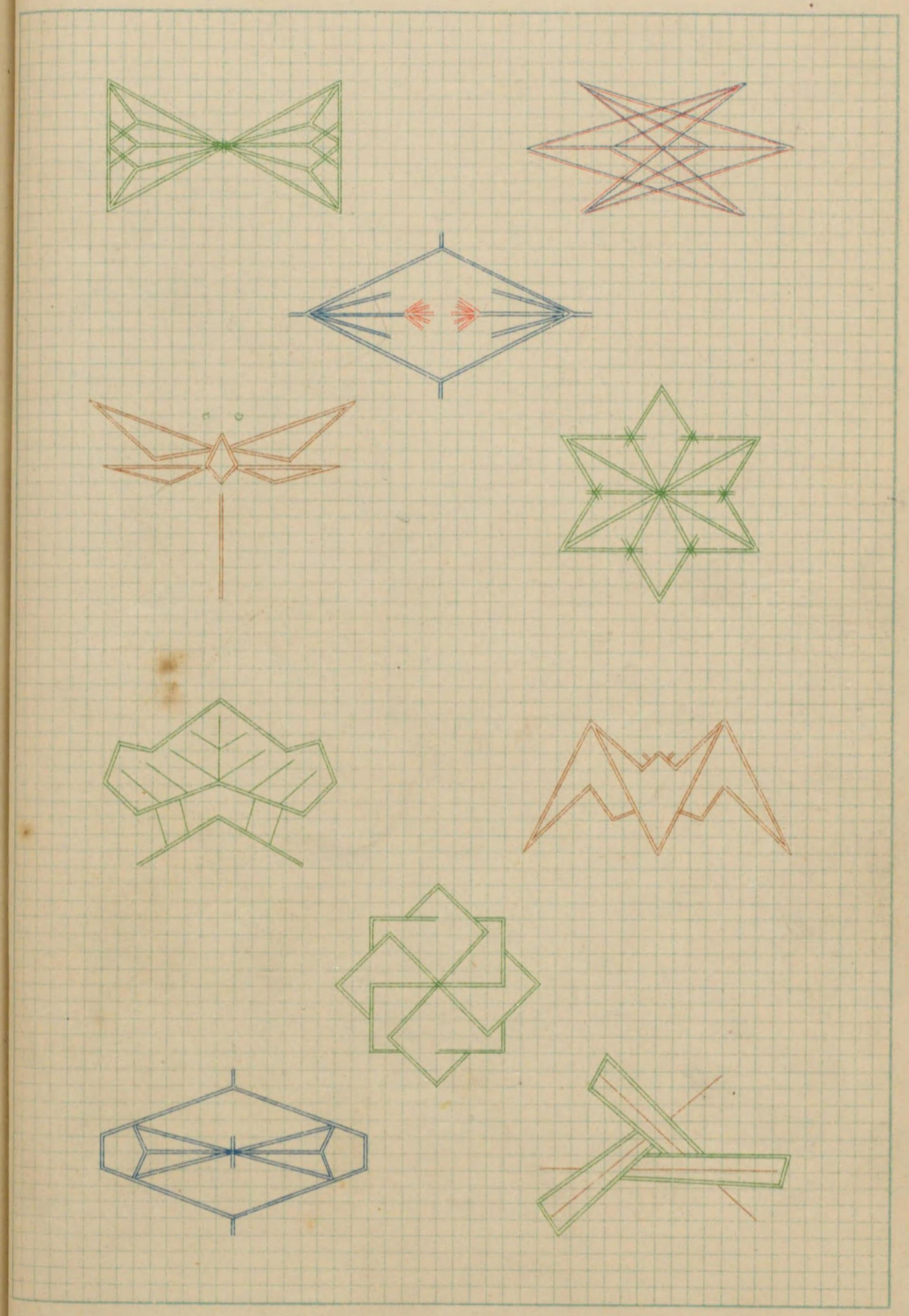
圖の守脊



第四節　中裁・小裁單衣各種裁ち方・積り方

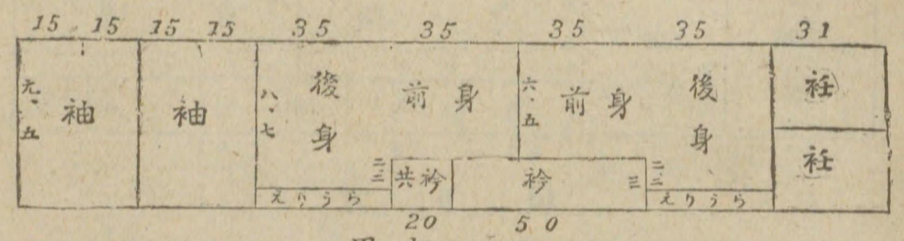




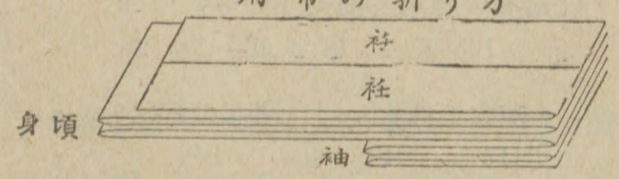


並幅二丈三尺一寸にて

前衿裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



用布の折り方



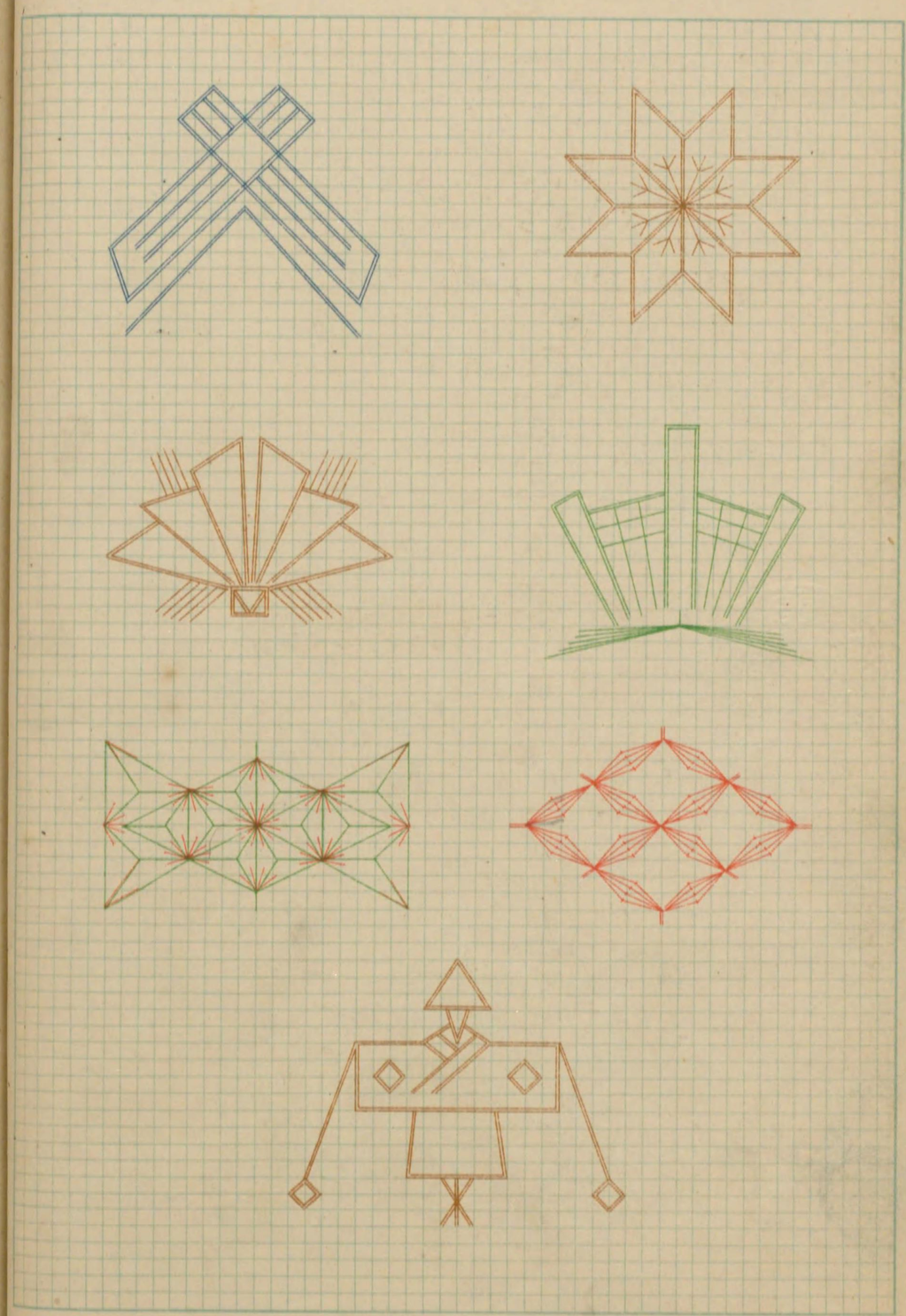
積り方

(用布の總尺－袖丈×4＋衽下り)÷5＝身丈
(　231　－ 15 ×4＋　4　)÷5＝ 35

{用布の總尺－(身丈×5－衽下り)}÷4＝袖丈
{　231　－(35 × 5－ 4　)}÷4＝ 15

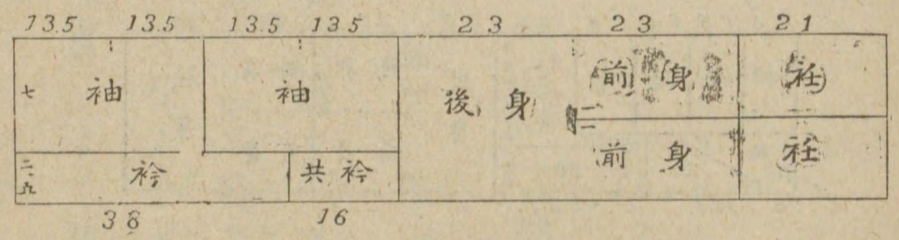
袖丈×4＋身丈×5－衽下り＝用布の總尺
15 ×4＋ 35 ×5－　4　＝　231

〔注意〕前衿裁は四つ身より大振りにて、用布の總尺は並幅二丈三尺許りなり。



並幅一丈二尺一寸にて

一つ身別衽の裁ち方並に裁ち切り寸法



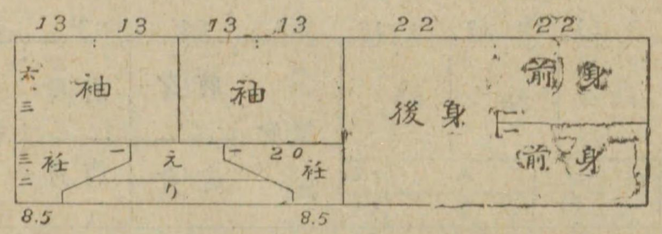
積り方

{用布の總尺－(身丈×3－衽下り)}÷4＝袖丈

{　121　－(　23　×3－　2　)}÷4＝13.5

並幅九尺六寸にて

一つ身鈎衽裁ち方並に裁ち切り寸法



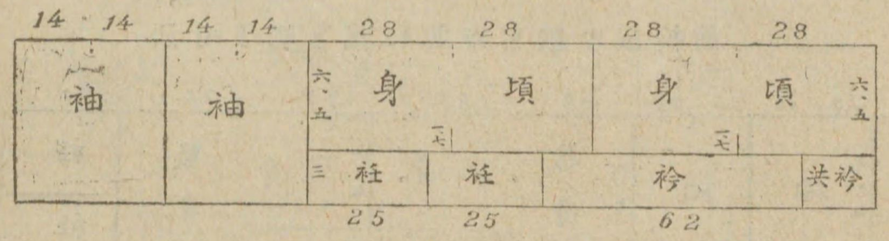
積り方

(用布の總尺－袖丈×4)÷2＝身丈

(　96　－ 13 ×4)÷2＝ 22

並幅一丈六尺八寸にて

車裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(用布の總尺－袖丈×4)÷4＝身丈

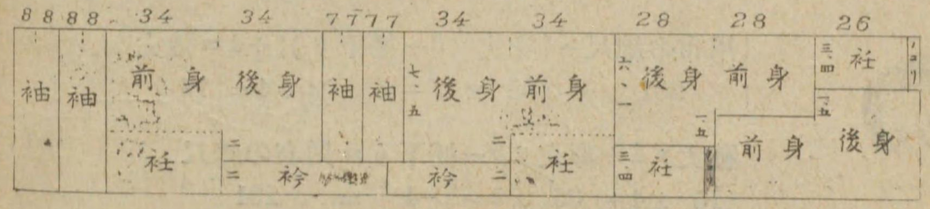
(　168　－ 14 ×4)÷4＝ 28

(袖丈＋身丈)×4＝用布の總尺

(14 ＋ 28)×4＝　168

並幅二丈八尺にて

筒袖の四つ身と三つ身との裁ち合せ方並に裁ち切り寸法



積り方

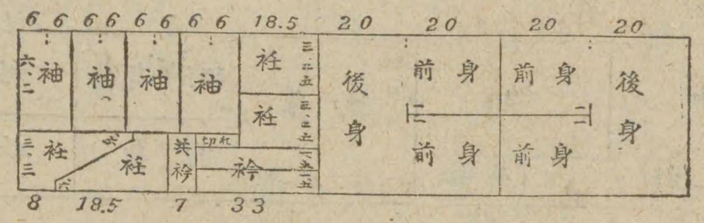
{用布の總尺－(四つ身袖丈＋三つ身袖丈＋四つ身丈)×4}÷3＝三つ身身丈

{　280　－(　8　＋　7　＋　34　)×4}÷3＝　28

〔注意〕五・六歳の小供には車裁を用ふることあり。此の裁ち方は、仕立直しの時、身頃を前後し得る便あり。

並幅一丈四尺六寸五分にて

一つ身筒袖二枚の裁ち合せ方並に裁ち切り寸法



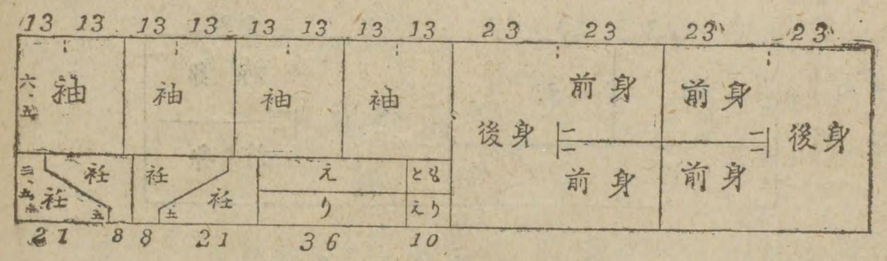
積り方

(用布の總尺＋衽下り－袖丈×8)÷5＝身丈

(　146.5　＋　1.5　－　6　×8)÷5＝　20

一尺幅一丈九尺六寸にて

一つ身二枚裁ち合せ方並に裁ち切り寸法



積り方

(用布の總尺－袖丈×8)÷4＝身丈

(　196　－　13　×8)÷4＝　23

〔設問〕

(1) 並幅八尺三寸にて、一つ身單衣の身丈を二尺一寸とし、別衽の裁ち方により袖丈を求めよ。

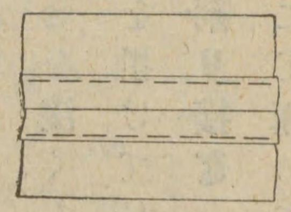
(2) 一つ身單衣の袖丈を一尺二寸五分、身丈を二尺二寸裁ち切りとせば、用布の總尺は何程なるか。又其の裁ち方を圖解せよ。

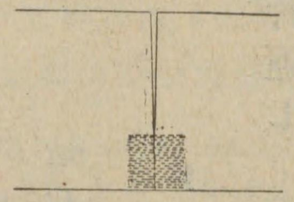
第七章　綿布の繕ひ方

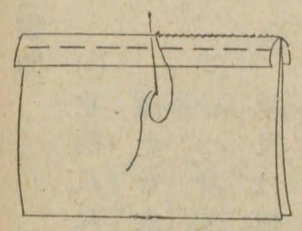
第一　接ぎ方(片返し・割り接ぎ・突合せ接ぎ・掛け接ぎ)

一、**片返し**　接ぐべき切れの布目を合はせ、極めて小針に縫ひ、被せを淺くして縫ひ込みを一方へ折り返し、隠し躾をなし、烙鏝を掛けて仕上ぐるなり。

二、**割り接ぎ**　よく縞目を合はせて躾を掛け置き、共色の細き絲にて、極めて細かく、返し針又は一針抜きに縫ひ、然る後ち、平烙


割り接ぎ

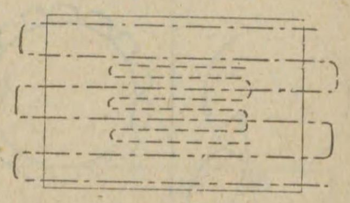

突合せ接ぎ


掛け接ぎ

鏝を掛け、更に縫ひ目を開き、少しく濕りを施し、再び烙鏝を掛け、隱し躾をなして仕上ぐるなり。

三、**突合せ接ぎ**　布の裁ち目を其のまゝに突合せ、共色の細き絲にて、合せ目より各五分程内へかけ交互に、なるべく絲目の見えざるやう、二・三厘の隔たりに縫ひ合はすなり。薄地の品には、裏より其の部分に薄き切れを當て置き、右の仕方を施すべし。

四、**掛け接ぎ**　布目を正して折りを附け、縞目を合せて躾を掛け置き、共色の細き絲にて緯糸一本經糸二本おきに抄ひ行き、終りて躾絲を抜き、裏より霧を吹きて烙鏝を掛くるなり。


色紙繼ぎ

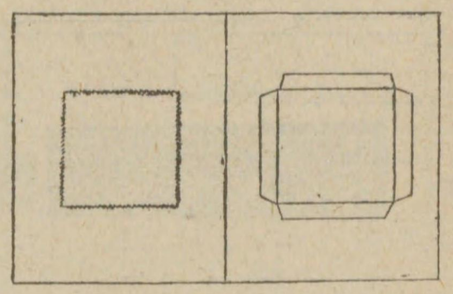
刺し繼ぎ

第二　繼ぎ方（色紙繼ぎ・刺し繼ぎ・孔繼ぎ）

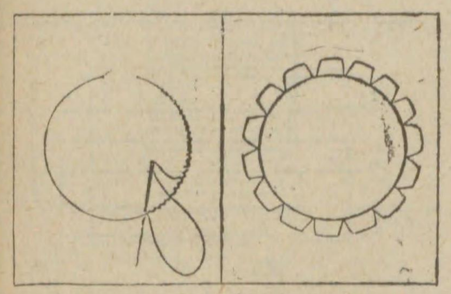
一、**色紙繼ぎ**　地質の弱りたる所へ、其の部分より稍大なる共切れ又は他の切れを當て、其の廻りを綴ぢ、損じ方の多少を見計ひて、共色の繼ぎ絲にて、當て切れの端より一針先きを抄ひ、大針小針にて、圖の如く繼ぐ仕方なり。

二、**刺し繼ぎ**　地質の少し許り弱りたる所に用ふる仕方にして、色紙切れを當てずして、其の解絲又は共色の細き絲にて、織地に傚ひ刺し置くなり。

孔　繼　ぎ

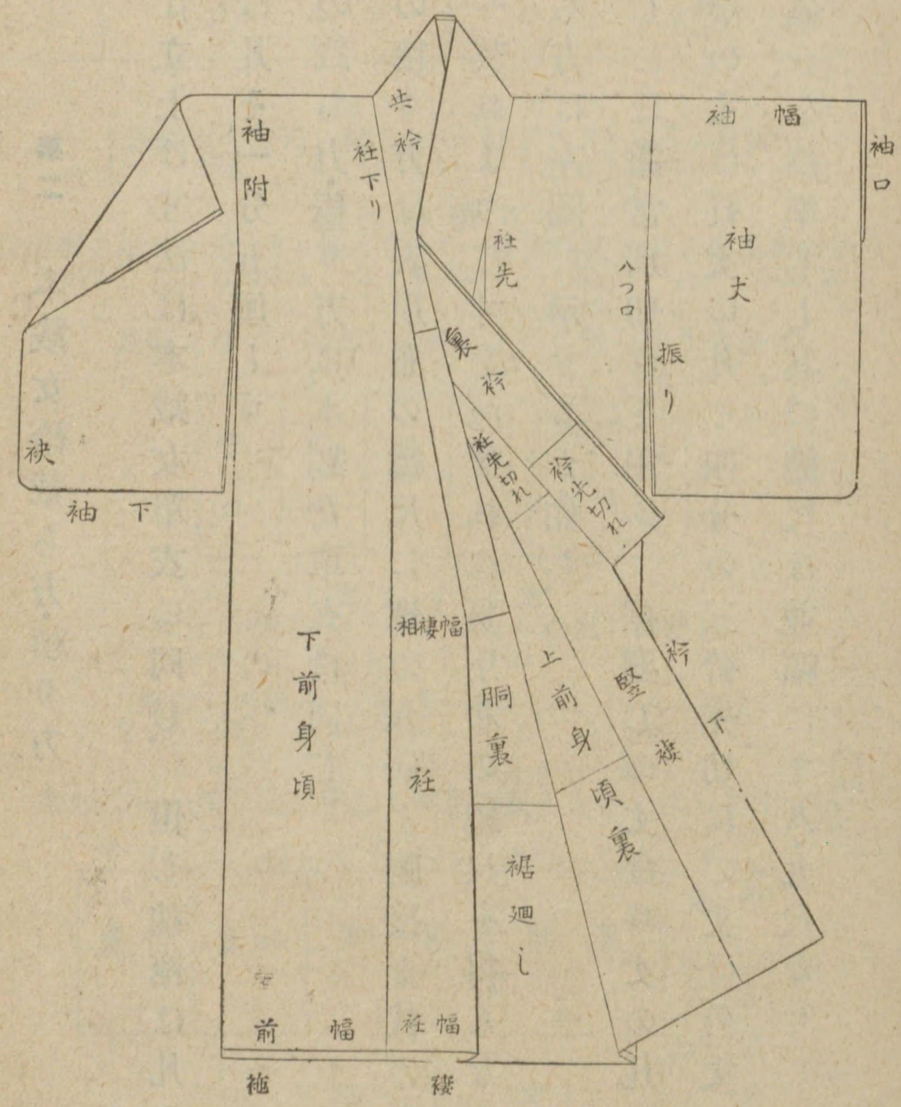


孔　繼　ぎ



三、**孔繼ぎ**（刳繼ともいふ）過つて衣類に孔などの明きたるときに繕ふ仕方にして、圖に示せる如く、損所を圓形或は角形に切り去り、角には四隅に、圓には周圍に切り込みを入れ、恪好よく裏へ折り返し、次に共切れの縞目布目を合せ、廻りに假綴をなし置き、表を見て、掛け接ぎの如く、極めて小針に折り目の角に絲を掛け、表に針目の見えざるやうまつり、然る後ち其の廻りに隱し躾をなし、少しく霧を吹き、烙鏝を當て仕上ぐるなり。

本裁女袷の圖



第二　本裁女袷裁ち方・積り方

普通仕立上げ寸法は、本裁女單衣に同じ。但し、袖袵は凡そ五厘、裾袵は凡そ一分五厘とす。

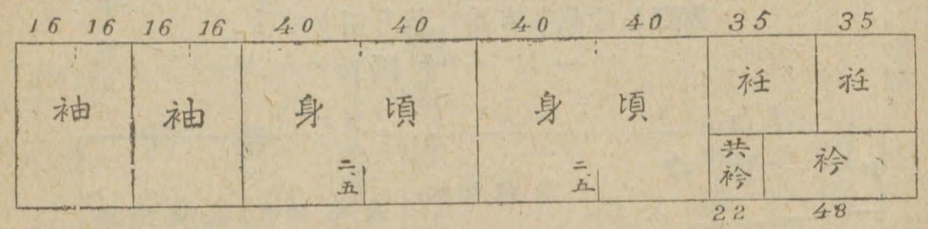
表布の裁ち方・積り方は、本裁女單衣に、同じ。

裏布の積り方は、表用布の總尺に、袵の八倍と胴接ぎ代の六倍とを加へ、其れより二寸を減ずれば、裏用布の總尺を得るなり。

其の裁ち方は、左圖に示せるが如し。

裾廻しには通常別切れを用ふ。裾廻しの丈は身丈の凡そ三分一、竪褄の丈は衽丈の凡そ四分の三、衿先切れの丈は衿丈の凡そ五分の一を標準とし、其の總尺は並幅にて八・九尺なり。

並幅二丈九尺四寸にて本裁女袷表布の裁ち方並に裁ち切り寸法



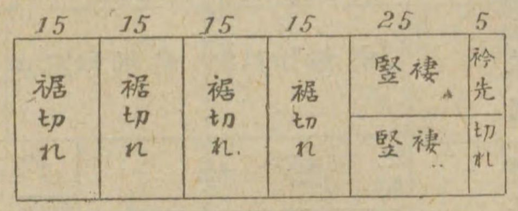
表布の積り方

(表用布の總尺－袖丈×4＋衽下り×2)÷6＝身丈
(　294　－ 16 ×4＋　5　×2)÷6＝ 40

裏布の積り方

表用布の總尺＋袵×8＋接ぎ代×6－表裏衿衽の差＝裏用布の總尺
294　＋15×8＋　2　×6－　　2　＝　305.2

並幅九尺にて裾廻しの裁ち方並に裁ち切り寸法

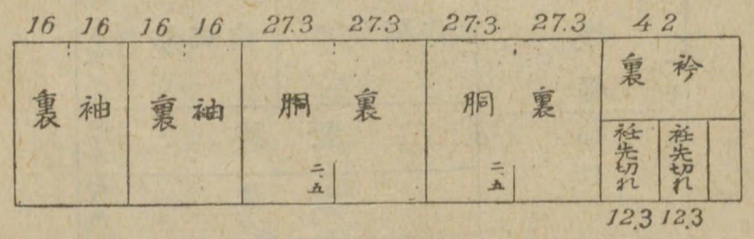


積り方

裾丈×4＋竪褄＋衿先切れ＝裾廻しの總尺
15 ×4＋ 25 ＋　5　＝　　90

{裾廻しの總尺－(竪褄＋衿先切れ)}÷4＝裾丈
{　90　－(25 ＋　5　)}÷4＝ 15

並幅二丈一尺五寸二分にて胴裏の裁ち方並に裁ち切り寸法

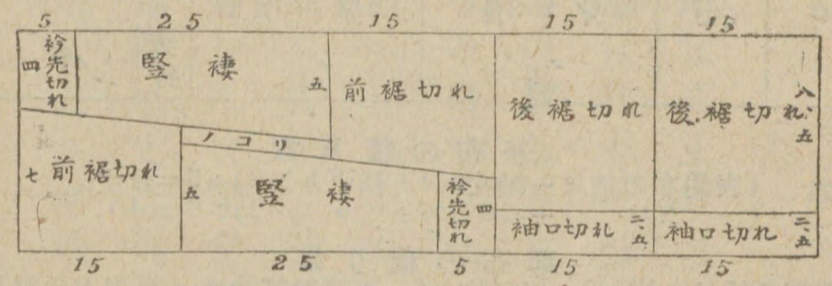


積り方

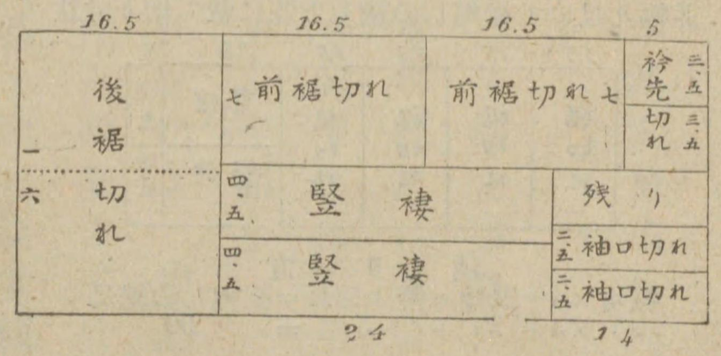
{胴裏の總尺－(袖丈×4＋裏衿)}÷4＝胴裏の丈
{ 215.2　－(16 ×4＋ 42)}÷4＝　27.3

裾廻しの裁ち方並に裁ち切り寸法

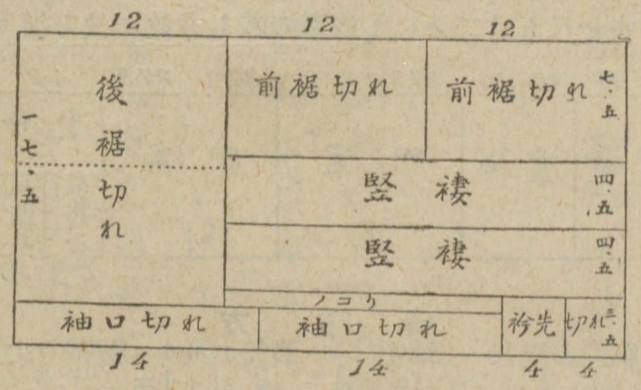
（一尺一寸幅）



（一尺六寸幅）



（二尺幅）



〔設問〕

(1) 裾廻しの各部寸法の標準を問ふ。

(2) 胴裏の積り方を示せ。

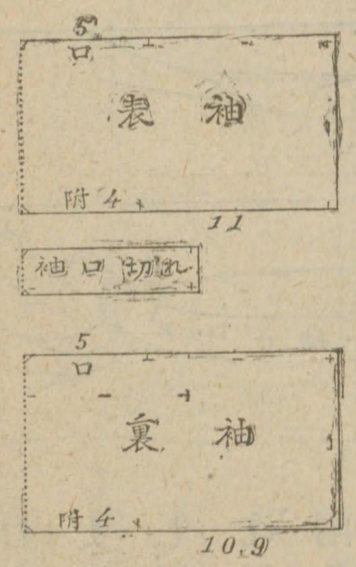
(3) 平躾・隠し躾の掛け方を實習すべし。

第三　部分縫

（イ）袖

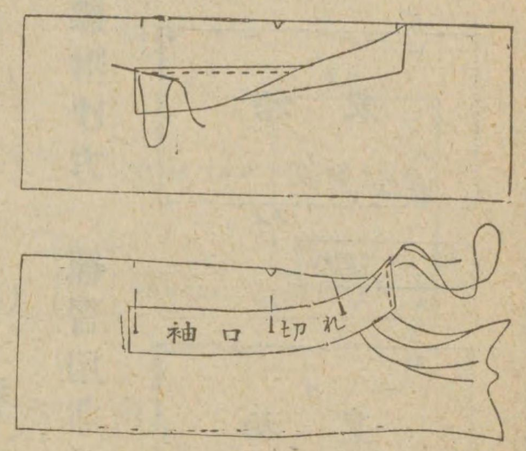
一、標附け方　練習用布並幅二枚を表裏の袖と見做し、四つ割切れを袖口切れとし、第一圖の通り標を附く。（裏袖の丈を、振りの方にて、表袖より一分詰むべし）

第一圖

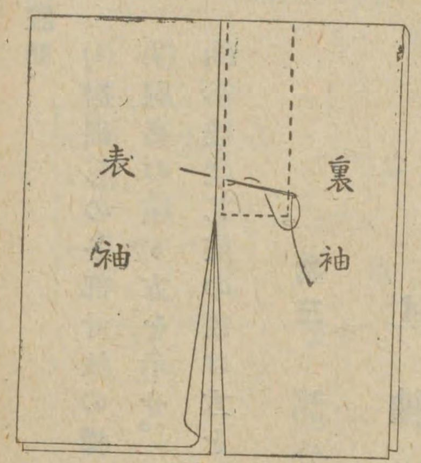


二、縫ひ方　先づ第二圖の如く、袖

第二圖

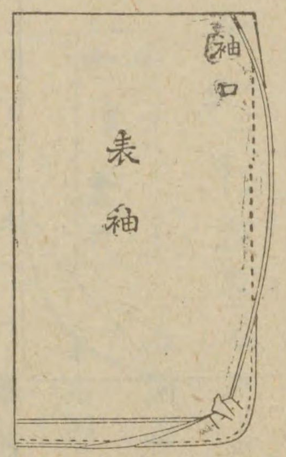


第三圖



口切れを裏袖の標に合せ、袖口切れの丈標より縫ひ始め、角の所にて一針返し、標通りに奥を縫ひ行き、他方の角にて又一針返して、他方の丈標まで縫ひ、兩角を三角に折りて、袖口切れの方へ折りを附け、引き返して、裏より烙鏝を當て、躾をかけ、(厚地の切れは、丈標の所を折らず、其のまゝ千鳥掛になすべし。)表裏の袖口標を合せ、表布を見て袖口を縫ひ、(標より一分程兩端を縫ひ殘す)五厘被せに表布の方へ折り、第三圖の如く、袖口標の所に四つ留めをなすべ

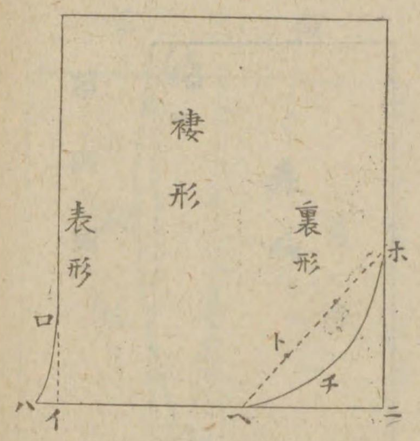
第四圖



第五圖

し。四つ留めの仕方は表裏の内袖に外袖を挾み、先づ裏の内袖の袍山より針を出して、外袖の袍山を抄ひ、次に、表の外袖の被せ山より、布の縦目に沿ひて、内袖の被せ山を淺く抄ひ、再び裏の内袖に戻り、始めの絲と結びて撚り合せ置くなり。其れより、口下二寸程を表裏別々に縫ひ、(表は返し針になし、留より少許り縫ひ代の方へ寄せ、裏は幅の方へ五厘程寄せて縫ふべし。)表は内袖の方へ斜に折り、裏は縫ひ目を割りて綴ち合せ、以下四つ縫ひに袂を縫

ひ廻し、袖下の三分の二程縫ひて一針留め、三分の一許りは表裏別々に縫ひ、折りを附け、(袂形は本裁女單衣の部分縫に於て説明したるが如し。) 袖幅の標をなし、裏袖の幅を少しく詰め、表布を見て振りを縫ひ廻し(袖附標より一分程兩端を縫ひ殘し、袖下の所は裏を稍張り加減に縫ふべし。) 平烙鏝をかけ、引き返して躾を掛くるなり。

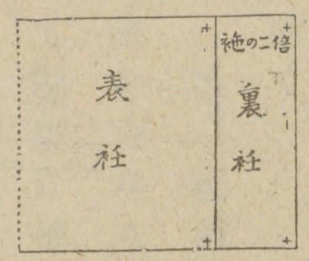


(ロ)　褄袵二分)

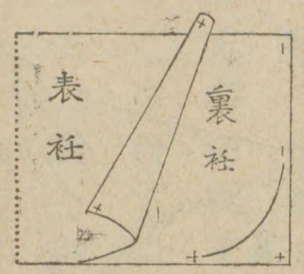
一、**褄形**　表形の切り下げは、上圖に示せる如く、イ・ロの間を袵の一倍半、イ・ハの間を袵の四分の一とし、ハ・ロの二點に亘りて、程よく恰好を附け、標をなすなり。

裏形のニ・ホ間は袵の二倍に三分を加へたるものとし、ニ・ヘの間は袵の二倍より表の切り下げを減じたる長さとし、ヘ・ホ線の三分の一に當れるトよりニの方へ、袵の凡そ五分の三を隔てたる所をチとし、ホ・チ・ヘの三點に亘り、恰好よく標するなり。

第一圖



第二圖



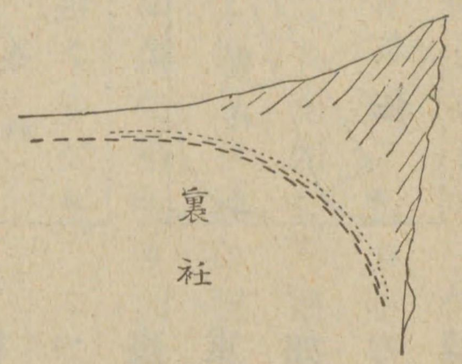
二、**標附け方**　練習用布半幅一枚を取り、丈を二つに折りて表裏の衽と見做し、第一圖の如く、裏衽の裾を袵の二倍だけ出して、表裏の衽を重ね、褄先及び衽幅の標をなし、次に第二圖の如く、表衽を除きて、裏衽に褄形の標を附くるなり。

三、**縫ひ方**　裏衽の褄形の標通り小針に縫ひ、其

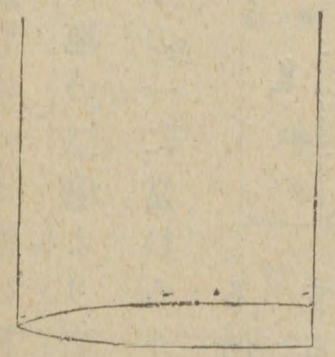
の中程にて略、表の幅と等しき長さに、絲を引き締め、烙鏝にていせを消す。

表裏の標を合せ、程よく待針を打ち、裏を見て縫ひ、褄先を返し留にし、其れより、平烙鏝を當てゝ形を整へ、一分被せに表の方へ折り、折り目より一分五厘程上に、針目の間を五・六分に隠し躾を掛け、後ち、袷下を縫ふなり。

第三圖



第四圖



〔設問〕

(1) 女袷の袖につき、袖口切れの掛け方、袖口の留め方を述べよ。

(2) 褄の標附け方及び縫ひ方を説明すべし。

第四　本裁女袷標附け方

一、**袖**　部分縫のときに同じ。唯寸法に差異あるのみ。

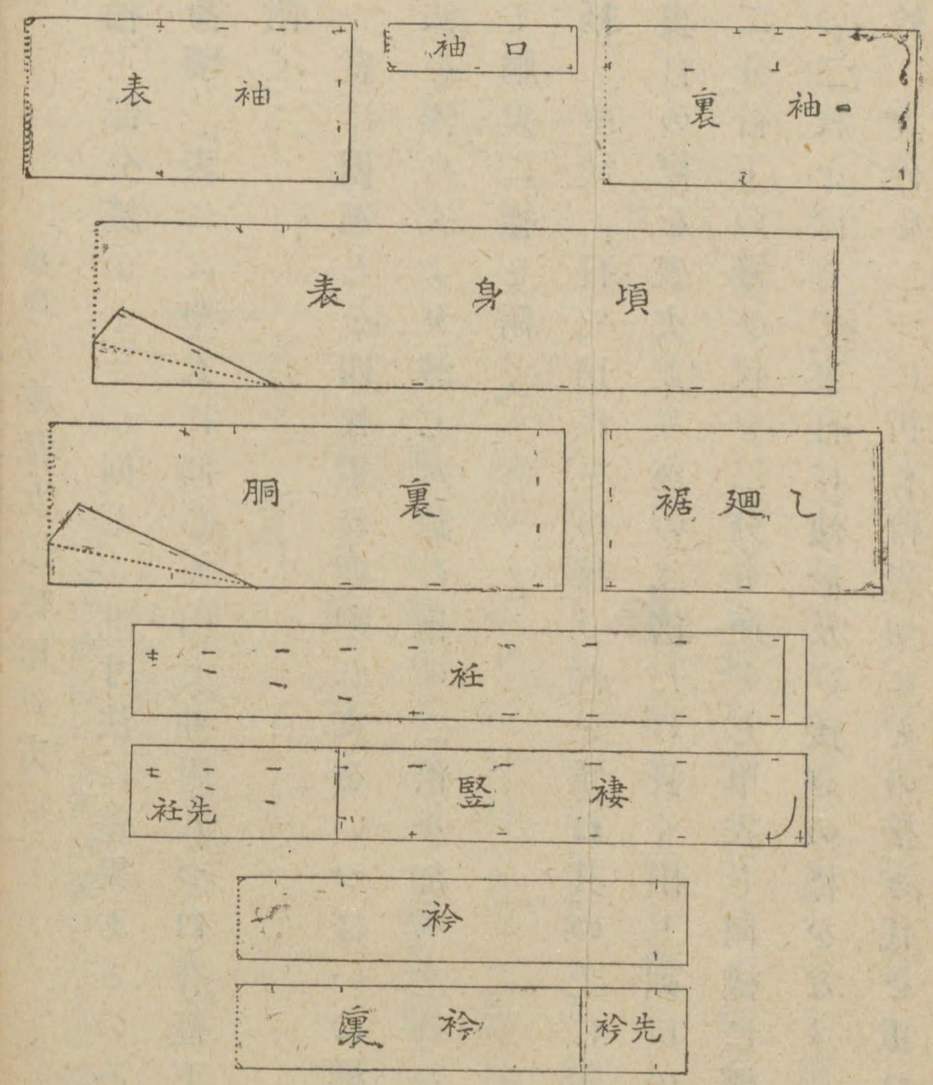
二、**身頃**　表には單衣に同じく、山・丈・袖附・八つ口・脊・衽下りの標を附く。

裏に裾廻しを四枚重ね、裾廻し丈をいつぱいに標し、其の寸法を表身丈より減じ、殘數に袵の二倍を加へ、之れを胴丈として、胴裏に標を附く。

三、**衽**　堅褄と衽先切れとの接ぎ代を重ね、其の上に表衽を載せ、裏衽の裾を表丈より袵の二倍だけ長く出し、裾口の縫ひ代を二分、袷下の縫ひ代を二分五厘とし、單衣と同様に標をなし、表の二枚を除きて、裏衽に褄形及び接ぎの標をなす。

四、**袷**　裏袷を二つに折り、袷先切れとの接ぎ代を重ね、表袷を二

本裁女袷標附け方



つに折り、山を揃へて其の上に載せ、本裁女單衣のときに同じく標を附く。

〔設問〕本裁女袷の裾廻し及び胴裏の標附け方を述べよ。

第五　本裁女袷縫ひ方順序

一、**袖**　部分縫のときに同じ。

二、**表身頃**　脊を縫ひて肩幅・後幅を標し、脇を縫ひて折りを附く。

三、**裏身頃**　胴裏と裾廻しとを縫ひ合せ、胴の方へ折り、躾を掛け、脊を縫ひて肩幅・後幅を標し、表布と反對の方に折り、裾口にて後幅を五厘許り詰めて、脇を縫ひ、折りを附く。

表裏の裾口を、表を見て縫ひ合せ、一分被せに表へ折り、袵を定め、假躾を掛け、表裏の脊・脇の縫ひ目を綴ぢ、八つ口は前身にて後身を挾みて四つに留め、下の方より縫ひ上げ、袖附の一分下にて絲を留むるなり。

四、**袖附**　山及び附の標を合せ、附の始め終りは四つ留めになし、之れより表裏別々に小針に縫ひ、表袖は袖の方へ、裏袖は身の

方へ折りを附く。但し、袖附の四つ留めの仕方は、表袖より順次に、表身・裏袖・裏身を抄ひ、再び元に戻りて結び合せ置くなり。

前身の表裏を合せ、衽附の方に假綴をなし、幅の標を附く。

五、**褄縫・衽附**　先づ竪褄と衽先切れとを接ぎ合せ、衽先切れの方へ折りて躾をかけ、部分縫のときの如く褄を縫ひ、次に、衽と前身との袵を揃へ、衽にて前身を挾み、左右とも裾の方より一針抜きに四つ縫ひになし、表の方へ折り、次に、裏幅を少しく詰めて、衿下の表裏を縫ひ合せ、同じく表の方へ折り、引き返して躾をかけ、衿附の所に假綴をなす。

六、**衿附**　先づ裏衿に衿先切れを接ぎ合せ、裏衿の方へ折りて躾をかけ、本裁女單衣のときの如く衿附をなし、衿絲を附く。

七、**共衿**　本裁女單衣に同じ。

八、裾綴　表裾の折り目より一分五厘程上りたる所（衽を除く）に裾綴をなす。綴ぢ方は、針目を小さくして、前幅に三針、後幅に四針を裏に出し、其の間に一針づつ表に出すものとす。

〔設問〕本裁女袷の縫ひ方順序を説明すべし。

第九章　本裁男袷

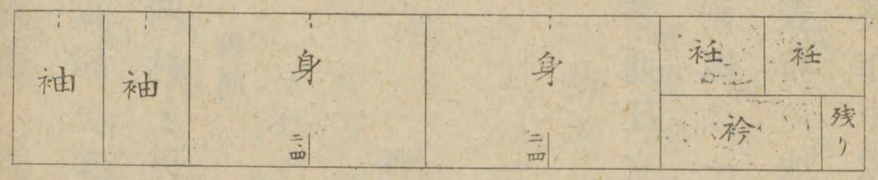
第一　本裁男袷裁ち方・積り方

普通仕立上げ寸法は、本裁男單衣に同じ。但し、袖袵は五厘以内、裾袵は一分とす。

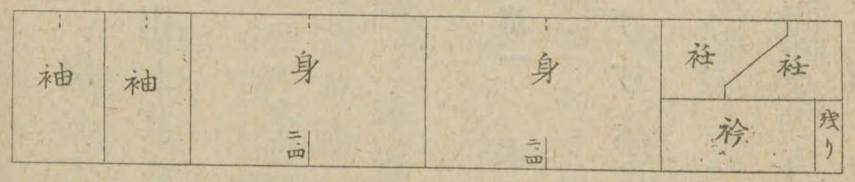
表布の裁ち方・積り方は、本裁男單衣に同じ。

裏布の裁ち方・積り方は、裾廻し附きの場合には、本裁女袷に同

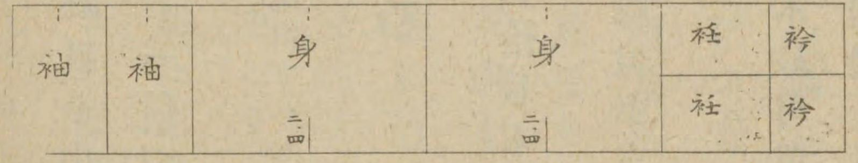
第一圖　男物裏布の棒衽裁ち方



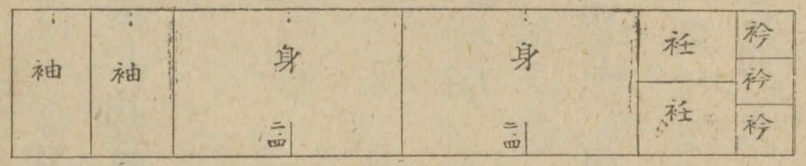
第二圖　男物裏布の鈎衽裁ち方



第三圖　男物裏布の二つ割衿裁ち方



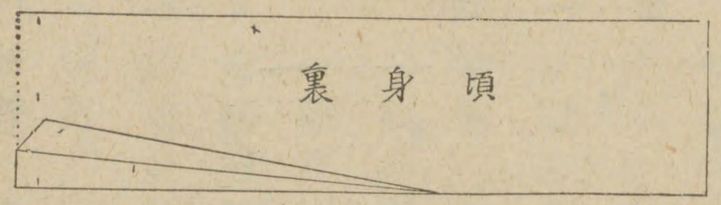
第四圖　男物裏布の三つ割衿裁ち方



じ唯寸法の差異あるのみ。

通し裏の場合には第一圖の如く裁つべし。裏地の短き物は第二圖の如く鈎衽裁になし、或は第三圖又は第四圖の如く衿を二つ割又は三つ割になすことあり。

（注意）裏布の身丈及び衽丈は表布よりも、袵の二倍以上長きを要す。尚ほ餘裕あらば、成るべく長く裁ちて、揚を多くなし置くを宜しとす。斯くせば、仕立直し等の際に便利多かるべし。



第二　本裁男袷標附け方

一、**袖**　本裁女袷に同じ。但し、裏袖の人形の方に於ける丈及び幅は表袖より五厘程詰むべし。

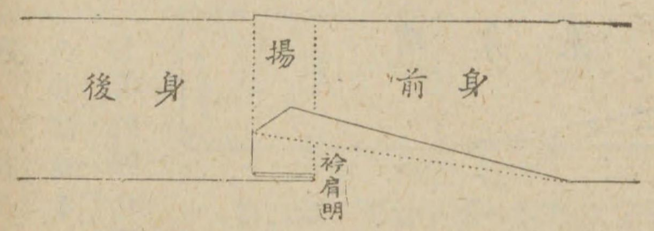
二、**表身頃**　本裁女袷に同じ。但し、揚の標附け方は本裁男單衣に同じ。

三、**裏身頃**　裾口を揃へ、四枚を重ねて平に裾ゑ、丈は表より袵の二倍だけ長くし、尚ほ餘りあらば、肩にて揚の標を附け、其の所より袖附及び衽下りの標をなすこと、上圖に示すが如し。

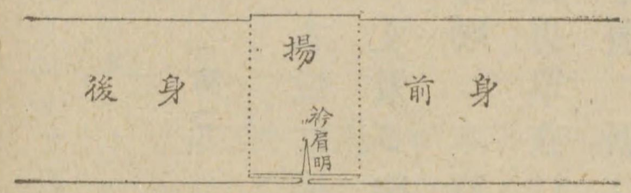
四、**袵袷**　本裁女袷のときに同じ。

第三　本裁男袷縫ひ方順序

第一圖



第二圖



一、**袖**　縫ひ方は略女袷のときに同じと雖も、人形及び袖下二寸程は表裏の袖を別々に縫ひ、表袖は常の如く折り、裏袖は人形の縫ひ目を割りて、袖下を折り、其の角を表と共に一針返して留むるなり。

二、**表身頃**　先づ脊を縫ひ、幅標をなし、次に、揚をなし、脇を縫ふ。

三、**裏身頃**　脊を縫ひ、幅標をなし（裾口にて表より五厘程詰むべし。）折りを附け、（脊は表と反對の方へ折るべし。）揚をなし、其の多少により、縫ひ目を割り、又は後へ片返しになして躾をかけ、其れより、脇縫をなし、裾口を縫ひ合せ、表裏の脊・脇の縫ひ目を綴ぢ合す。

四、**袖附**　山を合せ、表布は袖にて身頃を挾み、裏布は身頃にて袖を挾み、各四つ留めをなし、本裁女袷に倣ひて袖附をなす。

前身の表裏を綴ぢ合せ、幅標をなす。

五、**褄縫・袵附**　本裁女袷に同じ。

六、**袷附・共袷**　本裁男單衣に同じ。

七、**裾綴**　本裁女袷に同じ。但し、針目は前幅に四針、後幅に五針を裏に出すなり。

〔設問〕

(1) 本裁男袷の女物と異なる所を述べよ。

(2) 表裏の揚の仕方を説明せよ。

第十章　四つ身袷

第一　四つ身袷裁ち方・積り方

普通仕立上げ寸法は四つ身單衣に同じ。但し、袍は本裁女袷に準すべし。

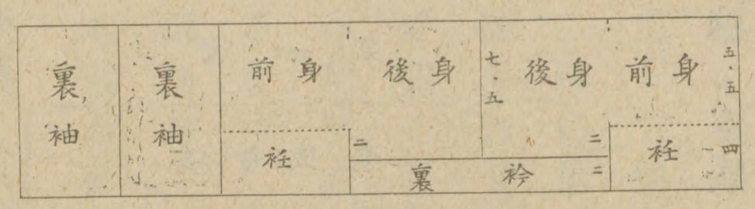
表布の裁ち方・積り方は四つ身單衣に同じ。

裾廻し附き裏布の總尺を求むるには、表用布の總尺に、袍の八倍と胴接ぎ代の四倍とを加ふべく、通し裏の場合には、表用布の總尺に袍の八倍だけを加ふべし。

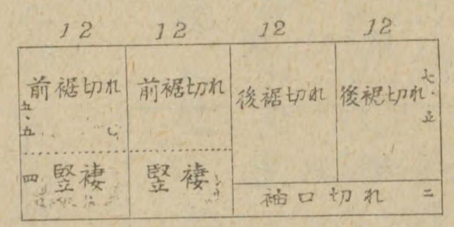
裾廻しの總尺は、並幅四尺八寸以上五尺五寸許りを通常とす。

胴裏及び裾廻しの裁ち方・積り方は左圖の如し

方ち裁の裏胴身つ四てにて幅並



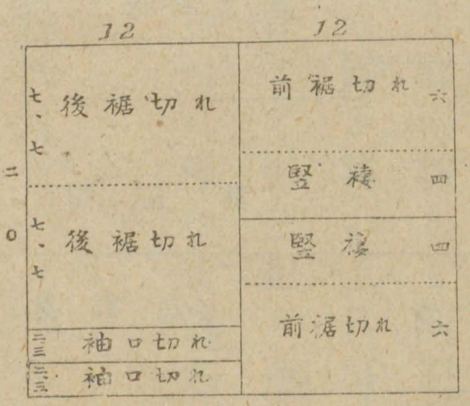
法寸り切ち裁に並方裁ちの裁しの廻裾てにて寸八尺四幅並



方り積

表用布の總尺－裾廻しの總尺＋
袍×8＋接ぎ代×4＝胴裏の總尺

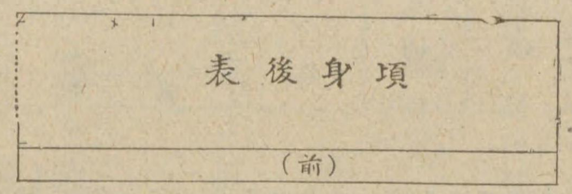
法寸り切ち裁に並方裁ちの裁しの廻裾　寸四尺二幅尺二並



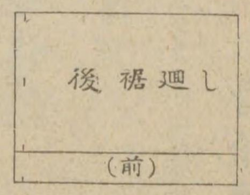
第二　四つ身袷標附け方・縫ひ方

四つ身袷標附け方

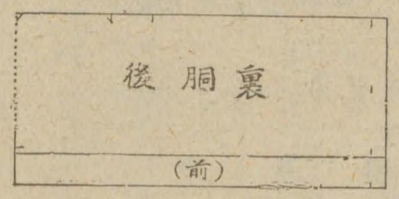
第一圖



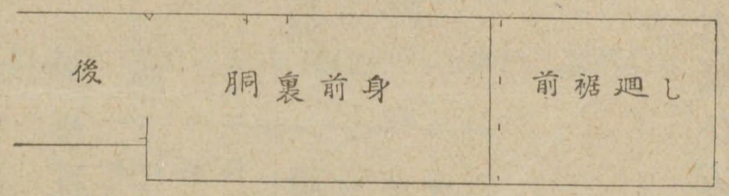
第二圖



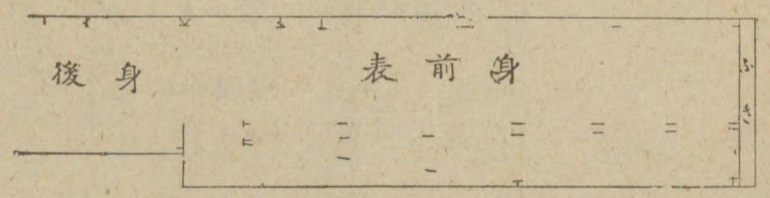
第三圖



第四圖



第五圖



一、**袖**　本裁女袷に同じく標をなす。

二、**身頃**　四つ身單衣に倣ひて表身頃を重ね、第一圖の如く、山・附・八つ口の標をなし、裾廻しの四枚を重ね、第二圖の如く、裾丈を標し、表身丈より裾丈を減し、殘數に袵の二倍を加へたるを胴丈とし、第三圖の如く、胴裏に、山・丈・附・八つ口・脊の標を附く。

次に、第四圖の如く、後身頃を左に開き、前裾廻しと前胴裏と接ぎ合せの標を重ね、針又は絲にて留め置き、其の上に、第五圖の如く、表の前身頃を載せ、各部の標を合せて、袵を定め、他は四つ身單衣と同樣に、標をなし、後ち、本裁女袷に倣ひて褄形の標をなす。

三、**縫ひ方**　衽及び衿の附け方は四つ身單衣に同じく、其の他は本裁女袷と異なることなし。

〔附言〕三つ身袷の普通仕立上げ寸法及び表布の裁ち方・積り方は三つ身單衣に同じ。

裾廻し附きの裏布の總尺を求むるには、表用布の總尺に袵の六倍と胴接ぎ代の三倍とを加ふべく、通し裏の場合には、表用布の總尺に、袵の六倍だけを加ふべし。

胴裏の總尺を求むるには表用布の總尺に、袵の六倍と胴接ぎ代の三倍とを加へ、之れより裾廻しの總尺を減ずべし。

裾廻しの總尺は、並幅凡そ三尺以上三尺五寸位を通常とす。其の裁ち方は用布を三等分し、其の一枚を半幅に裁ちて、前裾とし、他の二枚を裁ち合せて後裾と竪褄とに充つるなり。

第十一章　本裁女綿入

第一　本裁女綿入裁ち方・積り方

普通仕立上げ寸法は、本裁女單衣に同じ。但し、袖袵は凡そ一分五厘、裾袵は二・三分とす。

裁ち方・積り方は、表裏共に本裁女袷に同じ。

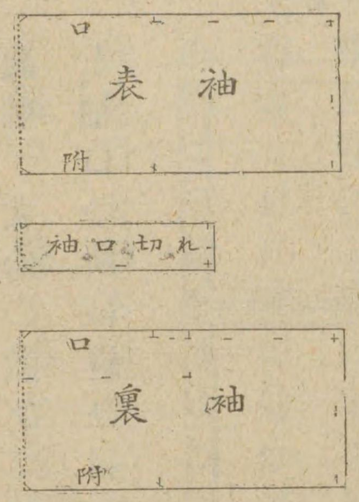
〔設問〕

(1) 裾廻しの用布は、通常何程を要するか。

(2) 本裁の胴裏積り方を説明せよ。

第二　部分縫　袖・褄(袵三分)

一、標附け方　練習用布並幅二枚と、四つ割切れ一枚とを以て、表裏の袖及び袖口切れと見做し、表袖には、本裁女袷の如く標を附く。



裏袖には、振りの方にて、丈・幅を表袖より一分詰め、女袷の如く標をなし、其れより、圖の如く袖口標の所にて四分、一寸程下りて袂まで五分の深さに、縫ひ代の標をなす。

二、縫ひ方

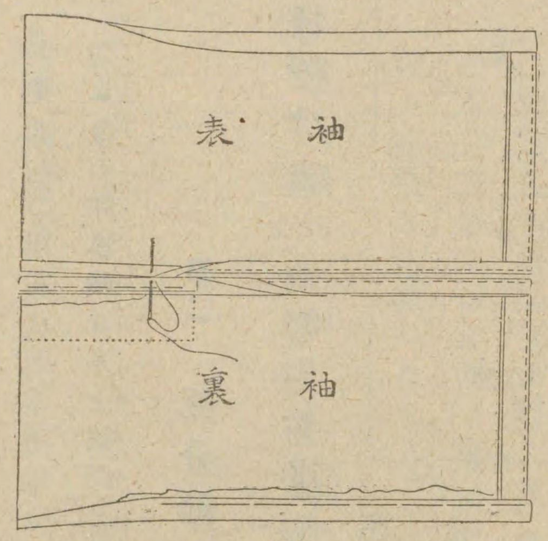
表袖　袖下より標通りに縫ひ、幅標を附け、内袖の方へ折り、引き返して躾を掛く。

裏袖　女袷に倣ひて、袖口切れを掛け、標通りに縫ひ、幅標をなし、袖口の所は縫ひ目を割り、其の他は内袖の方へ折る。

袖袵綿作り方　小袖綿の丈を袖口明の二倍より一寸程長くし、六分幅一枚に、三分幅一枚を重ねて、綿の厚薄を加減すべし。

袖袵綿含め方　袵綿を袖口切れに當て、左の拇指にて綿を含めながら、右指にて袵山を折りつつ、先づ、袖口標の五分程下を一針綴ぢ、

袖口・振りの綿含め方



次に、袖口標にて一針、又次に、五分程上に一針、其れより上は等分に一寸程の針目にて、表へは小さく針目を出して、綴ぢ行き、山より二分程の所に一針出し、他方の袖口明を同様に綴ぢ附くるなり。

紆け方　内袖にて外袖を挾み、袖口標の所にて、極めて淺く四枚を抄ひて袖口留めをなし、袖口留めの五・六分上までは、表を稍張り目に、其の餘は、表を弛め加減に、表の折り目の五厘内を、小針にて、綿を抄はぬ樣紆け行き、其の絲にて、袂先まで表裏の縫ひ目を綴ぢ合すなり。

振りに薄く綿を含め、一寸二・三分おきに、表へ小さく針目を出し、袖口のときと同樣に綴ぢ、其れより、袖下の縫ひ目の前後五・六分は裏を張り加減に、其の餘は平に、表の折り目の五厘内

を紡け行くなり。

三、**褄縫ひ方**　練習用布半幅一枚を衽と見做し、本裁女袷の部分縫に倣ひ、標を附けて縫ひ上げ、然る後ち、綿を入るゝなり。

裾・袵・綿・作り・方　小袖綿の丈を衽幅より五分程長くし、袵の四倍・三倍・二倍幅を各一枚づつ順次に重ねて、綿の厚さを加減し、最後に袵と同寸のものを、二分袵には一枚、三分袵には二枚、袵に一分を増す毎に一枚を加ふ)を重ねて心となし、(眞綿を細くして心に入るゝことあり)其の上に、中央より少しくずらして尺を當て、之れを二つに折り、よく壓へ置くなり。

裾・袵・綿・入れ・方　袵綿を袵山に含め、假綴をなし、褄先の所は裏衽にて袵綿を包み、丈を揃へて表裏の衿下を合せ、表を見て、折り目の五厘内を小針に紡け上ぐるなり。

第三　本裁女綿入標附け方・縫ひ方順序

標附け方は、袖につきては部分縫のときに同じく、其の他につきては本裁女袷に同じ。

縫ひ方順序は左の如し。

一、**袖**　部分縫のときに同じ。

二、**表身頃**　先づ脊を縫ひて、幅標をなし、脇を縫ひて前幅を標し、衽・衿及び袖を附け、常の如く折りて烙鏝を掛く。烙鏝にて落ち着き難き品には、鏃を掛く。

三、**裏身頃**　表身頃に倣ひて、胴裏及び裾廻しの脊・脇を縫ひ、脊は表と反對の方へ、其の他は常の通り折りを附け、胴接ぎをなし、胴の方へ折りて、鏃をなし、前幅を標し、其れより、衽・衿・袖を附け、

袖は身頃の方へ折り、其の他は常の如く折る。

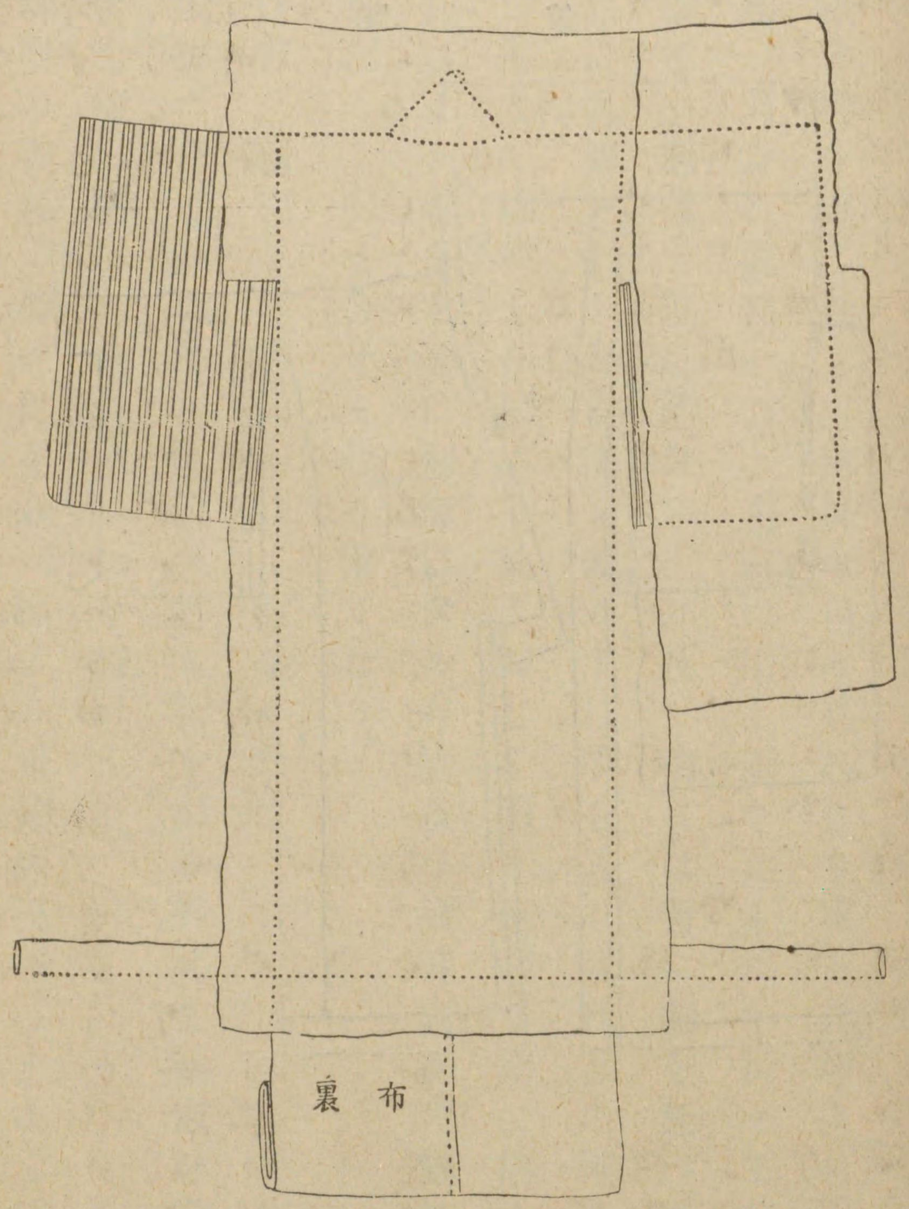
四、**裾合せ**　表裏の縫ひ目を合せ、表を見て裾を縫ひ（衽の部分を除く）衽の裏を見て左右の褄を縫ひ、一分の被せに表へ折り、衽には隱し躾をなし、其の他表の衿下・裾口・八つ口等には躾を掛け、裏の八つ口に綿を含め、裏を出して夜着疊みとなす。

五、**綿入れ方**　袖袵綿及び裾袵綿の作り方は、部分縫に於て說明したるが如し。

疊み置きたる表身頃の後を引き延べ、脊を上にして、左右の袖を開き、全體に眞綿を引き、小袖綿を、裾より三・四寸長く、後幅より一尺程左右に出して、上の方へ引き延べ、綿の繼ぎ目を平らにし、厚さを加減し、振りの邊は綿をちぎりて引き分け、再び全體に眞綿を引き、次に、裾の綿を上に折り返し、裾袵に袵綿を

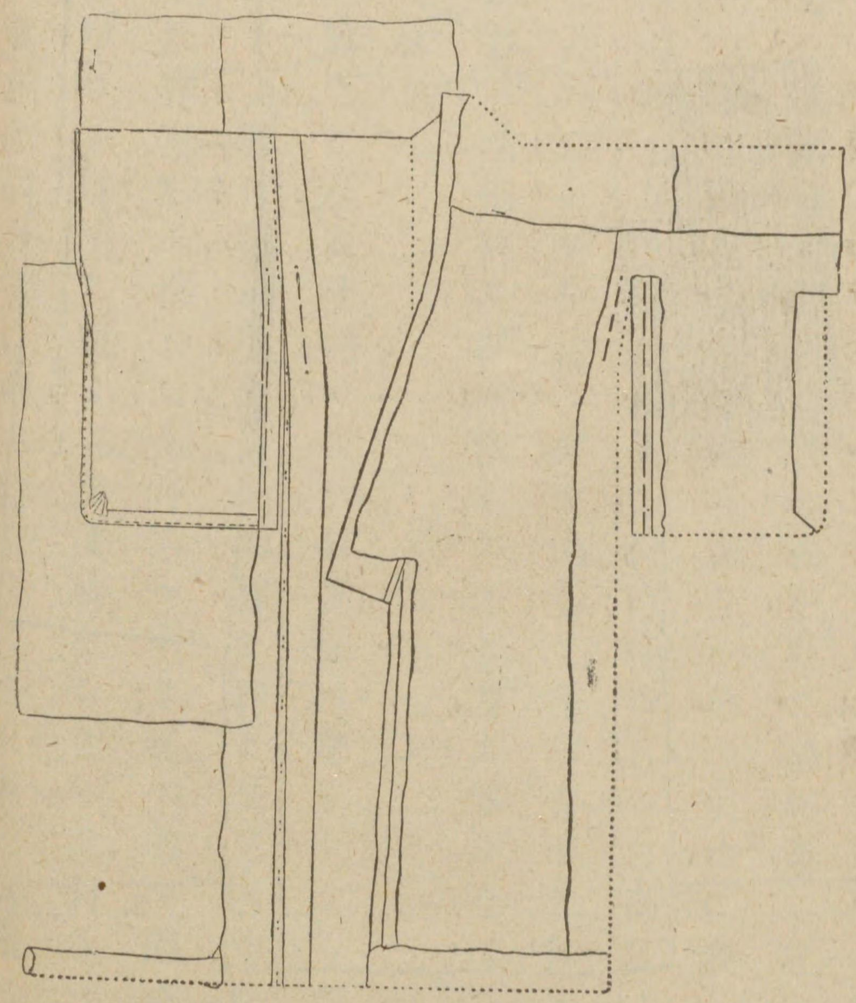
方れ入綿

第一圖



方れ入綿

第二圖



据る、(袵綿は袵の寸法より五・六分長く出し置くを宜しとす。)再び裾の綿を下に返して袵綿を包み、其れより、裏を綿の上に引き延べ、前身に眞綿を引き、左右に出し置きたる綿を折りて前身に延べ、袵綿を包み、前身の上部及び袖には新に綿を延べ、又全部に眞綿を引きたる後ち、表の下に手を差し入れ、其の前を引き返して綿の上に被ぶせ、袖も同じく引き返して綿に被ぶせ、其れより、綿を十分に裾袵に含め、脊・脇及び袖等表裏の縫ひ目を正しく引き合せて、疊み置くなり。

六、**絎け方**　裾袵を手前に向けて假綴をなす。

表裏の脊筋を合せて待針を打ち、裄を引き合せて袖袵を定め、部分縫に倣ひて、袖口・八つ口を絎け上ぐ。

衽附の表裏の縫ひ目を合せ、裾より相褄の三・四寸上まで綴

ぢ附く。

衿下の所は裏布の幅を少しく詰めて折り、綿を含め、相褄標の所にて小さく三針綴ぢ、衿下を絎け上ぐ。（褄先一寸程は絎けずして、縫ふことあり）

衿附の表裏の縫ひ目を綴ぢ合せ、三つ衿切れを入れ、本裁女袷の如く衿先留めをなし、衿先を縫ひ、衿幅を定め、然る後ち、程よく綿を整へ、假躾をなして絎け上ぐ。衿先の留め方には、衽にて衿を挾み、二本絲にて、表衽・表衿・裏衿・裏衽の順序に、折り山を極めて淺く通し、絲の兩端を結びて、其の三本を撚り合せ置き、他の一本にて衿先を縫ふ仕方あり。

脊・脇の縫ひ目を、裾より二尺程上まで綴ぢ、本裁女袷と同じ仕方に裾綴をなす。

本裁女單衣に於て說明したる如く、共衿を掛け、衿絲を附く、

〔設問〕

袖口綿の綴ぢ方・留め方及び絎け方を說明せよ。

第十二章　本裁男綿入

第一　本裁男綿入裁ち方・積り方

普通仕立上げ寸法は、總べて本裁男單衣に同じ。但し、袖袵は凡そ一分、裾袵は凡そ二分とす。

裁ち方・積り方は、表裏共に本裁男袷に同じ。

第二　本裁男綿入標附け方・縫ひ方順序

標附け方は、總べて本裁男袷に同じ。但し、裏袖口下の縫ひ込みの標は本裁女綿入に同じ。裏袖の狹きものは、袖口切れを出

して補ひ、尙ほ不足なるときは、別に足し切れを附すべし。

縫ひ方は、左の順序によるべし。

一、**袖**　表袖を標の通り人形より縫ひ、折りを附け、引き返して躾を掛く。

裏袖も人形より縫ひ始む。其の他は、本裁女綿入に同じ。

二、**表身頃**　脊を縫ひ、幅を標し、揚を縫ひ、脇縫をなし、衽衿及び袖を附く。

三、**裏身頃**　裏の縫ひ方は表に準じ、袖附及び脊縫の折りは、表と反對の方に折るべく、他は總べて本裁女綿入に同じ。但し、用布に餘分あらば、通し裏のときには、肩にて揚をなし、裾廻し附きのときには、胴接ぎに縫ひ込み置くべし。

四、**綿入れ方・絎け方**　綿入れ方及び絎け方等は、總べて本裁女綿入に同じ。但し、裾綴は本裁男袷に同じ。

第十三章　一つ身綿入

第一　一つ身綿入裁ち方・積り方

普通仕立上げ寸法は、一つ身單衣に同じ。但し、袖袵は一分五厘、裾袵は三・四分とす。

表布の裁ち方・積り方は、一つ身單衣に同じ。

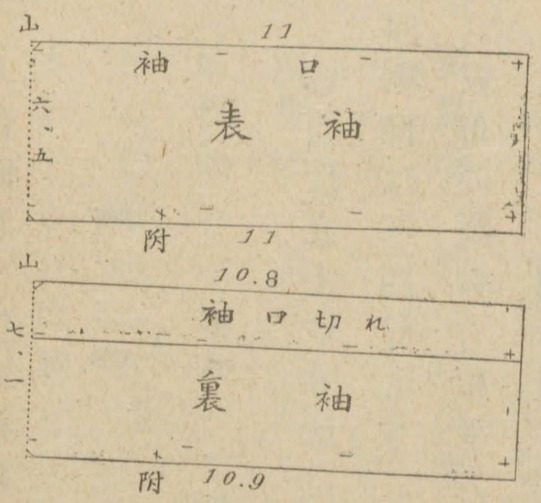
裏布には、通し裏と裾廻し附きとの二樣あり。

通し裏の總尺は、表用布の總尺に袵の四倍（別衽のときは六倍）を加へたるのもにして、裾廻し附きの總尺は、表用布の總尺に袵の四倍と胴接ぎ代の二倍（別衽のときは袵の六倍と胴接ぎ代の三倍）を加へたるものなり。

第二　部分縫　潤袖（ひろそで）

一、標附け方　練習用布並幅二枚を以て表裏の袖と見做し、左圖の如く表裏の袖を据ゑ、山・丈・附・幅の標をなす。但し、袖口切れの幅を二寸五分とし、裏袖の幅を撮みて、袖口切れに代用するものとす。

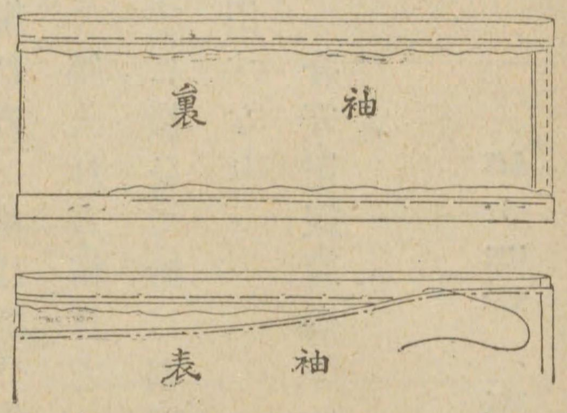
裏袖の丈は袖口の方にて三分、振りの方にて一分許り、表袖より詰むべし。



二、縫ひ方　先づ表の袖下を縫ひて内袖の方へ折り、袖口を標通りに折りて躾を掛け、裏袖の幅を撮み、袖口切れとして縫ひ、口の方へ折りて躾を掛け、次に、裏袖下を縫ひて折りを附け、袖口及び振りに綿を含ます（袍綿の作り方は本裁女綿入に同じ）

三、綿附け方　表裏の山・袖下の縫ひ目を合せ、袍を定め、總體の釣合を計り、待針を打ち、袖下の縫ひ目の所を留め、表袖を見て、表の袖口折り山の五厘程内を、綿を抄はぬやう綿附け、本裁女綿入に倣ひて振りを綿附け上ぐ。

方め含綿口袖濃



〔注意〕一つ身には、多く筒袖を用ふれども、晴着には潤袖を用ふることあり。

第三　一つ身綿入標附け方・縫ひ方順序

一、**標附け方**　袖は部分縫のときに同じ。其の他は本裁女綿入に倣ひて、標を附くべし。

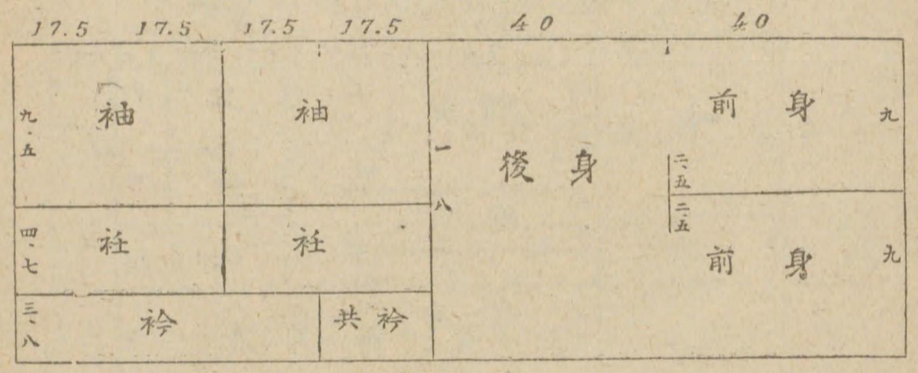
二、**縫ひ方**　袖は部分縫に、其の他は本裁女綿入に倣ふ。

綿入れ方・絎け方は、凡べて本裁女綿入に同じ。但し、衿は單衣に倣ひて絎け、裾綴の針目は、前幅に二針、後幅に五針を裏に出すなり。

脊守・附紐・肩揚等は、單衣のときに同じ。

第十四章　本裁・中裁・小裁の各種裁ち方・積り方

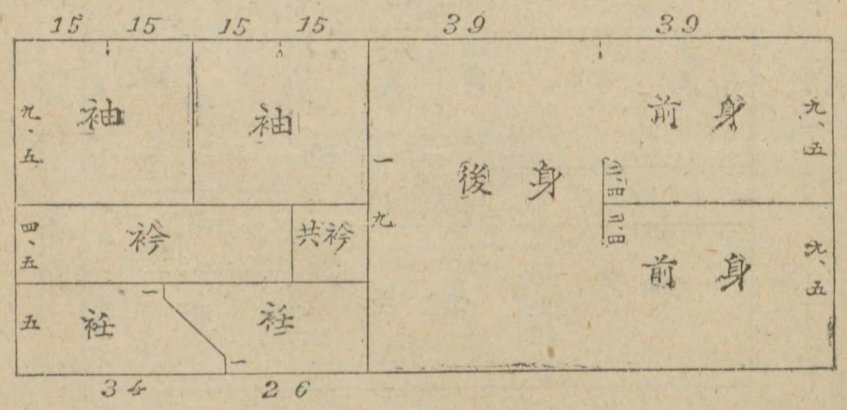
一尺八寸幅一丈五尺にて
本裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(用布の總尺－袖丈×4)÷2＝身丈
袖丈×4＋身丈×2＝用布の總尺

一尺九寸幅一丈三尺八寸にて
本裁の裁ち方並に裁ち切り寸法

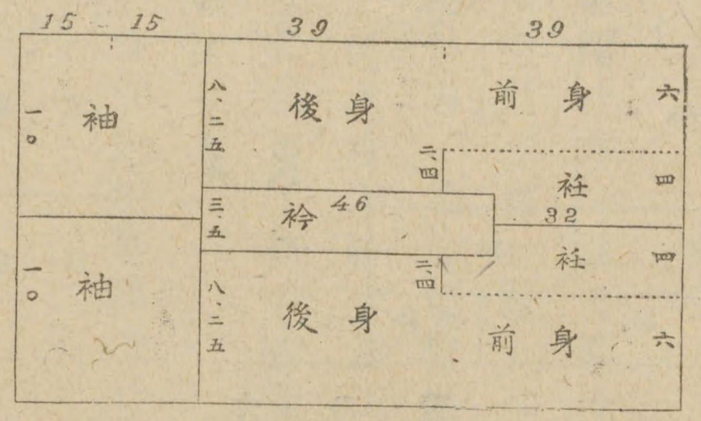


積り方

(用布の總尺－袖丈×4)÷2＝身丈
袖丈×4＋身丈×2＝用布の總尺

二尺幅一丈八寸にて

本裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



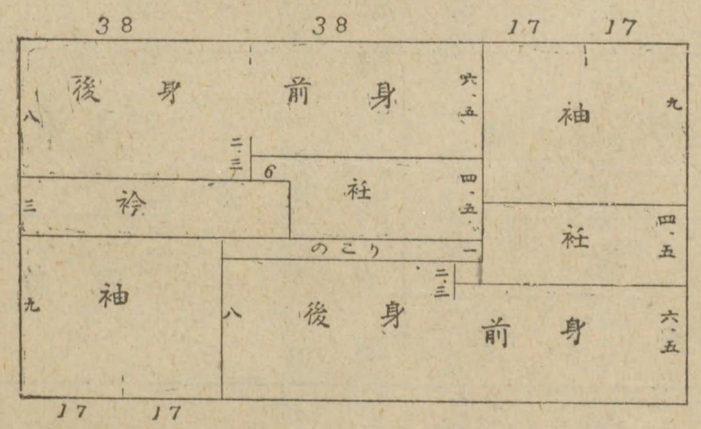
積り方

(用布の總尺－袖丈×2)÷2＝身丈

(袖丈＋身丈)×　2　＝　用布の總尺

片面物二尺幅一丈一尺にて

本裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



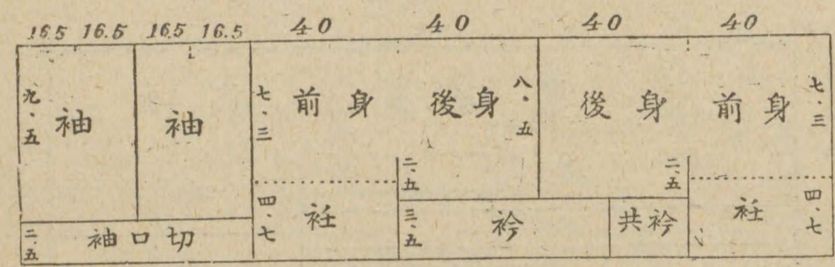
積り方

(用布の總尺－袖丈×2)÷2＝身丈

(袖丈＋身丈)×　2　＝　用布の總尺

一尺二寸幅二丈二尺六寸にて

本裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



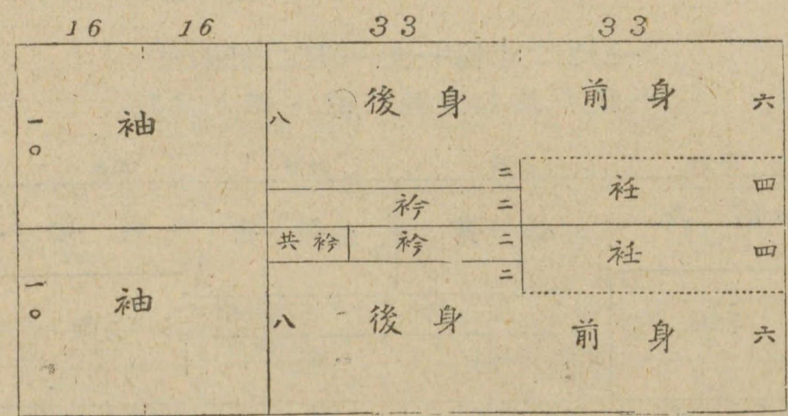
積り方

(用布の總尺－袖丈×4)÷4＝身丈

(袖丈＋身丈)×　4　＝　用布の總尺

二尺幅九尺八寸にて

中裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



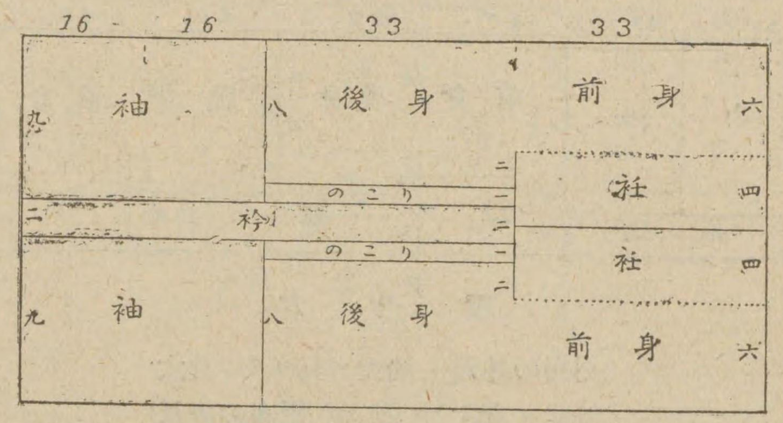
積り方

(用布の總尺－袖丈×2)÷2＝身丈

(袖丈＋身丈)×　2　＝　用布の總尺

二尺幅九尺八寸にて

中裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



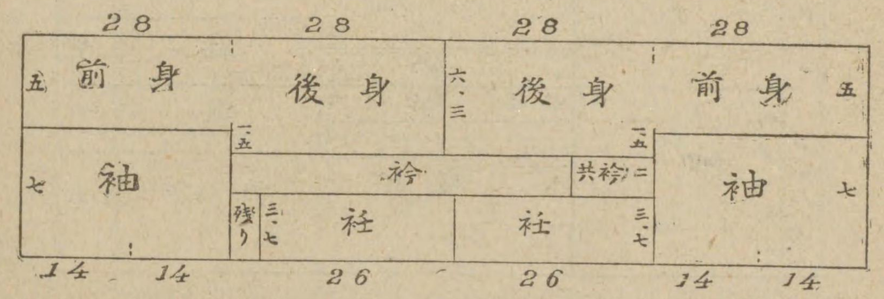
積　り　方

（用布の總尺－袖丈×2）÷2＝身丈

（袖丈＋身丈）×　2　＝　用布の總尺

一尺二寸幅一丈一尺二寸にて

小裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



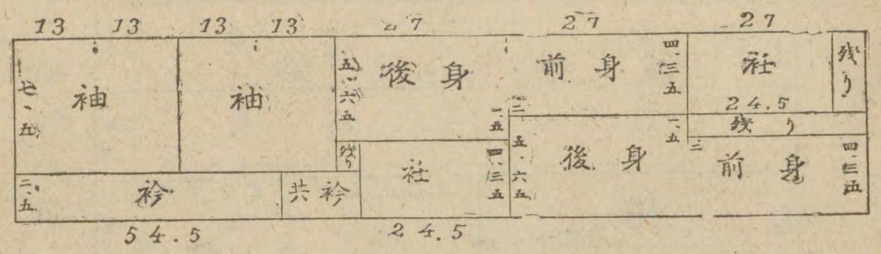
積　り　方

用布の總尺÷4＝身丈

身丈×4＝用布の總尺

片面物一尺幅一丈三尺三寸にて

小裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



積　り　方

（用布の總尺－袖丈×4）÷3＝身丈

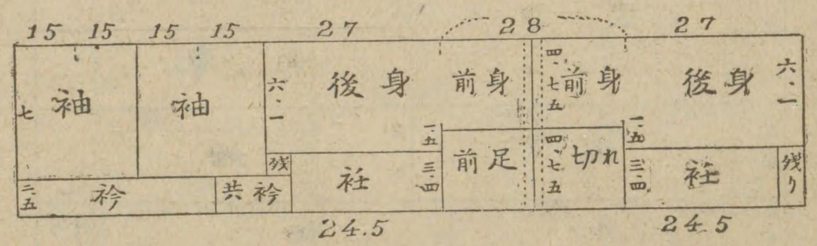
袖丈×4＋身丈×3＝用布の總尺

（布幅－衿肩明）÷2＝　前　幅

前幅＋衿肩明　＝　後　幅

片面物並幅一丈四尺二寸にて

小裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



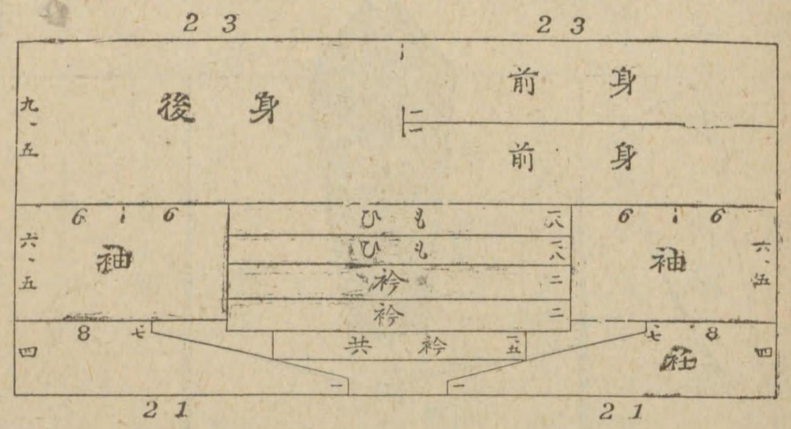
積　り　方

（用布の總尺－袖丈×4－前接ぎ代）÷3＝身丈

身丈×3＋袖丈×4＋前接ぎ代＝用布の總尺

第十五章　長襦袢

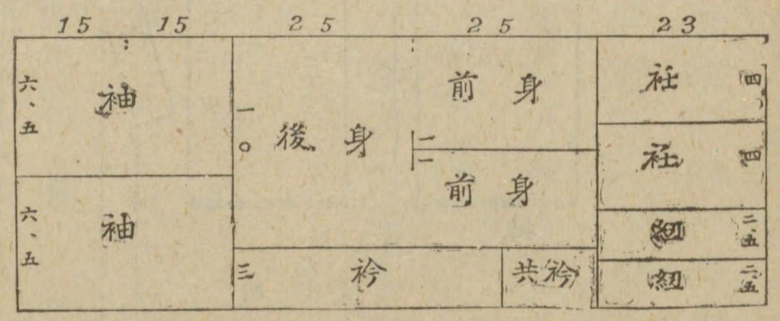
二尺幅四尺六寸にて
小裁(筒袖)の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

用布の總尺÷2＝身丈
身丈×2＝用布の總尺

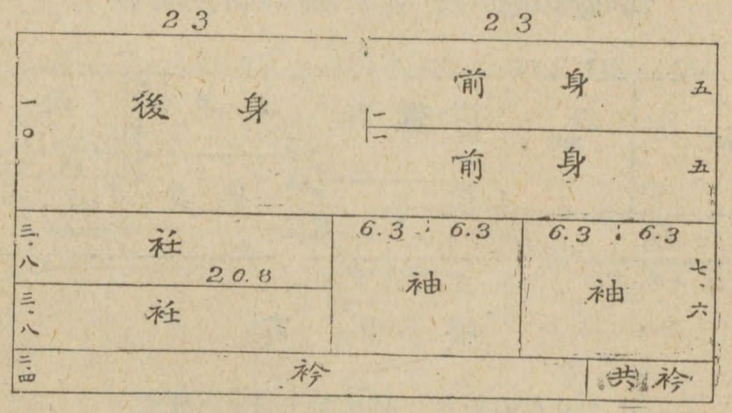
一尺三寸幅一丈三寸にて
小裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(用布の總尺－袖丈×2＋衽下り)÷3＝身丈
袖丈×2＋身丈×3－衽下り＝用布の總尺

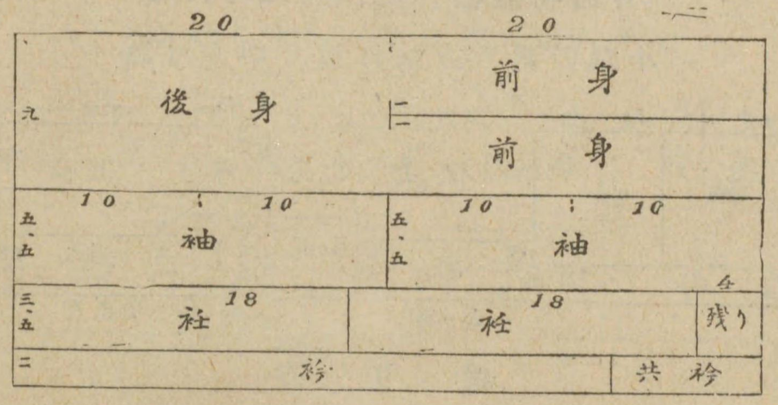
二尺幅四尺六寸にて
小裁(筒袖)の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

用布の總尺÷2＝身丈
身丈×2＝用布の總尺

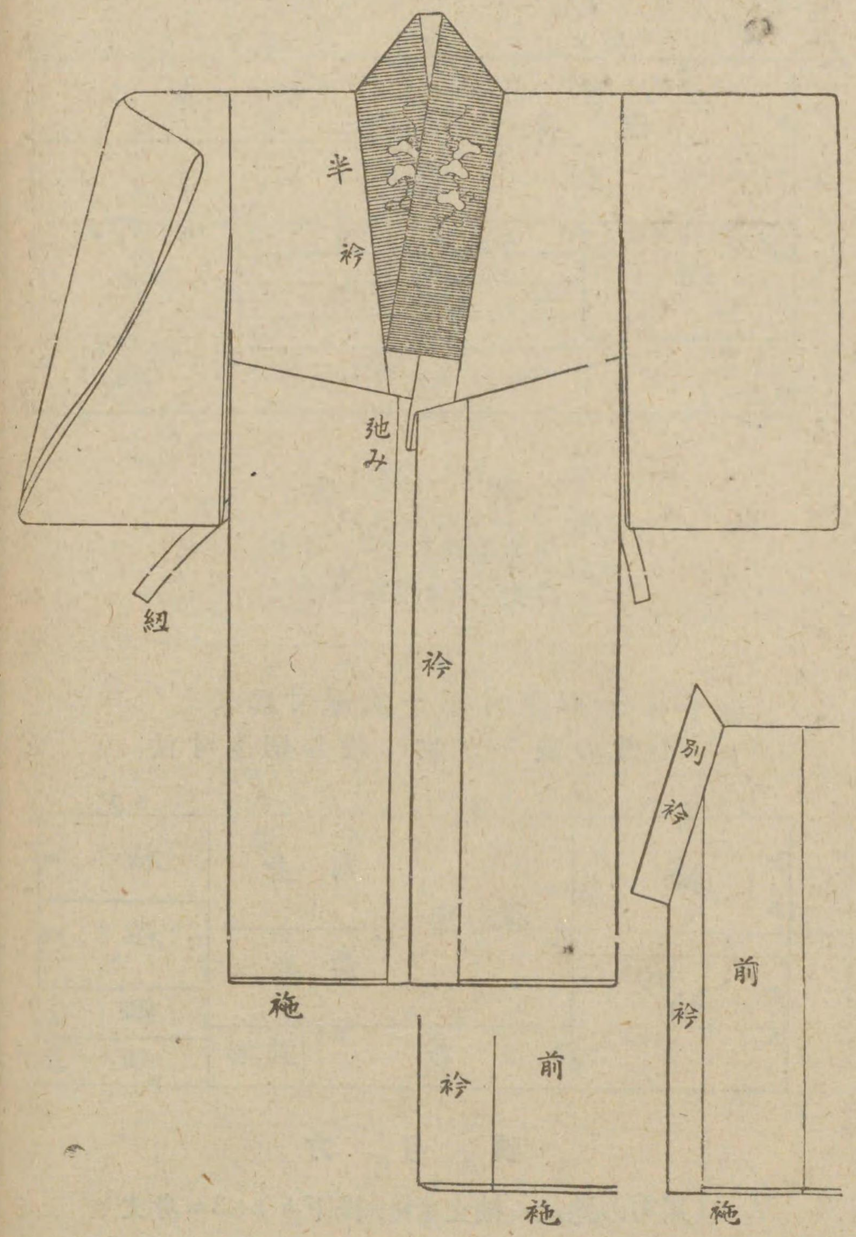
二尺幅四尺にて
小裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

用布の總尺÷2＝身丈
身丈×2＝用布の總尺

第一　衿長襦袢各部の名稱



圖の袢襦長衿

長襦袢の形狀は一樣ならず、衿幅を狹くして衿先を角になすものあり、或は衿幅を廣くして、衽の如き體裁に附け、衿先を褄形になすものあり、又衿を衽の體裁になし、長著の衿の形に別切れを附くるものあり。右の圖につきて、其の異なる所を知るべし。

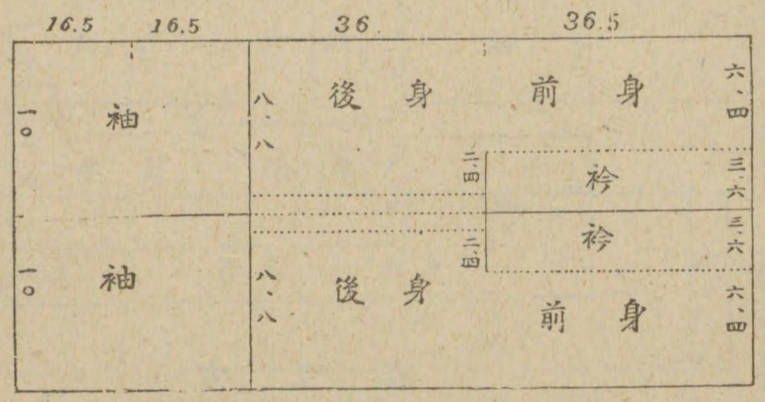
第二　衿長襦袢普通仕立上げ寸法

衿長襦袢の普通仕立上げ寸法は、上着の寸法を標準として左の如く增減すべし。

袖丈……三分乃至五分詰　袖附……二分詰　袖幅……一分詰
後丈……上着と同寸　衿肩明……一分詰　八つ口……五分增
裄……上着と同寸　後幅……上着と同寸又は五分增　前幅……凡そ一寸增
前弛み……凡そ一寸　衿幅……紵け衿は上一寸五分下二寸廣衿は凡そ三寸　裄……凡そ一分五厘

第三　衿長襦袢裁ち方・積り方

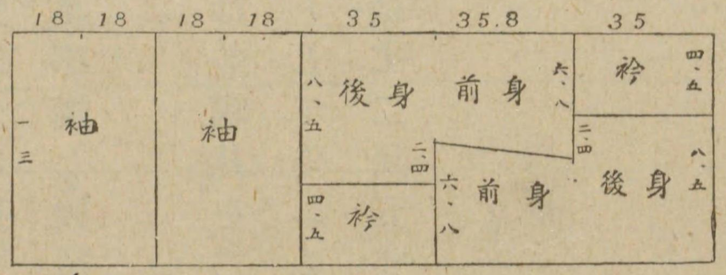
二尺幅一丈五寸五分にて長襦袢の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(袖丈＋身丈)×2＋前弛み＝用布の總尺

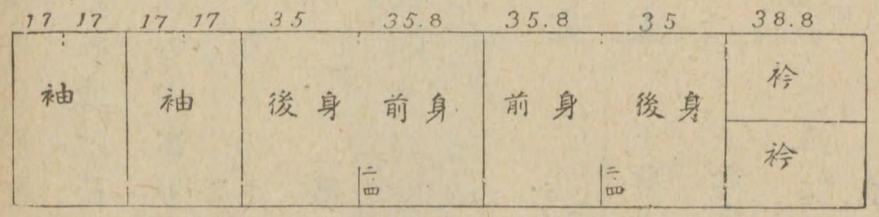
兩面物一尺三寸幅一丈七尺七寸八分にて長襦袢の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

袖丈×4＋身丈×3＋前弛み＝用布の總尺

並幅二丈四尺八寸四分にて長襦袢の裁ち方並に裁ち切り寸法



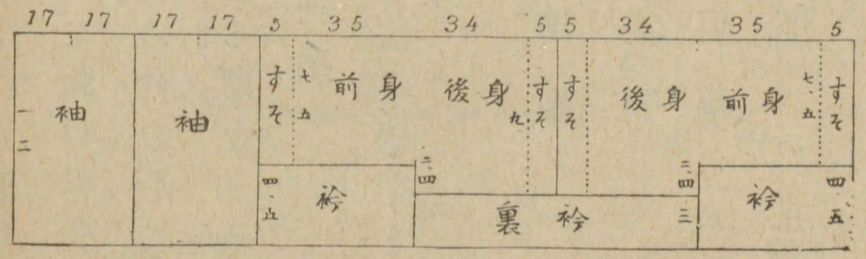
積り方

{用布の總尺－(袖丈×4＋兩前弛み＋衿肩廻し)}÷5＝後身丈
{　248.4　－(　17　×4＋　1.6　＋　3.8　)}÷5＝　35

{用布の總尺－(身丈×5＋兩前弛み＋衿肩廻し)}÷4＝袖丈
{　248.4　－(　35　×5＋　1.6　＋　3.8　)}÷4＝　17

袖丈×4＋身丈×5＋衿肩廻し＋兩前弛み＝用布の總尺
17　×4＋　35　×5＋　3.8　＋　1.6　＝　248.4

一尺二寸幅二丈二尺六寸にて長襦袢(共裾)の裁ち方並に裁ち切り寸法



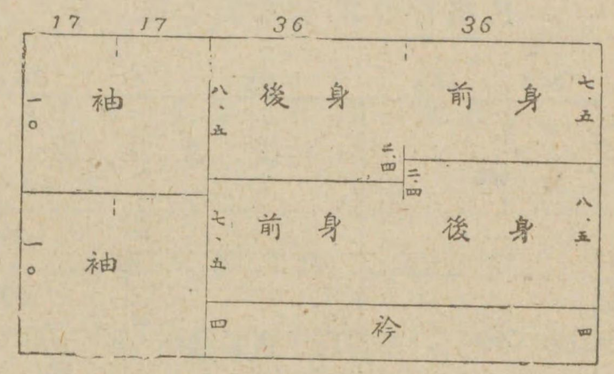
積り方

(袖丈＋身丈＋裾)×4＋前弛み＝用布の總尺

第四　袷長襦袢標附け方

兩面物二尺幅一丈六寸にて

長襦袢の裁ち方並に裁ち切り寸法



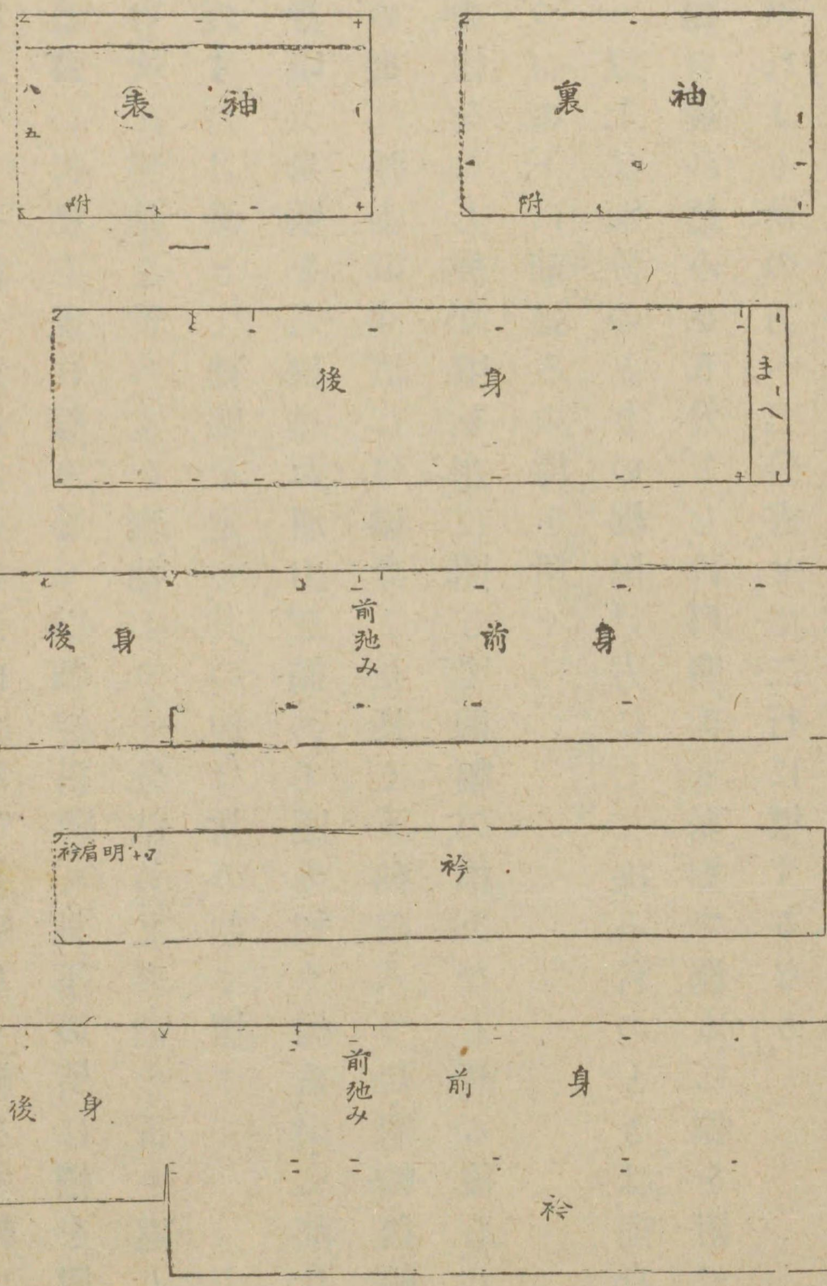
積り方

（袖丈＋身丈）×2＝用布の總尺

裏用布は、（衿を要せず）表身丈より袍の二倍だけ長く積るべし。又袖裏・裾廻し・後紐には別切れを用ふ。

裾廻しは並幅凡そ二尺（半幅を横切れとして使ふことあり）後紐切れは、丈二尺五寸幅二寸許なり。

袷長襦袢標附け方



一、**袖**　先づ表袖を重ね、常の如く山・丈・附の標をなし、幅を布幅いつぱいに標し、更に振りより袖幅を計りて、袖下の所に標を附け、次に、裏袖を重ね、丈を表袖より一分詰め、又表袖の折り返しの寸だけ減きて袖幅を定め、其の他は常の如く標す。

二、**身頃**　身頃を二枚重ね、肩山を揃へて、圖の如く据ゑ、山・丈（前身の丈は弛みの寸法だけ後身より長くす。）袖附・八つ口・肩幅・後幅の標をなし、後身頃を左に開きて、前幅の標をなし、然る後ち、八つ口の下に前弛みの標を附く。

以上は、別衿のときの標附け方にして、撮み衿のときは、前身・裾の縫ひ込みを五分とし、衿肩明より裾まで眞直に標を附け、其れより、衿の方へ三分寄せて二行に標するなり。

裏身頃は、身丈を表より袵の二倍だけ長くして、表と同じく標し、裾廻しの丈・幅を標し、後ち、裏身頃に裾廻し附けの標をなす。

三、**衿**　常の如く山より二つに折り、山・丈の標を附く。

第五　衿長襦袢縫ひ方順序

一、**袖**　表裏の袖口を合せて縫ひ、裏袖の方へ折りて躾を掛く。

袖下を袖口の方より始めて、幅の三分の二許り四つ縫ひになし、其の餘は、表裏を別々に縫ひ、其れより、振りを女衿の如く縫ふ。

〔注意〕袖口の縫ひ方には、裏表を毛抜合せとし、若くは袵を出すことあり。

二、**身頃**　表身頃の脊・脇を縫ひ、裏身頃に別々に裾切れを縫ひ附け、裾の方へ折りて隱し躾を掛け、裏身頃の脊・脇を縫ひ、（裾切れ

を横に使ふときは、先づ脊・脇を縫ひ、後に裾切れを縫ひ附くべし。其れより、表裏の裾を縫ひ合せ、表の方へ折り、袵を定め、躾を掛け、表裏の脊・脇を綴ぢ、八つ口を縫ふ。

三、**袖附**　袷の袖附に同じ。

表裏の前身頃の衿附標を合せて、假綴をなす。

四、**衿附**　標通に附け廻し、衿の方へ折りて、三つ衿切れを入れ、衿幅を、三つ衿の所にて一寸五分、衿先より一尺四・五寸上迄は二寸の出來上りに折り、衿先を縫ひ、常の如く綿け上ぐ。布幅狹きときは、裏衿を縫ひ附け、裏の方へ折りて隱し躾を掛け、衿附をなすべし。

五、**裾綴**　後幅に五針、前幅に四針を裏に出すと、男袷に同じ。

六、**半衿**　掛け方は、女半襦袢のときに同じ。

七、**紐附け方**　紐を綿け置き、八つ口留めの通りにて、紐の中央を脊の所に當て、其の上下を二寸程綿け附くべし。

前丈の弛みを八つ口留めの所にて撮み、裏の下方へ折り込み、脇縫に留め、其れより衿絲を附く。

〔注意〕地薄の品は、衿に裏打をなして衿附をなすべし。撮み衿のときは、衿肩廻しの足し切れを綿け、又は千鳥掛になし然る後ち、衿附をなすべく、又衿先は裾口の撮み山を適宜に切り込みて縫ふべし。

〔設問〕

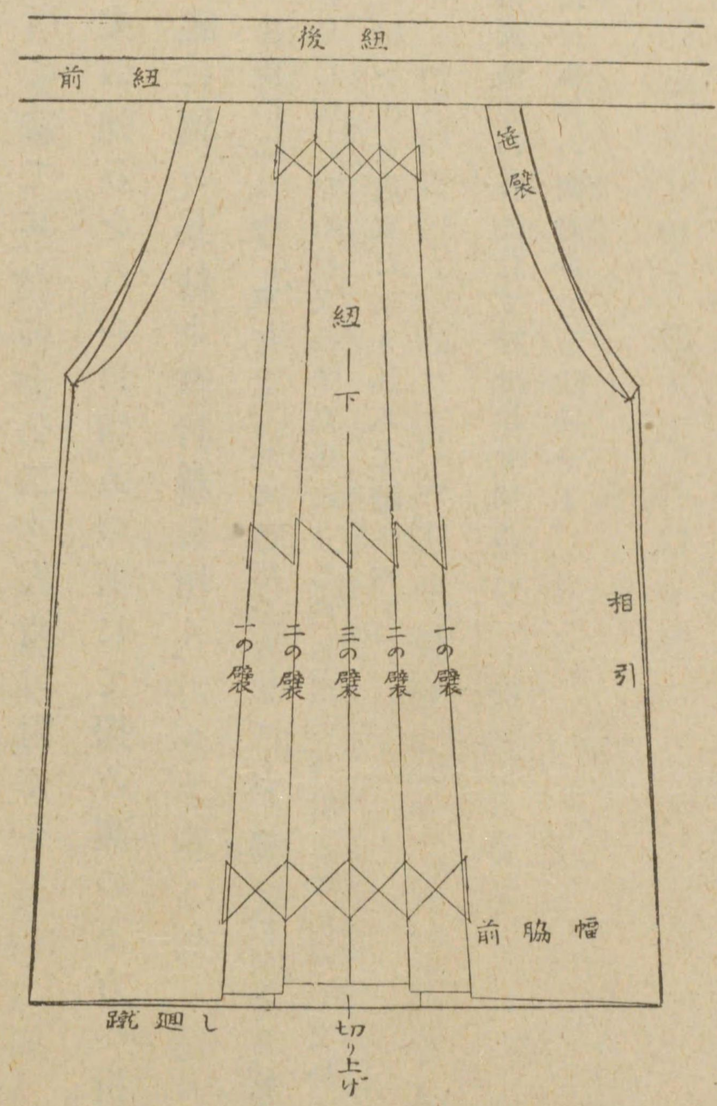
(1) 袷長襦袢の普通仕立げ寸法を問ふ。

(2) 袷長襦袢の標附け方を説明せよ。

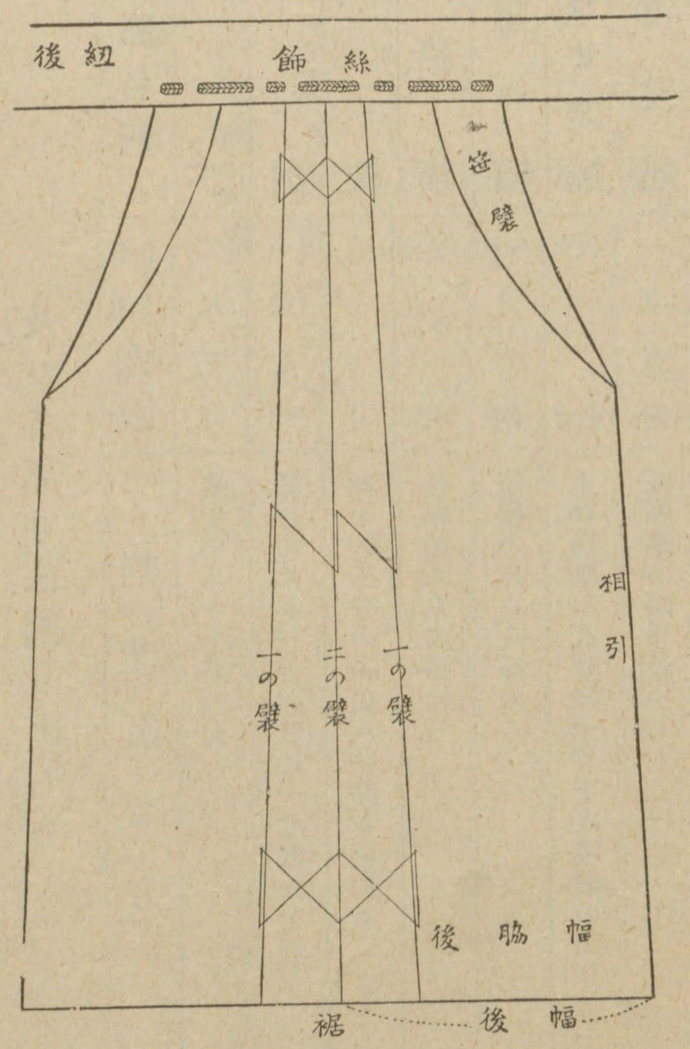
第十六章　女袴

第一　女袴各部の名稱

女袴前の圖



女袴(後三つ襞)後の圖



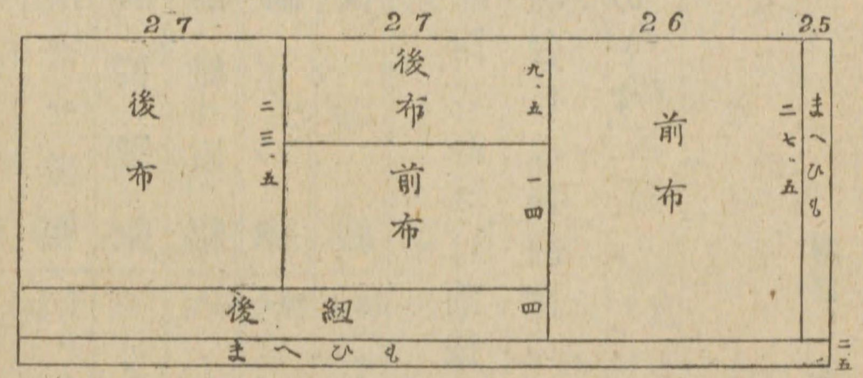
第二　本裁女袴(後三つ襞)普通仕立上げ寸法及び各部寸法割り出し方

各部名稱	普通仕立上げ寸法	割り出し方
紐下	二尺三寸	着丈の凡そ十分の七
相引	一尺七寸	紐下の凡そ三分の二に一寸五分を加ふ
後幅	八寸	紐下の三分の一に八分許りを加ふ
後脇幅	六寸	後幅の凡そ四分の三
後重ね幅	一寸以内	後幅の凡そ八分の一
後寄せ襞幅	上一寸下二寸	上は後幅の八分の一、下は後幅の四分の一
後笹襞幅	一寸五分	後脇幅の四分の一
腰幅	八寸	後幅と同寸
前脇幅	四寸八分	後幅の凡そ五分の三
前重ね幅	八分	後幅の凡そ十分の一
前寄せ襞幅	上八分下一寸六分	上は後幅の十分の一、下は後幅の五分の一
前笹襞幅	一寸二分	前脇幅の凡そ四分の一
前紐附幅	八寸	腰幅と同寸又は五分増
前紐	丈八尺幅一寸	
後紐	丈五尺幅一寸七八分	

紐附の高さは前後同寸とす。但し、袴の裾に切り上げを附くる場合には、後紐附の高さは紐下に切り上げの寸法を加へたるものとす。

第三　本裁女袴(後三つ襞裁ち方・積り方

三尺幅八尺二寸五分にて
本裁女袴(後三つ襞)の裁ち方並に裁ち切り寸法



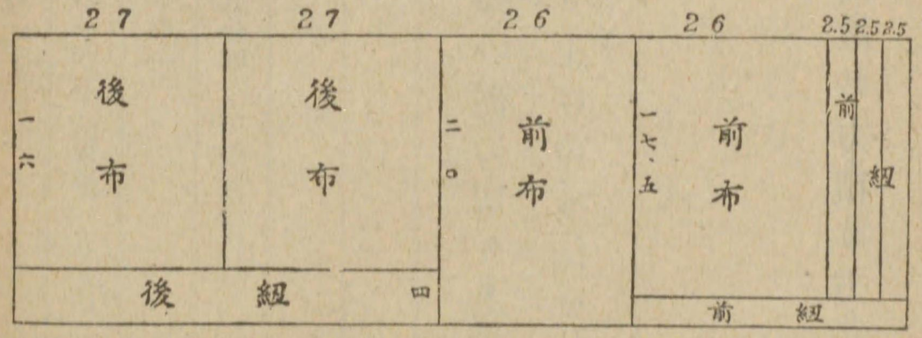
積り方

(用布の總尺－前紐幅＋前後の差)÷3＝後丈
(　82.5　－　2.5　＋　1　)÷3＝　27

後丈－前後の差＝前丈　前丈－裁ち込み＝紐下
27　－　1　＝26　26　－　3　＝23

前丈×3＋前後の差×2＋前紐幅＝用布の總尺
26　×3＋　1　×2＋　2.5　＝　82.5

二尺幅の布にて紐下二尺三寸の
本裁女袴(後三つ襞)の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

紐下＋裁ち込み＝前丈　前丈＋前後の差＝後丈
23　＋　3　＝26　26　＋　1　＝27

前丈×4＋前後の差×2＋前紐幅×3＝用布の總尺
26　×4＋　1　×2＋　2.5　×3＝　113.5

〔注意〕後布の總幅は後幅の凡そ四倍、前布の總幅は後幅の凡そ五倍を標準とす。

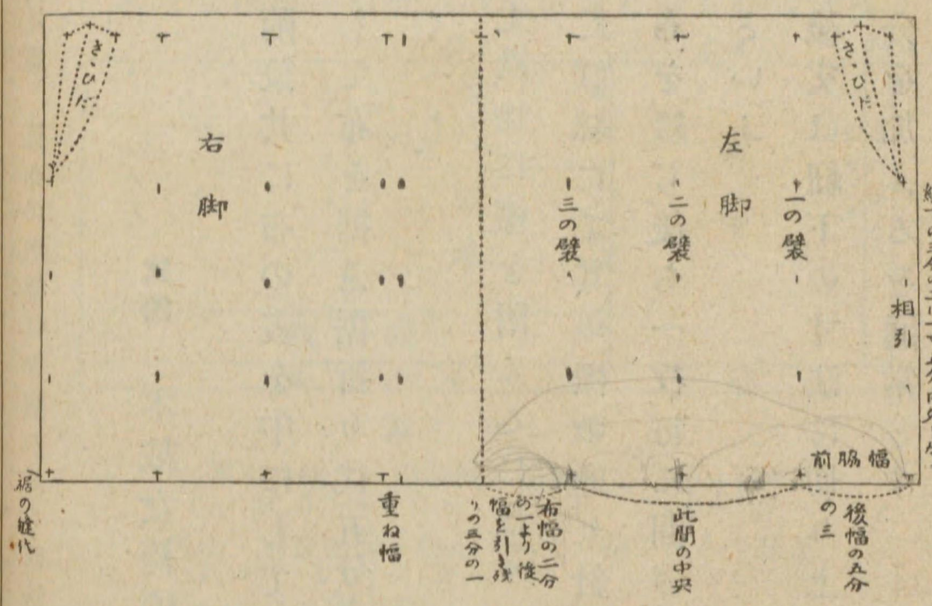
第四　本裁女袴標附け方

前後共に布の表を中にして之を重ね、腰を左にし、相引を手前にして布を据ゑ、裾折り代(五分)・紐下・相引・後襞・前襞・笹襞等の標を附くべし。

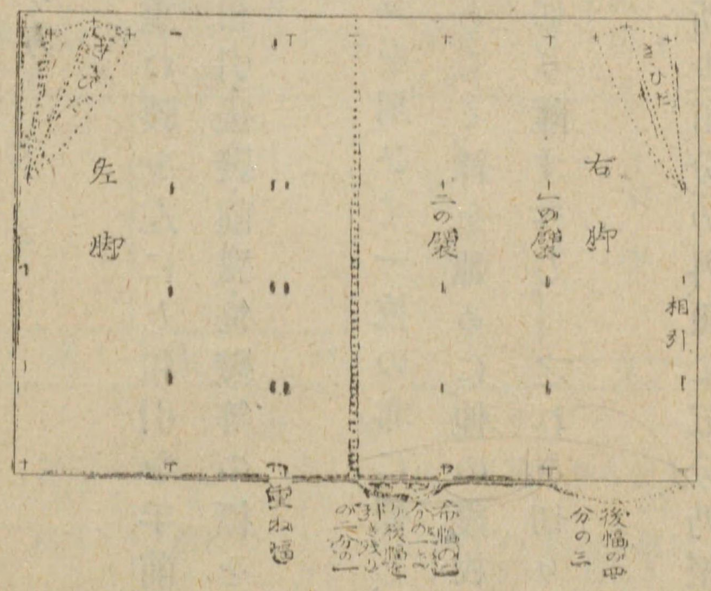
毛織物に標を附くるには、チョークを用ひて一枚の布に標し、次に躾絲にて、其の標の通り、針目をあらく、絲を弛めに、他の幾枚の布を綴ぢ、後ち、一枚毎に間の絲を切り離すべし。之れを切り躾といふ。

後丈は紐下の寸法に切り上げ、裾折り(五分)の外、更に五分乃至八分を加ふるを通常とす。

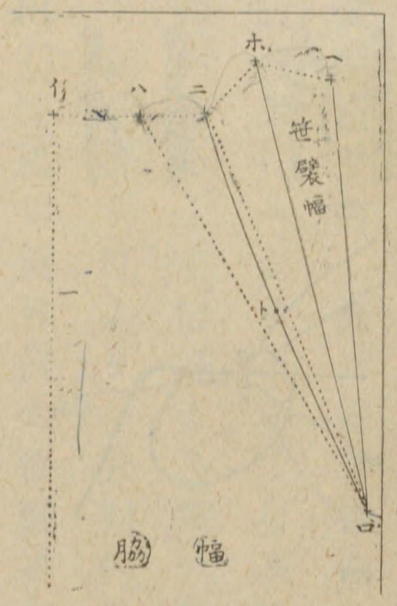
方け附標の布前袴女



方け附標の布後袴女



方け附標の襞笹



〔注意〕總べて、布の裁ち目は、豫め纏ひ置くべし。

イ、一の襞の紐附　ロ、相引留

ハ、イより脇幅の四分の一

ニ、ハより脇幅四分一の二分減

ホロ、ハロと同寸　ヘロ、ニロと同寸

ニホ、ハニと同寸　ホヘ、脇幅の四分の一

ト、ニロの中央にて一の襞の方へ二分

第五　本裁女袴（後三つ襞）縫ひ方順序

一、後布・前布　左右の後布を裾の方より縫ひ上げ、左脚の方へ折り、前布も同様に縫ひ合せ、右脚の方へ折る。

二、裾絎　裾絎の仕方は單衣と同じ。相引下は、前後とも一寸程絎け殘すべし。裾切れを附くるときは、相引を縫ひ合せたる

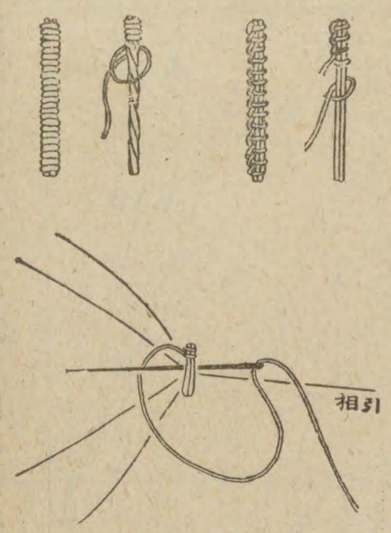
後に、之れを裾に縫ひ附け、隱し躾を掛け、表布を裾より二分裏に折り返し、裾切れの上を絎け附く。

三、**寄せ襞**　先づ襞標通りに折りを附け置き、後布の腰を左に、裾を右に据ゑ、左脚の二の襞標を後布の中央に合せ、次に、右脚の二の襞標を左脚の二の襞標に合せて躾を掛け、其れより、一の襞を寄せて、上下の寸法通りに之れを整へ、而して上・中・下の三所に飾綴をなす。

前襞は、後襞に比ぶれば、唯襞數の多きのみ。其の扱ひ方は、後襞と異なることなし。

四、**相引**　相引を縫ひ、前布の方へ折り、上圖の如く、前後の布にかけ門(かんぬき)

圖の留門



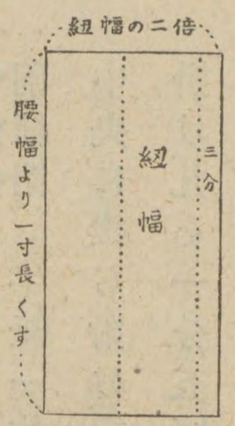
留(とめ)をなし、其れより、裾の殘りを絎け上ぐ。

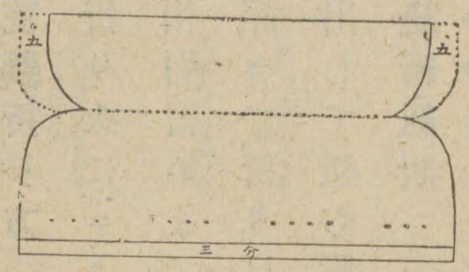
五、**笹襞折り方**　先づ笹襞標のへより相引留へかけて、裏の方へ折り、次に、ニよりトまでを表の方へ折り、後ち、ホをハに合せて相引留めまで、恰好よく笹の葉形に折り上げ、其れより、折りを開きて、折り目より一分程内を六・七分の針目に、裏には小針を出して綴ぢ附け、後ち、笹襞の端を絎け附くるなり。

六、**紐絎・紐附**

紐絎・　前後の紐に心地を入れ、眞中を一尺程殘して絎け置く。

前紐附・　半紙一枚を紐幅の二倍に折り、之れを前紐の紐丈の中央に綴ぢ附け、紐下の寸法に從ひ、一の襞の半ばより笹襞へ掛け、凡そ一分五厘程上りて、紐の縫ひ代折り目より五厘程内を、二本絲にて針目を二・三分とし、襞の折り目にて一針づつ返





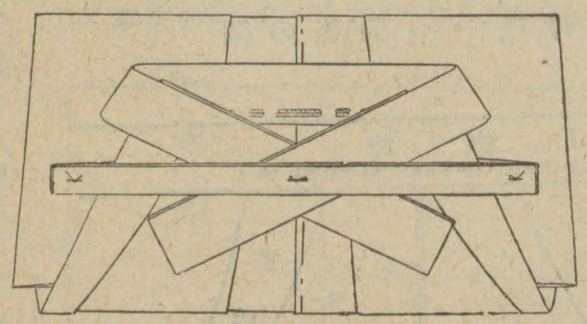
方し出り割の目針絲飾び及紙腰

目針の大針＝3÷(10×目針の小針－3－幅腰)

して縫ひ附け、次いで裏を絎け附く。

後紐附　腰紙は板目紙を用ひ、幅を紐幅の二倍に、丈を腰幅より一寸長く裁ち切り、上圖の如く、縫ひ代を三分として紐幅を標し、之れを折り合せ、兩端の上角を五分程の丸みに切り去り、此の腰紙を、心の上より紐丈の中央に重ね、縫ひ代の方を綴ぢ附け、飾絲を掛く。飾絲は通常大針を三つ小針を四つとし、上圖の如き割り出し方によりて針目を定め、紐附より二分程上に、之れを腰紙に標し置き、左撚り右撚りの二本を合せたる太白絲にて、腰紙を通して飾絲を掛け、其の兩端を腰紙に綴ぢ附け、其れより、紐と腰幅との中央を揃へ、前紐と同様に縫ひ附け、次いで裏を絎け附く。

仕上げ　白布を被ひ、其の上より霧を吹き、火熨斗を掛け、然る後ち、圖の如く三つ疊みとなし、後紐は左右各二つに折りて、左を下に右を上にして、十文字に之れを重ね、前紐は左右交互に折り重ねて、其の上に載せ、前紐の兩端と中央との三所に圖の如く綴ぢ絲を掛くべし。



女袴の疊み方

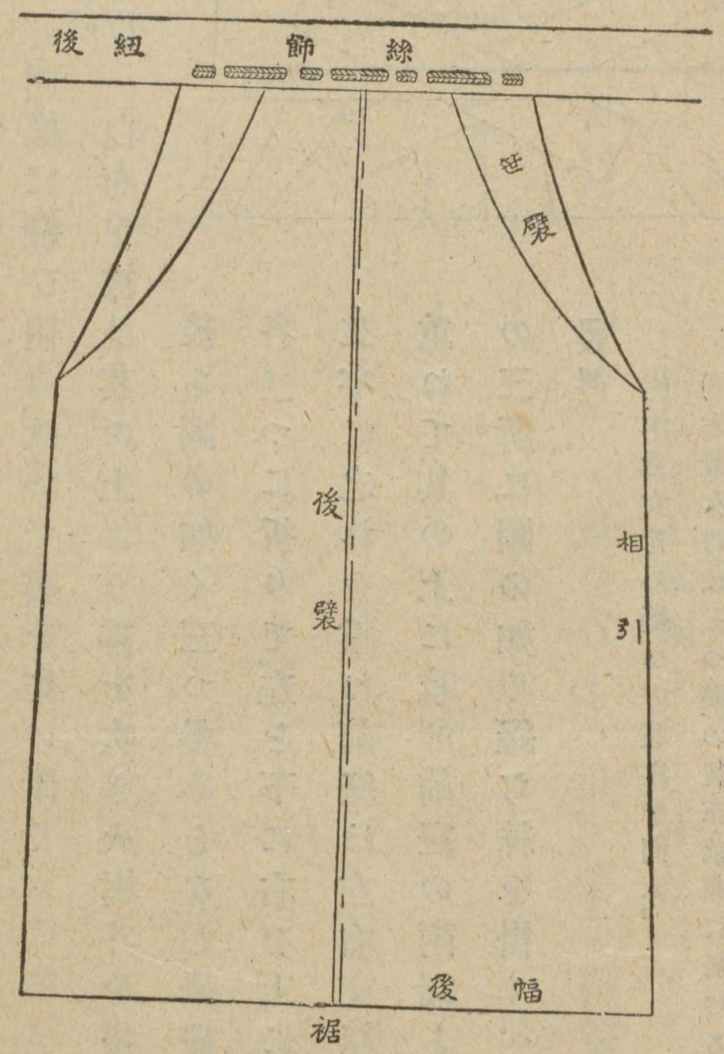
〔設問〕

(1) 本裁女袴の縫ひ方順序を問ふ。

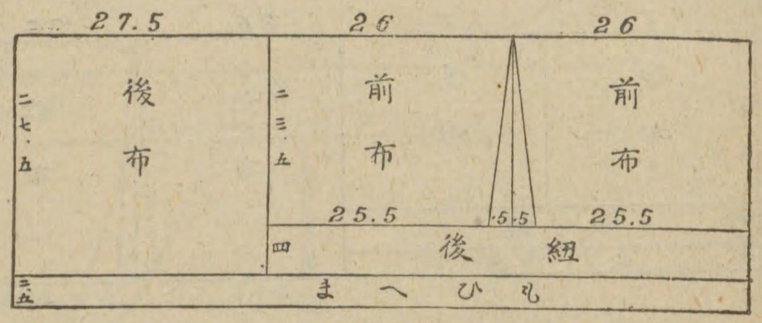
(2) 本裁女袴(後三つ襞)の後布前布に於ける襞の標附け方を圖解せよ。

第六　本裁女袴（後一つ襞）

女袴（後一つ襞）後の圖



片面物三尺幅七尺九寸五分にて
本裁女袴（後一つ襞）の裁ち方並に裁ち切り寸法



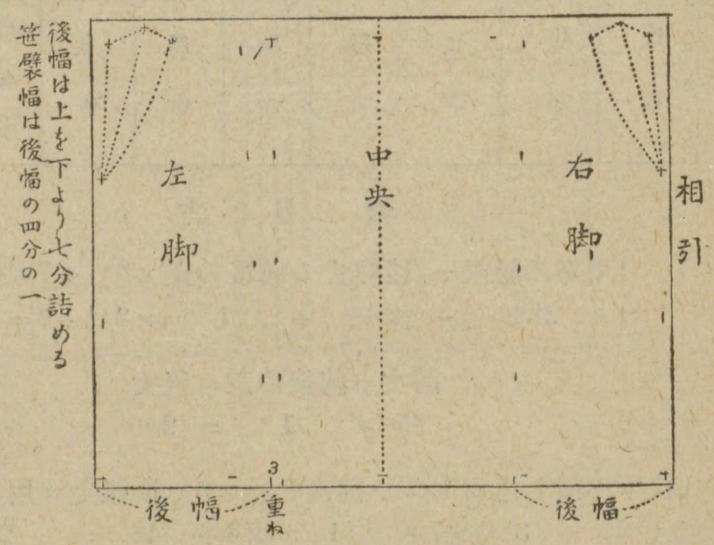
積り方

（用布の總尺＋前後の差×2）÷3＝後丈
（　79.5　＋　1.5　×2）÷3＝27.5

後丈－前後の差＝前丈
27.5－　1.5　＝26

後丈×3－前後の差×2＝用布の總尺
27.5×3－　1.5　×2＝　79.5

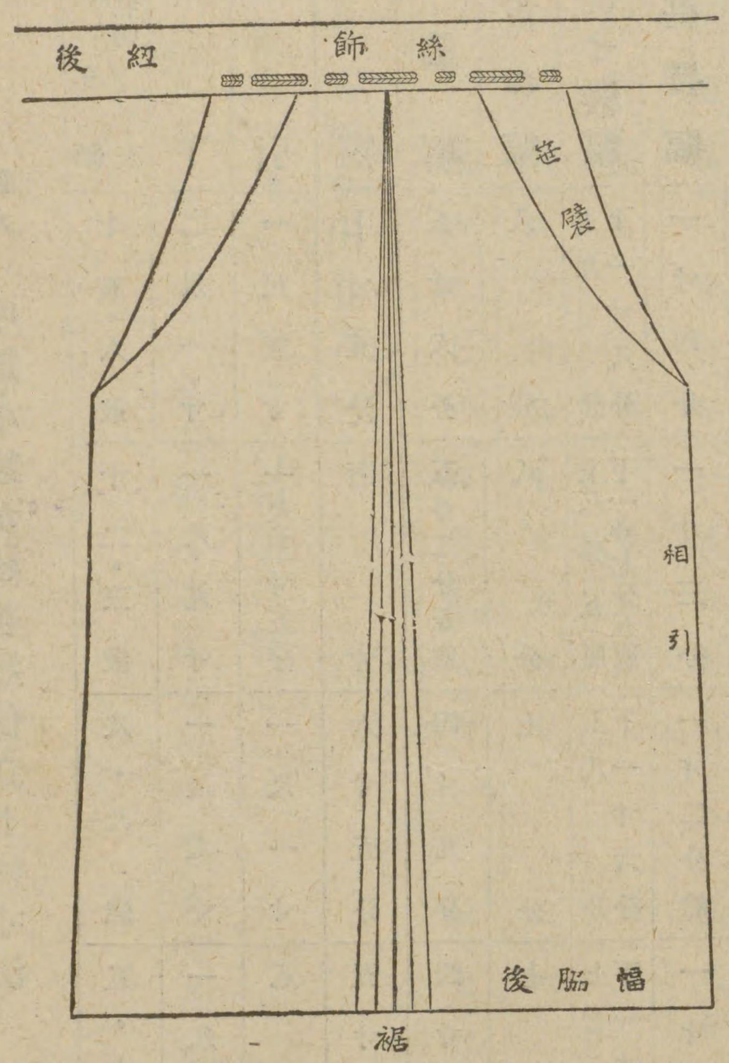
女袴（後一つ襞）の標附け方



〔注意〕 女袴（後一つ襞）後布の總幅は後幅の凡そ三倍を標準とす。相引の高さは後三つ襞より五・六分低くするを通常とす。

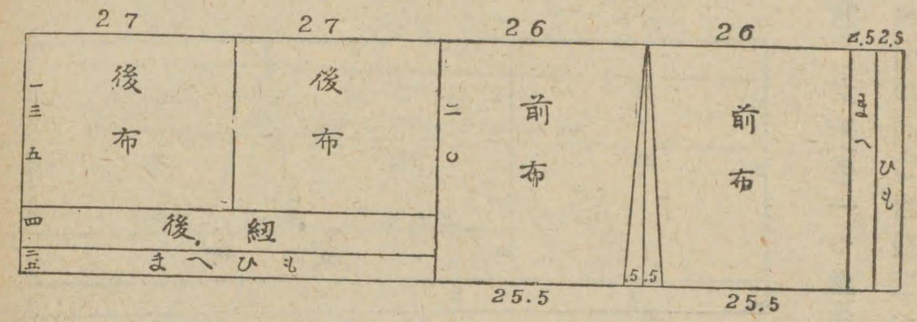
第七　本裁女袴(後重ね襞)

女袴(後重ね襞)後の圖



二尺幅一丈一尺一寸にて

本裁女袴(後一つ襞)の裁ち方並に裁ち切りの寸法



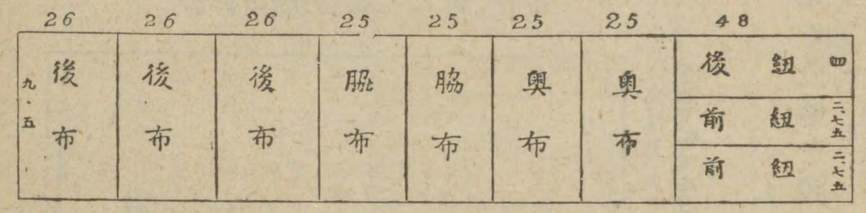
積り方

(用布の總尺－紐幅×2＋前後の差×2)÷4＝後丈

後丈×4－前後の差×2＋紐幅×2＝用布の總尺

後丈－前後の差＝前丈

並幅二丈二尺六寸にて本裁女袴(後一つ襞)の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

{用布の總尺－(後紐丈＋前後の差×3)}÷7＝前丈

{ 226 －(48 ＋ 1 ×3)}÷7＝ 25

前丈＋前後の差＝後丈

25 ＋ 1 ＝ 26

(紐下＋裁ち込み)×7＋前後の差×3＋後紐丈＝用布の總尺

(22 ＋ 3)×7＋ 1 ×3＋ 48 ＝ 226

第八　中裁・小裁女袴普通仕立上げ寸法

年齢 / 各部名稱	十五・六歳	十二・三歳	八・九歳	五・六歳
紐下	二尺一寸	一尺九寸	一尺六寸	一尺三寸
相引	一尺五寸	一尺三寸五分	一尺一寸	八寸
後幅	七寸五分	七寸	六寸五分	五寸五分
後脇幅	五寸六分	五寸二分五厘	四寸九分	四寸一分
後重ね幅	八分	八分	七分	七分
後寄せ襞幅	上九分 下一寸八分	上八分五厘 下一寸七分五厘	上八分 下一寸六分	上七分 下一寸四分
後笹襞幅	一寸四分	一寸三分	一寸二分餘	一寸五厘
腰幅	七寸五分	七寸	六寸五分	五寸五分
前脇幅	四寸五分	四寸二分	三寸九分	三寸三分
前重ね幅	七分	七分	六分	六分
前寄せ襞幅	上七分五厘 下一寸五分	上七分 下一寸四分	上六分五厘 下一寸三分	上五分五厘 下一寸一分
前笹襞幅	一寸一分	一寸五厘	九分餘	八分二厘餘
前紐附幅	八寸	七寸五分	七寸	六寸
前紐	八尺内外	七尺五寸	七尺	六尺
後紐	四尺七寸	四尺五寸	四尺	三尺以上

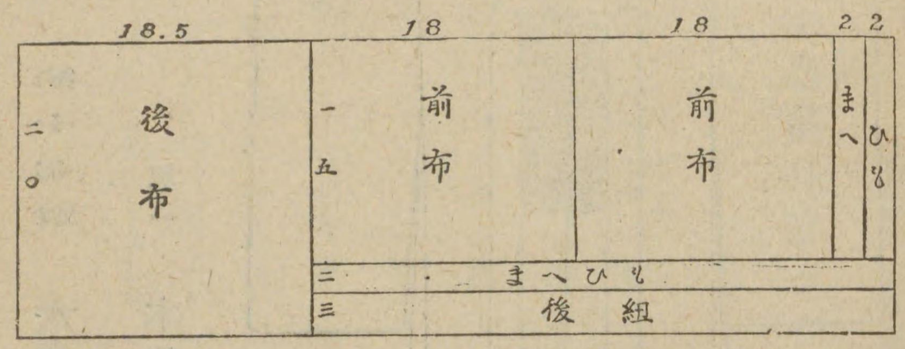
各部寸法割り出し方

紐下は著丈の凡そ十分の六、相引は紐下の凡そ三分の二に一寸を加へたるものとす。其の他は本裁女袴の各部寸法割り出し方に準ずべし。

第九　中裁・小裁女袴裁ち方・積り方

二尺幅五尺八寸五分にて

七八歳用女袴(後一つ襞)の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(用布の總尺－紐幅×2＋前後の差×2)÷3＝後丈

後丈×3－前後の差×2＋紐幅×2＝用布の總尺

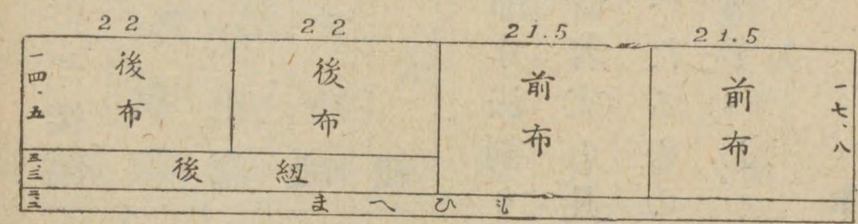
〔設問〕

(1) 本裁女袴の前布及び後布の總幅は各〻何程にて可なりや。

(2) 二尺幅にて、紐下二尺二寸五分の女袴(後三つ襞)を仕立てんには、用布の總尺何程を要するか。又其の裁ち方を圖解し、各部の寸法を記入せよ。

二尺幅八尺七寸にて

十四五歳用女袴(後三つ襞)の裁ち方並に裁ち切り寸法



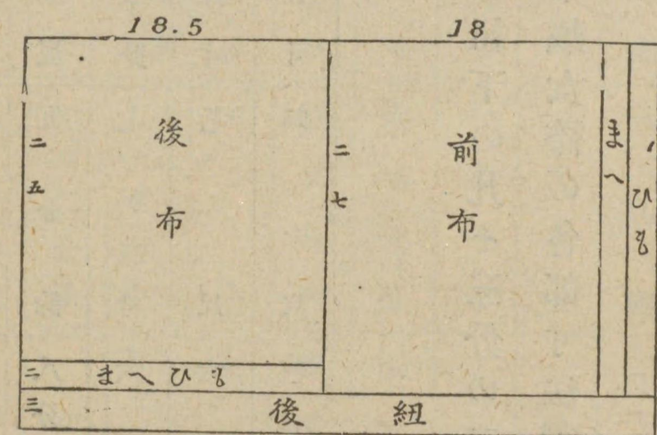
積り方

(用布の總尺＋前後の差×2)÷4＝後丈

後丈×4－前後の差×2＝用布の總尺

三尺幅四尺五分にて

七八歳用女袴(後三つ襞)の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

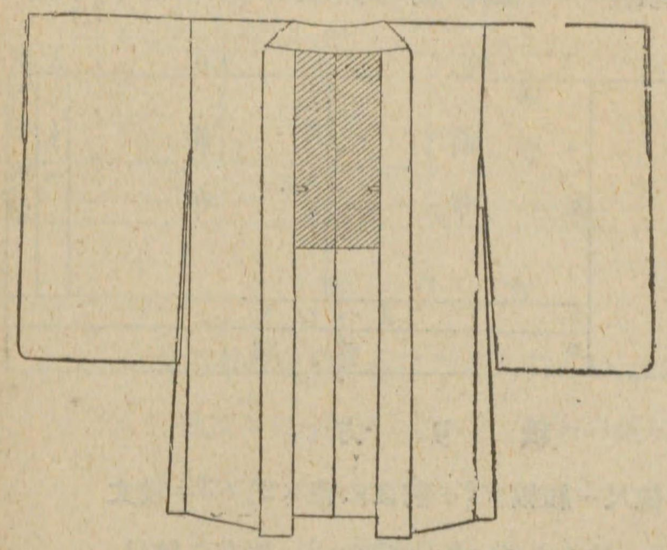
(用布の總尺－紐幅×2＋前後の差)÷2＝後丈

後丈×2－前後の差＋紐幅×2＝用布の總尺

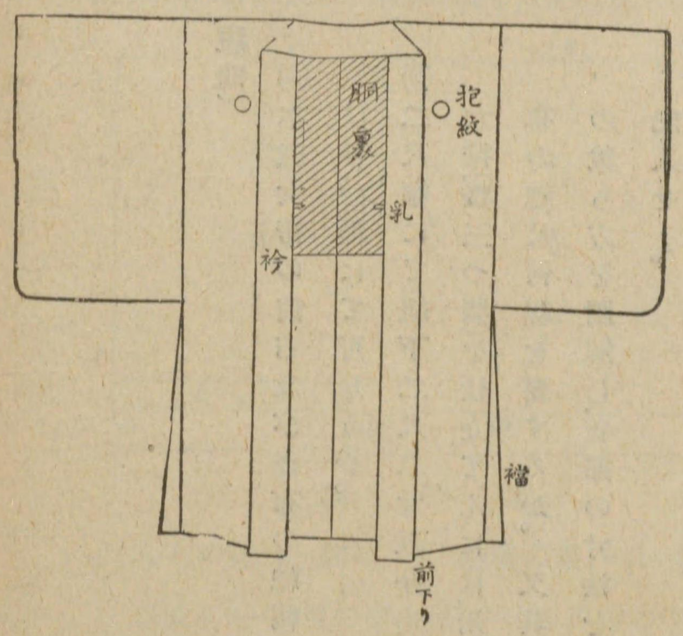
第十七章　本裁女綿入羽織

第一　本裁羽織各部の名稱

本裁女羽織の圖



本裁男羽織の圖



第二　本裁女綿入羽織普通立上げ寸法

羽織の各部仕立上げ寸法は長着の寸法に據り、凡そ左の如く増減すべし。

袖丈……（同寸又は二分増）　袖口……同　寸　袖附……二・三分増

袖幅……一分増　身丈……（着丈の四分の三に一寸増）　衿肩明……一・二分増

身八つ口……五分減　裄……同　寸　後幅……同　寸

前下り……一　寸　乳下り……（脊より凡そ一尺一寸）　襠幅……（上四・五分　下一寸七八分）

衿幅……一寸七・八分

（注意）紋所の位置は凡そ左の如し。

脊紋……衿肩明より一寸七・八分（裁ち切り）　抱紋……肩山より四寸

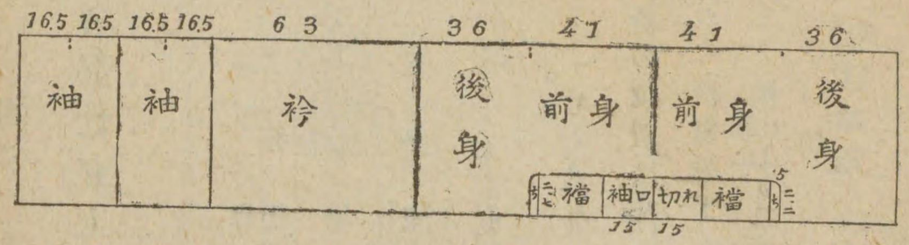
袖紋……袖山より二寸

第三　本裁女綿入羽織裁ち方・積り方

並幅二丈八尺三寸にて

女綿入羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法

（袖丈一尺六寸上り身丈二尺六寸五分）



積り方

{用布の總尺－（袖丈×4＋衿丈＋前後の差×2）}÷4＝後丈

{　283　－（16.5×4＋ 63 ＋　5　×2）}÷4＝ 36

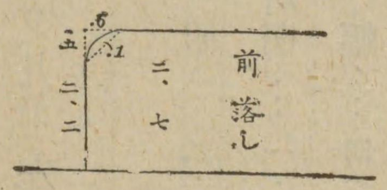
後丈＋前後の差＝前丈

36 ＋　5　＝ 41

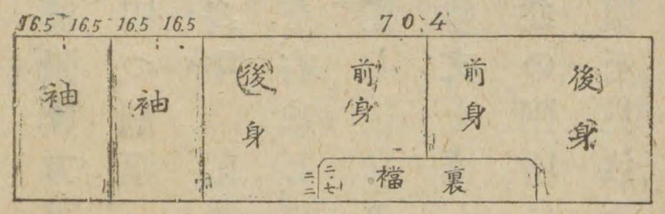
袖丈×4＋（後丈＋前丈）×2＋衿丈＝用布の總尺

16.5×4＋（ 36 ＋ 41 ）×2＋ 63 ＝　283

〔注意〕衿丈は、身丈に、衿肩明・前下り及び衿先の縫ひ代として、凡そ五寸を加へ、之れを二倍して、其の寸法を定むるなり。



同裏布の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

袖丈上り×8＋身丈×10＋總縫ひ代－表用布の總尺＝裏用布の總尺

16×8＋26.5×10＋　26.4　－283　＝136.4

裏用布の總尺－袖丈×4＝胴裏の總尺

136.4　－16.5×4＝　70.4

〔注意〕總縫ひ代の見込み左の如し。

袖……四寸

身頃……四寸

衿肩廻し及び衿先……一尺

前下り……六寸（前下りの一寸、肩繰り越し一分の二倍、縫ひ代の三分を加へ、之れを四倍したるもの）

三つ衿……二寸四分（縫ひ代三分の八倍）

合計　二尺六寸四分

胴裏に餘分を生ずるときは、後身に縫ひ込み置くをよしとす。

〔設問〕

(1) 本裁女綿入羽織の衿丈を積るには如何にすべきか。

(2) 並幅二丈八尺にて本裁女綿入羽織の表布を裁つに當り、袖丈を一尺六寸五

分裁ち切り、身丈を二尺六寸とせば、其の他の裁ち切り寸法は何程なりや。

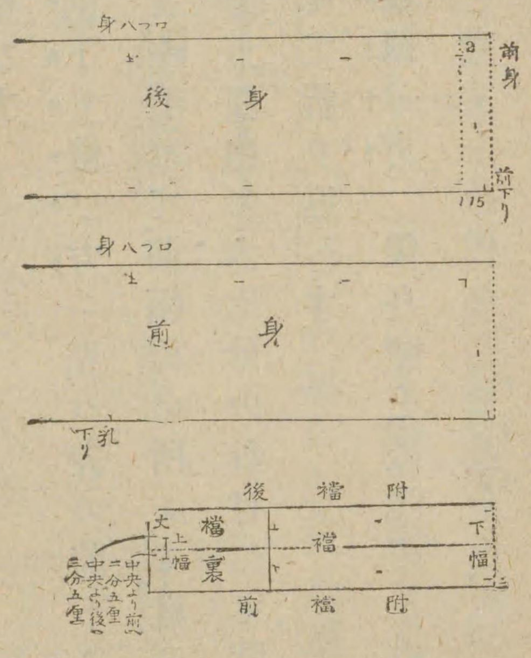
(3)衿肩明の廻し方を圖解すべし。

第四　部分縫　身頃・襠・衿

一、標附け方　練習用布半幅二枚を取り、之れを前後の身頃とし、四つ割幅一枚を襠と見做し、襠の裏切れには別切れを用ふ。

身頃　前後の身頃を取り、各〻表を中にして、二つに折り、輪の方を右にし、後身を一寸三分引きて、前身の上に載せ、身八つ口を標し、後身の裾口に幅標をなし、之れより二分下りて、前身に前脇丈を標し、後身の裾口より一寸一分五厘下りて前丈を標し、此の兩所に尺を渡して、前下りの標をなし、(前丈に一寸一分五厘を見込みたるは、前下りを一寸、表の折り返しを一分、被せを五厘と積りたるなり。又前脇丈に二分を見込みたるは、表の

本裁女綿入羽織
身頃・襠の標附け方



折り返しを一分、被せを五厘、前襠附と後襠附との差を五厘と積りたるなり。)

其れより、後身を除き、前身に身八つ口以下の幅標及び乳下りの標をなし、次に、後身にも同樣幅標をなす。

襠　後身の身八つ口標より裾口までの寸法を計り、これより五厘程引きたるを襠丈とし、襠の上部の縫ひ代五分程を加へ、餘りを表の方へ折り返し、裾を右に、前襠附を手前にし、襠裏と襠との上部を揃へて、襠裏を襠の上に載せ、裾に山標をなし、丈を標し、裾口にて、縫

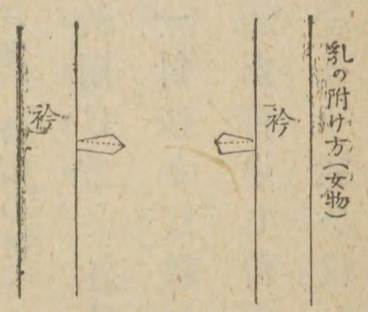
ひ代を二分として、前襠附を標し、一分の被せを見込みて、下幅の標をなし、襠丈の所にて、下幅の中央より後へ三分五厘、前へ二分五厘を計りて、上幅の標をなし、其れより、前後の襠附を標し、次いで襠接ぎの標をなす。

三、縫ひ方

前下り縫ひ方　先づ表の前下り標と、裏の前下り標の二分内とを合せて、前幅標の所まで縫ひ、裏の方へ折り、折り山より一分五厘内に、六七分の針目にて、隱し躾を掛け、表布を一分ふかせて折り返へす。

襠附け方　後身頃と後襠附との裾の折り山を合せ、身八つ口と襠丈との標を合せ、後身を見て縫ひ、後身の方へ折り、又同様に前襠附をなし、前身の方へ折り返し、前身の衿附の方を表裏

女羽織乳の附け方



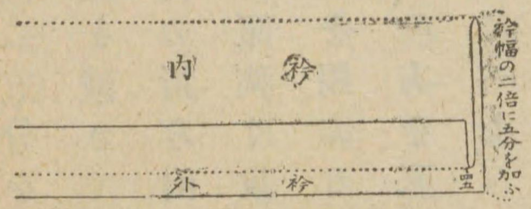
綴ぢ合す。

乳附け方　幅四分丈一寸一分程の切れを用ひ、上圖の如く凡そ一分の幅に、乳を折り、前身の裏に、四・五針通して縫ひ附く。

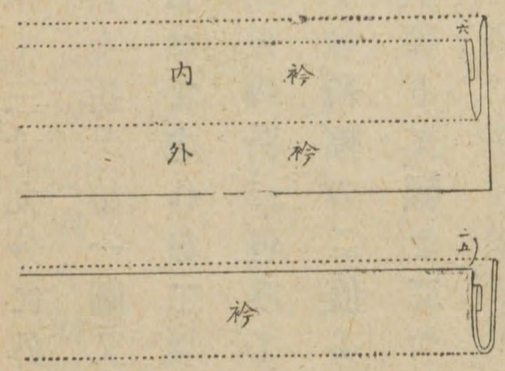
衿折り方　練習用布並幅一枚を衿と見做し、衿幅を一寸七分と定め、先づ、耳の方より、衿幅の二

方り折の衿

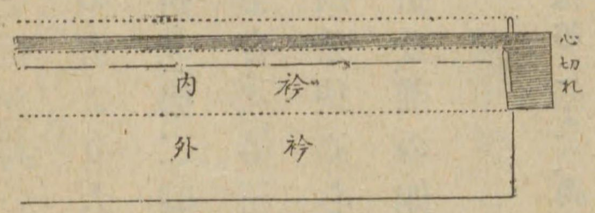
第一圖



第二圖



第三圖



倍に五分を加へて、三寸九分に外衿を折り、其の幅より四分五厘を減きて、内衿を折り、(第一圖)又輪の方より六分内の所に内衿の折り山を合せて、之れを二つに折り、(第二圖)心を衿幅より五厘狹く裁ち切り、内衿に包みて綴ぢ合す。(第三圖)　若し、二枚心を用ふるときは、衿幅の二倍より四分狹く心切れを裁ち切り、一方を三分廣くして、幅を二つに折り、前の如く、内衿に綴ぢ附くべし。

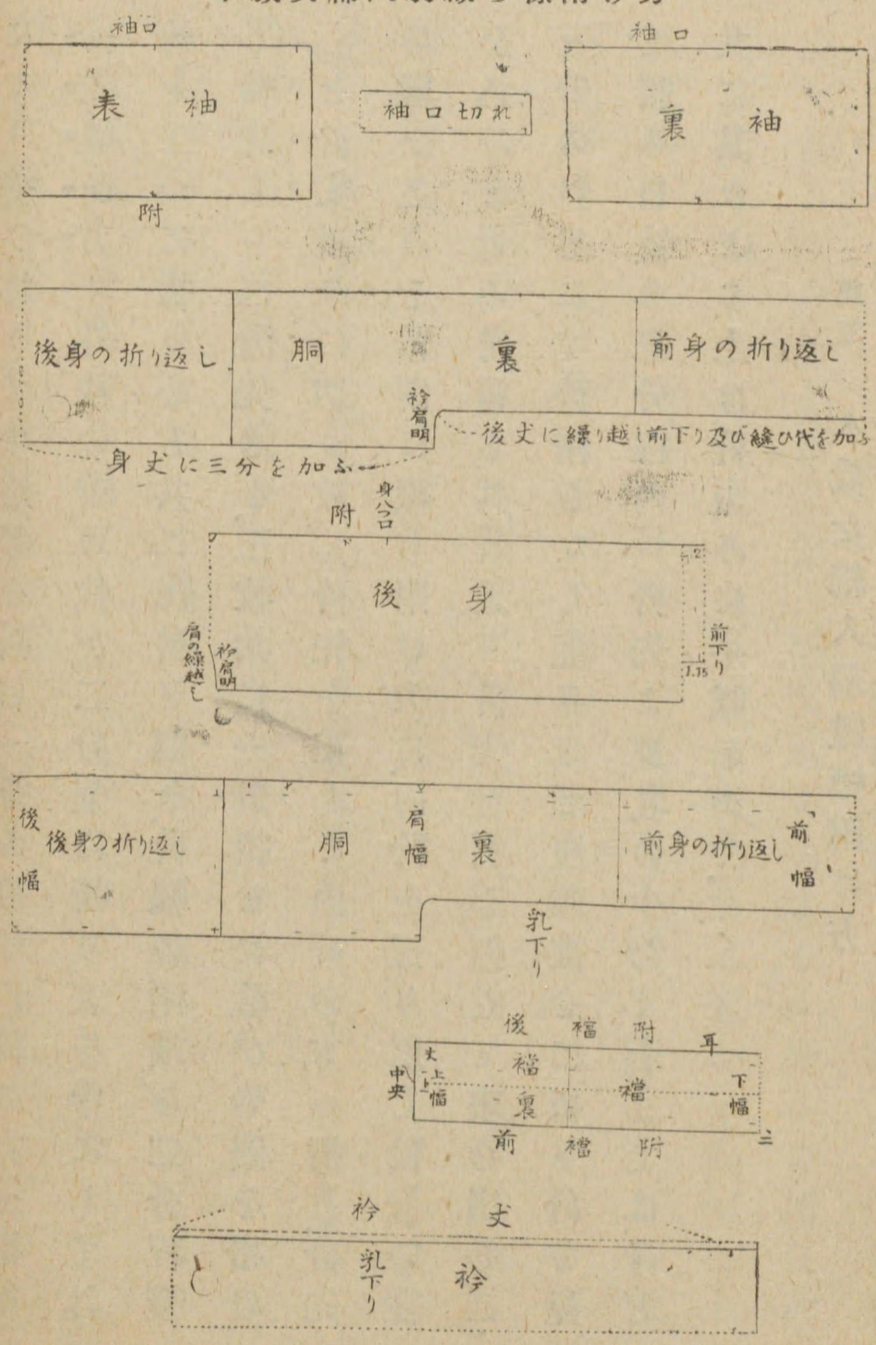
〔注意〕衿幅の折り方に關する寸法は、地質の厚薄等により、多少の酌酌を要す。

衿附け方　外衿の輪の方を前身の裏に合せ、二分の縫ひ代に、一針拔きに縫ひ、上部より乳までは、衿を稍弛めに、乳の所にて三針程返し、衿先の三・四寸上までは平に、其れより衿先までに、前身の縫ひ代を一分五厘程深くし、(衿先の方二・三寸は返し針になす。)縫ひ終りて、平烙鏝を掛け、一分の被せに衿の方へ折る。

衿先縫ひ方　外衿の絎け代を二分强に折り、表を中にして外衿を二つに折り、心と共に内衿を開き、衿幅の兩端を二分程殘し、衿先より二分先きを、三枚共に一針拔きに縫ひ、烙鏝を掛け、心を衿丈限りに切り放し、衿先を正しく内衿の方へ折り、衿先の縫ひ込みを衿附に綴ぢ附け、次に、内衿を折り返し、衿先の縫ひ込みを包みて綴ぢ、其れより、衿先を引き返して表を出し、二・三分の針目にて衿絎をなし、前身を五厘の被せに折り、衿を見て、折り目より三分程内に、(衿先より乳の少しく上までは、身と共に、其れより上は、衿のみに)平躾をかく。

第五　本裁女綿入羽織標附け方

本裁女綿入羽織の標附け方



一、**袖**　本裁女綿入の袖に同じ。

二、**身頃**　表身頃を中表に重ね、衿肩明を手前に、後身頃を左に据ゑ、身丈に三分の縫ひ代を加へて、後丈を標し、其の所より折り返し、後丈に肩の繰り越しと前下り及び其の縫ひ代とを加へて、前丈を標し、又其の所より折り返す。

胴裏を中表に重ね、圖の如く、表身頃の上に載せて、待針を打ち、肩の繰り越しを定め、其の所より、後身頃を折り返して、前身頃に重ね、圖の如く、山・袖附・身八つ口及び脊の縫ひ代を標し、部分縫のときの如く、裾にて後幅の標をなし、之れを前身に移して、前幅の標となし、其れより、前下りの標を附け、次に圖の如く再び後身頃を開きて、前後の身幅・乳下り及び胴接ぎの標をなすなり。胴接ぎの標をなすには、胴裏の下に、厚紙などを挿み、

表に標の通らざる様注意すべし。

三、**襠**　襠を中表に重ね、部分縫のときの如く、之れを折り、襠裏を中表に重ね、上部を揃へて、襠の上に載せ、待針を打ち、丈・裾の折り山・前後の襠附及び襠接ぎの標を附く。

四、**衿**　部分縫のときの如く、衿幅を折り、又丈を二つに折りて、圖の如く、山を標し、衿肩廻し、及び前下りを凡そ四寸と見込み、之れを後丈に加へて、衿丈を標し、次いで、乳下りの標を附く。

第六　本裁女綿入羽織縫ひ方順序

一、**袖**　本裁女綿入に同じ。

二、**身頃**　前後の胴接ぎをなし、部分縫のときの如く、前下りを縫ひ、次に、襠裏を接ぎ、いづれも裏布の方へ折り、躾を掛く。

三、**襠附**　脊を縫ひ、常の如く折り、次に、部分縫のときの如く、後襠附・前襠附を縫ふ。

四、**綿入れ方**　長着のときに同じ。

三、**袖附**　本裁女綿入のときに同じ。

ず唯少しく綿を厚くなしおくべし。但し、裾には別に袍綿を用ひ

五、**絎け方**

裾・裾口より凡そ一寸程上に仮綴をなす。

袖口・身八つ口・長着の絎け方に同じ。

前襠・綴・裾口より表裏の縫ひ目を綴ぢ合す。

前綴・乳附・前身の衿附を表裏合せ、表幅を稍張り目に待針を打ち、前下りの所より衿・肩明を廻り、全體に仮綴をなし、次に、部分縫のときの如く、乳を附く。

衿附　輪の方の衿山を裏身頃の脊筋に合せ、衿肩廻し及び乳下りまでは、衿を稍、弛めに、以下は部分縫のときの如く、待針を打ちて、衿附をなし、其れより、衿先を縫ひ、衿紮(衿肩明の所を成るべく小針に紮け附くべし)。をなして躾をかけ、終りて、表裏の脊縫を、裾口より中程まで、綴ぢ合すなり。

〔設問〕

(1) 本裁女綿入羽織の標附け方を説明せよ。

(2) 本裁女綿入羽織の衿の折り方を説明せよ。

第十八章　本裁男綿入羽織

第一　本裁男綿入羽織普通仕立上げ寸法

袖附……袖丈と同寸　身丈……(着丈の凡そ四分の三)　襠幅……二　寸

衿幅……二　寸

其の他は、本裁女綿入羽織の普通仕立上げ寸法につきて、述べたるが如し。

第二　本裁男綿入羽織裁ち方・積り方

裁ち方に於ては衿肩明を二寸六分とし、内、廻しを五分とするを通常とす。其の他は本裁女綿入羽織に同じ。

並幅二丈八尺にて男綿入羽織の積り方

(袖丈一尺四寸五分上り身丈二尺七寸)

{用布の總尺－(袖丈×4＋衿丈＋前後の差×2)}÷4＝後丈

{　280　－(15×4＋64＋5×2)}÷4＝36.5

後丈＋前丈の差＝前丈

36.5＋5＝41.5

同裏布の積り方

袖丈上り×8＋身丈×10＋總縫ひ代－表用布の總尺＝裏用布の總尺

14.5×8＋27×10＋26.4－280＝132.4

裏用布の總尺－袖丈×4＝胴裏の總尺

132.4－15×4＝72.4